

3月号 (No.101)

1982年3月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 1,500円 1部頒価 150円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東京 4-51709



□「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして、人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。
□原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

一年二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

「ちょっと、いつこんな問題がでたのよ。みんなどういう成り行きから組合が提案してきたのか教えてよ。みんな交代制勤務やる気あるの?」
いつもは組合関係の問題にあまり関心を示さない同僚達も、今度ばかりは違っていた。丁度土曜日で子供の数が少なく、幼児組混合で一人保育につき、乳児も保育が子供をひきつれ0才児クラスに集まってきて、組合の討議資料をひろげ井戸端会議がはじまった。(O保育園で自然発生的な井戸端会議はめずらしい。カリ会議、職員会議とあわせて本音の出せる井戸端会議はせいぜい園庭で子供をみながら三、四人でやる位だ)

Y市に入って二年少しの私を含む四、五人の保育は、今までのY市のとつた保育行政政策から聞かねばならない。Y市が、

一年二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育会等も保育士法案に関する勉強会を重ねる中で、保育の身分保障の問題とからめて保育専門職意識が特に若い保育層を中心に過熱してきた背景もあつたようだ。Y市のブロックごとにもたれる勉強会の報告に、べ

いは二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

一年二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育会等も保育士法案に関する勉強会を重ねる中で、保育の身分保障の問題とからめて保育専門職意識が特に若い保育層を中心に過熱してきた背景もあつたようだ。Y市のブロックごとにもたれる勉強会の報告に、べ

いは二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育会等も保育士法案に関する勉強会を重ねる中で、保育の身分保障の問題とからめて保育専門職意識が特に若い保育層を中心に過熱してきた背景もあつたようだ。Y市のブロックごとにもたれる勉強会の報告に、べ

いは二ヶ月ぶりでまだ育休ボケがさめきれない私を、突然にゆさぶったのは、組合みずから長時間保育(現行時間帯のパートの福祉員が受けもっている朝夕の託児時間へ保育が交代制勤務で入るという案)を提起してきたことであつた。ベビーホテル問題等で厚生省の通達が大頃、O保育園の運動会に見物にいった私は、職員がそろって昼食した後、それとなく園長に長時間保育に関するY市の動きにさぐりをいれてみた。みんなの前で園長はY市当局は公立保育園において、現行の保育時間延長は考えていないようだと話したのだ。 (民間保育園に押しつけたという) 従って、組合からの提案は私にとって寝耳に水だ。職場委員が長時間保育討議資料(十二月二十五日付)を各クラスに回覧してきた時は、血相かえて他クラス保育達の間を走りまわった。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育園ノート 20

橋本紀子

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。

保育の勤務時間を八時半から四時半とし、その後をパートの福祉員で置きなうという時間外託児制度を導入したのは、なにより安上りの保育政策のためという。交代制勤務のとれる体制にするには保育の数をふやす必要があるからである。その当時より、保育専門職をもつ保育熱心な保育達や、革新的保育を要求する人達を中心にY市の保育行政に対する批判があつた。



「新しい家庭科『We』創刊号 3月15日発売
本紙1月号その他で紹介されているWeがいよいよ創刊される。年間購読料五千円(送料共) 申込先『We』書房(東京都三鷹市中原4-4-22)、振替 東京6-59867、 0422-463608

「『交流』一〇〇号記念縮刷版」 2月号で予告しました縮刷版が遂に出来上りました。

「『新しい家庭科』創刊号」 3月15日発売
本紙1月号その他で紹介されているWeがいよいよ創刊される。年間購読料五千円(送料共) 申込先『We』書房(東京都三鷹市中原4-4-22)、振替 東京6-59867、 0422-463608

「『交流』一〇〇号記念縮刷版」 2月号で予告しました縮刷版が遂に出来上りました。

「『新しい家庭科』創刊号」 3月15日発売
本紙1月号その他で紹介されているWeがいよいよ創刊される。年間購読料五千円(送料共) 申込先『We』書房(東京都三鷹市中原4-4-22)、振替 東京6-59867、 0422-463608

「『交流』一〇〇号記念縮刷版」 2月号で予告しました縮刷版が遂に出来上りました。

「『新しい家庭科』創刊号」 3月15日発売
本紙1月号その他で紹介されているWeがいよいよ創刊される。年間購読料五千円(送料共) 申込先『We』書房(東京都三鷹市中原4-4-22)、振替 東京6-59867、 0422-463608

値上げのお願い
昨年1月郵便料の60%値上げをはじめ、封筒代、宛名カードなど紙製品が大巾値上げされていますので、まことに恐縮ですが、来たる4月1日より、本紙の年間購読料を二〇〇〇円(送料込み)、一部売り定価を二〇〇〇円に改訂させて頂きます。ただし、3月末日以前に前納された方は、その予約期間満了まで旧価格のままとなります。これは計算のヤココシをさけるため、従来も採用してきた方法ですので、ご理解下さい。

情報ファイル

「服装を自由化する」と華美になりすぎる、という人達の論拠が成り立たないことは、この例で明らかかといえよう。
中学生がパーマをかけるとうなるか、参考までにわが家の例を報告しておきたい。
うちの息子は、正月のこずかいで突如パーマをかけてきた。正直言って、ほくも母親もパ

自己紹介

私・交流の字植を打っています

E子

手話をやっているといつても手話通訳をする程でなし、ろう者にも覚えが悪いと云われ続けられています。

生活の中でろう者との関わりが少ないから仕方ないといっておっています。

友人は、娘(6才)の通っている保育園のおともだちTちゃんのお母さん。両親ともろう者です。Tちゃん(5才)の妹も耳が聞こえません。両親がろう者なのでTちゃんは言葉を覚えるのと同じペースで手話を身につけていったようです。

娘を通じて、Tちゃんのお母さんを知り、以来、なんだかんだと話しをする仲です。

以前から、娘も含め手話はやってはいたけれど、講習会の中だけで使う健聴者の手話にはどうしてもなじみなくて、なんとか、ろう者と関わる中で手話を覚えたいと思っていました。

ろう者が、すべて手話を使うとは限りません。書いたり、口の動きをみたり等あるわけですが、遊びに来るろうのおばちゃん、手話は、あんまりやらないのか、おまかなところまで「フンフン」返事をする。なぜか娘とはツーカーなのが不思議でなりません。

Tちゃんのお母さんとは、子供が同じ保育園へ通っていることもあり、すぐ親しくなりました。

娘も、ようやく手話を覚える気になったのか、しきりにあの手話はどうやるのときいてくることかふえた。用事のあるときは、おまかな手話を娘に伝える。二、三回で覚え、Tちゃんのお母さんに伝えることもあれば、Tちゃんに手話を教えてもらいながらのこともあります。

私が残業の時、娘はTちゃんの家へ行っている。Tちゃんといけんかをして娘の言い分も聞いてくれるお母さんの影響からか、いつの間にかいろんな手話をしっていました。

子供がけんかをしている時、なにか話している時、Tちゃんのお母さんに、「通訳」を要求される。それなりに伝える中で、新しい手話を知っていきます。

保育園の中で、Tちゃんは暴力的な子で嫌われていると娘が話す。Tちゃんにとって叩くというのは、単に「ねえねえ」と呼ぶだけのことにすぎない。お母さん、お父さんを呼ぶときに使っている合図と同じことしているのに、他の子にとっては叩かれるから嫌になっちゃった。

Tちゃんに力の加減したらと話し、娘には決して暴力ではない合図だとして、お母さんと共に話す。

保育園のことからはじまらず、どう思うかがついてくる。答えるには手話が必要で、何度忘れても教えてくれる。このころになって、たずねる回数も減ってきたと思うのだけれど、彼女は、まだまだといっています。長におつきあいをしたいものです。

他に、月に二回程手話サークルに関わっています。団地の集会所で、第二、第四水曜日PM7時～9時。場所は板橋区高島平で



(トイレよ)

奈良には市民がない、と言ったら奈良の市民が怒るだろうが、少くとも市民運動はない。ここの言い切るゆえには、当地へ来て一、二年間、地方版の集会所の記事を見ては出かけ、知り合った人に尋ねて、こまめに探した時期があるから。

東京時代は、足立のPTAで共産党の教師集団とそのシンパの関わりをくりひろげ、ボロボロになった身をいやすたのが「草の実会」の市民党だった。そのアナゴたちに教科書裁判やミノベ都知事選などで鍛えられた私は、運動や人間が臭いでわかるようになり、「わが党唯一一人の党员」ができた。

当地で真先に押しかけたのが奈良組。全員加入の県教組だからPTAと同じ。眠れる獅子です。からして、教科書裁判県連は開店休業。イデオロギー別は私には不明だったが、集まった数人の教師が発散する臭いに、こりやアカンとは逃げ腰。

旧会員名簿で呼びかけて数回の教科書勉強会をもったが、参加したわずかな母親も竹の塚P

と通じあうものを身につけたい。Tちゃんのお母さんとの出会い、貴重です。

* * *

近所に、三ツ子を産んだ日吉さんがいます。

私は、帝王切開で娘を産みましたが、あまりいい状態のお産がでなくて、今度開くようならえかえしたいと思ってきました。御気軽にどうぞ！

日吉さんから、妊娠3ヶ月と知らされ、いきこんで関わりを断り、いざいざと決意したのですが、なんせ彼女が楽天的というのか、なんというのか。たいした準備もできないままに7ヶ月になって、そのうち三ツ子だとわかり人手を確保しなければ話しあっているさなかに産まれてきたようになっています。わりといいお産だったのがなによりでした。

障害をもった女が子供を産む

うとするとき、育てられるわけがないとか、子供がかわいそうときまりもんくがあびせられる。日吉さんのときにも、「一体どうやって育てるつもりなのかが殆んどで、よかつたね。ってきくことは少なかった。くやしかった。しよせん健全者はおわかってないんだと思ってる。私も軽度障害者だ。一人でしょいこまないで、みんなで少しづつでも関りあっている関係づくりにしたい。いいのいいの。障害をもった女が子供を産む

その後、社会党系の同主旨の運動が発足したが、私は行かない。奈良は特に男の運動(例えば社共の対立)がガンになって女の運動は手をつなげないのだ。ある大学女教授にその可能性を聞いてみたが、まず女の共闘は考えられないという。ミサオの固い私は、故市川房枝氏を団長とした「国際婦人年連絡会」の

市民とは何か、を主張して降りたが、野次はなかった。

翌日の反省会に抗議をするために出席すると、先の男は顔色を変えて私をなじった。あなたの話は余分だった。会の盛り上がりや壊した、と責められた。女も市民だ、人間なのだ、バカ、と言った。若者たちは何も言わず、リブを下を向いていた。社会党に食わしてもらっているのかよ、とその意気地なしにきかされた。以後二度と奈良「市民」とは交わらない。

ナント、足もとに住民運動があった。隣町内の「斑鳩バイパス反対運動」である。超党派の町内ぐるみのそれを、私は好感を抱いて眺め、数人の主婦と仲よくなって読者会を作った。

その住宅に運動発足後に入ってきた東大サンは、「ぼっぱ」という文芸紙と運動紙をかねたミニコミを出し、事務局を引き受け、地方の有名人名になる。「ぼっぱ」に何か書いてくれと頼まれたので、斑鳩日記②のような小文を書いたら読者の総スカンを食い、驚いた東大サンは二度と私をお呼びでない。

その彼がバイパス反対運動の経過を「タタの市民の論理」という一大論文にまとめ、読売ノンフィクション賞を受けた。私はそれを読んで、まだ闘争中の運動に対する彼の冷たい視点をオヤツと思ったが、案の定、皆に上るのと同時だった。私は壇にかけ上がり、マイクを奪った。

私がかかっているのは大阪も同様。市民カラーが弱いのだろうか。

地方紙の女性記者が言った。「奈良で東京の運動をやろうとするから無理なんで、奈良では奈良の運動をやればいいのよ」「私に部落解放運動をやれというの?」「そうよ」

ドッチラケであった。

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記⑤

門野晴子

同時に再び開店休業となる(一面影を、奈良に求めることは諦め、私も含めて個人的な支援は別。)

次に主なもの「国連婦人の十年」の記事を見て出かけた。三十人ほどの女が集い、姓だけの自己紹介が進むので、私は所属団体かやっていると加えてほしいと注文する。すると、記事で来た純主婦は二、三で、他は共産党系団体ばかりに、びつくりこいだ私は逃げ出した。

市民とは何か、を主張して降りたが、野次はなかった。

翌日の反省会に抗議をするために出席すると、先の男は顔色を変えて私をなじった。あなたの話は余分だった。会の盛り上がりや壊した、と責められた。女も市民だ、人間なのだ、バカ、と言った。若者たちは何も言わず、リブを下を向いていた。社会党に食わしてもらっているのかよ、とその意気地なしにきかされた。以後二度と奈良「市民」とは交わらない。

ナント、足もとに住民運動があった。隣町内の「斑鳩バイパス反対運動」である。超党派の町内ぐるみのそれを、私は好感を抱いて眺め、数人の主婦と仲よくなって読者会を作った。

その住宅に運動発足後に入ってきた東大サンは、「ぼっぱ」という文芸紙と運動紙をかねたミニコミを出し、事務局を引き受け、地方の有名人名になる。「ぼっぱ」に何か書いてくれと頼まれたので、斑鳩日記②のような小文を書いたら読者の総スカンを食い、驚いた東大サンは二度と私をお呼びでない。

その彼がバイパス反対運動の経過を「タタの市民の論理」という一大論文にまとめ、読売ノンフィクション賞を受けた。私はそれを読んで、まだ闘争中の運動に対する彼の冷たい視点をオヤツと思ったが、案の定、皆に上るのと同時だった。私は壇にかけ上がり、マイクを奪った。

奈良には市民がない、と言ったら奈良の市民が怒るだろうが、少くとも市民運動はない。ここの言い切るゆえには、当地へ来て一、二年間、地方版の集会所の記事を見ては出かけ、知り合った人に尋ねて、こまめに探した時期があるから。

東京時代は、足立のPTAで共産党の教師集団とそのシンパの関わりをくりひろげ、ボロボロになった身をいやすたのが「草の実会」の市民党だった。そのアナゴたちに教科書裁判やミノベ都知事選などで鍛えられた私は、運動や人間が臭いでわかるようになり、「わが党唯一一人の党员」ができた。

当地で真先に押しかけたのが奈良組。全員加入の県教組だからPTAと同じ。眠れる獅子です。からして、教科書裁判県連は開店休業。イデオロギー別は私には不明だったが、集まった数人の教師が発散する臭いに、こりやアカンとは逃げ腰。

旧会員名簿で呼びかけて数回の教科書勉強会をもったが、参加したわずかな母親も竹の塚P

私がかかっているのは大阪も同様。市民カラーが弱いのだろうか。

地方紙の女性記者が言った。「奈良で東京の運動をやろうとするから無理なんで、奈良では奈良の運動をやればいいのよ」「私に部落解放運動をやれというの?」「そうよ」

ドッチラケであった。

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記⑤

門野晴子

同時に再び開店休業となる(一面影を、奈良に求めることは諦め、私も含めて個人的な支援は別。)

次に主なもの「国連婦人の十年」の記事を見て出かけた。三十人ほどの女が集い、姓だけの自己紹介が進むので、私は所属団体かやっていると加えてほしいと注文する。すると、記事で来た純主婦は二、三で、他は共産党系団体ばかりに、びつくりこいだ私は逃げ出した。

市民とは何か、を主張して降りたが、野次はなかった。

翌日の反省会に抗議をするために出席すると、先の男は顔色を変えて私をなじった。あなたの話は余分だった。会の盛り上がりや壊した、と責められた。女も市民だ、人間なのだ、バカ、と言った。若者たちは何も言わず、リブを下を向いていた。社会党に食わしてもらっているのかよ、とその意気地なしにきかされた。以後二度と奈良「市民」とは交わらない。

ナント、足もとに住民運動があった。隣町内の「斑鳩バイパス反対運動」である。超党派の町内ぐるみのそれを、私は好感を抱いて眺め、数人の主婦と仲よくなって読者会を作った。

その住宅に運動発足後に入ってきた東大サンは、「ぼっぱ」という文芸紙と運動紙をかねたミニコミを出し、事務局を引き受け、地方の有名人名になる。「ぼっぱ」に何か書いてくれと頼まれたので、斑鳩日記②のような小文を書いたら読者の総スカンを食い、驚いた東大サンは二度と私をお呼びでない。

その彼がバイパス反対運動の経過を「タタの市民の論理」という一大論文にまとめ、読売ノンフィクション賞を受けた。私はそれを読んで、まだ闘争中の運動に対する彼の冷たい視点をオヤツと思ったが、案の定、皆に上るのと同時だった。私は壇にかけ上がり、マイクを奪った。

奈良には市民がない、と言ったら奈良の市民が怒るだろうが、少くとも市民運動はない。ここの言い切るゆえには、当地へ来て一、二年間、地方版の集会所の記事を見ては出かけ、知り合った人に尋ねて、こまめに探した時期があるから。

東京時代は、足立のPTAで共産党の教師集団とそのシンパの関わりをくりひろげ、ボロボロになった身をいやすたのが「草の実会」の市民党だった。そのアナゴたちに教科書裁判やミノベ都知事選などで鍛えられた私は、運動や人間が臭いでわかるようになり、「わが党唯一一人の党员」ができた。

当地で真先に押しかけたのが奈良組。全員加入の県教組だからPTAと同じ。眠れる獅子です。からして、教科書裁判県連は開店休業。イデオロギー別は私には不明だったが、集まった数人の教師が発散する臭いに、こりやアカンとは逃げ腰。

旧会員名簿で呼びかけて数回の教科書勉強会をもったが、参加したわずかな母親も竹の塚P

私がかかっているのは大阪も同様。市民カラーが弱いのだろうか。

地方紙の女性記者が言った。「奈良で東京の運動をやろうとするから無理なんで、奈良では奈良の運動をやればいいのよ」「私に部落解放運動をやれというの?」「そうよ」

ドッチラケであった。

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記⑤

門野晴子

同時に再び開店休業となる(一面影を、奈良に求めることは諦め、私も含めて個人的な支援は別。)

次に主なもの「国連婦人の十年」の記事を見て出かけた。三十人ほどの女が集い、姓だけの自己紹介が進むので、私は所属団体かやっていると加えてほしいと注文する。すると、記事で来た純主婦は二、三で、他は共産党系団体ばかりに、びつくりこいだ私は逃げ出した。

市民とは何か、を主張して降りたが、野次はなかった。

翌日の反省会に抗議をするために出席すると、先の男は顔色を変えて私をなじった。あなたの話は余分だった。会の盛り上がりや壊した、と責められた。女も市民だ、人間なのだ、バカ、と言った。若者たちは何も言わず、リブを下を向いていた。社会党に食わしてもらっているのかよ、とその意気地なしにきかされた。以後二度と奈良「市民」とは交わらない。

ナント、足もとに住民運動があった。隣町内の「斑鳩バイパス反対運動」である。超党派の町内ぐるみのそれを、私は好感を抱いて眺め、数人の主婦と仲よくなって読者会を作った。

その住宅に運動発足後に入ってきた東大サンは、「ぼっぱ」という文芸紙と運動紙をかねたミニコミを出し、事務局を引き受け、地方の有名人名になる。「ぼっぱ」に何か書いてくれと頼まれたので、斑鳩日記②のような小文を書いたら読者の総スカンを食い、驚いた東大サンは二度と私をお呼びでない。

その彼がバイパス反対運動の経過を「タタの市民の論理」という一大論文にまとめ、読売ノンフィクション賞を受けた。私はそれを読んで、まだ闘争中の運動に対する彼の冷たい視点をオヤツと思ったが、案の定、皆に上るのと同時だった。私は壇にかけ上がり、マイクを奪った。

奈良には市民がない、と言ったら奈良の市民が怒るだろうが、少くとも市民運動はない。ここの言い切るゆえには、当地へ来て一、二年間、地方版の集会所の記事を見ては出かけ、知り合った人に尋ねて、こまめに探した時期があるから。

東京時代は、足立のPTAで共産党の教師集団とそのシンパの関わりをくりひろげ、ボロボロになった身をいやすたのが「草の実会」の市民党だった。そのアナゴたちに教科書裁判やミノベ都知事選などで鍛えられた私は、運動や人間が臭いでわかるようになり、「わが党唯一一人の党员」ができた。

当地で真先に押しかけたのが奈良組。全員加入の県教組だからPTAと同じ。眠れる獅子です。からして、教科書裁判県連は開店休業。イデオロギー別は私には不明だったが、集まった数人の教師が発散する臭いに、こりやアカンとは逃げ腰。

旧会員名簿で呼びかけて数回の教科書勉強会をもったが、参加したわずかな母親も竹の塚P

私がかかっているのは大阪も同様。市民カラーが弱いのだろうか。

地方紙の女性記者が言った。「奈良で東京の運動をやろうとするから無理なんで、奈良では奈良の運動をやればいいのよ」「私に部落解放運動をやれというの?」「そうよ」

ドッチラケであった。

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記⑤

門野晴子

同時に再び開店休業となる(一面影を、奈良に求めることは諦め、私も含めて個人的な支援は別。)

次に主なもの「国連婦人の十年」の記事を見て出かけた。三十人ほどの女が集い、姓だけの自己紹介が進むので、私は所属団体かやっていると加えてほしいと注文する。すると、記事で来た純主婦は二、三で、他は共産党系団体ばかりに、びつくりこいだ私は逃げ出した。

市民とは何か、を主張して降りたが、野次はなかった。

翌日の反省会に抗議をするために出席すると、先の男は顔色を変えて私をなじった。あなたの話は余分だった。会の盛り上がりや壊した、と責められた。女も市民だ、人間なのだ、バカ、と言った。若者たちは何も言わず、リブを下を向いていた。社会党に食わしてもらっているのかよ、とその意気地なしにきかされた。以後二度と奈良「市民」とは交わらない。

ナント、足もとに住民運動があった。隣町内の「斑鳩バイパス反対運動」である。超党派の町内ぐるみのそれを、私は好感を抱いて眺め、数人の主婦と仲よくなって読者会を作った。

その住宅に運動発足後に入ってきた東大サンは、「ぼっぱ」という文芸紙と運動紙をかねたミニコミを出し、事務局を引き受け、地方の有名人名になる。「ぼっぱ」に何か書いてくれと頼まれたので、斑鳩日記②のような小文を書いたら読者の総スカンを食い、驚いた東大サンは二度と私をお呼びでない。

その彼がバイパス反対運動の経過を「タタの市民の論理」という一大論文にまとめ、読売ノンフィクション賞を受けた。私はそれを読んで、まだ闘争中の運動に対する彼の冷たい視点をオヤツと思ったが、案の定、皆に上るのと同時だった。私は壇にかけ上がり、マイクを奪った。

奈良には市民がない、と言ったら奈良の市民が怒るだろうが、少くとも市民運動はない。ここの言い切るゆえには、当地へ来て一、二年間、地方版の集会所の記事を見ては出かけ、知り合った人に尋ねて、こまめに探した時期があるから。

東京時代は、足立のPTAで共産党の教師集団とそのシンパの関わりをくりひろげ、ボロボロになった身をいやすたのが「草の実会」の市民党だった。そのアナゴたちに教科書裁判やミノベ都知事選などで鍛えられた私は、運動や人間が臭いでわかるようになり、「わが党唯一一人の党员」ができた。

当地で真先に押しかけたのが奈良組。全員加入の県教組だからPTAと同じ。眠れる獅子です。からして、教科書裁判県連は開店休業。イデオロギー別は私には不明だったが、集まった数人の教師が発散する臭いに、こりやアカンとは逃げ腰。

旧会員名簿で呼びかけて数回の教科書勉強会をもったが、参加したわずかな母親も竹の塚P

私がかかっているのは大阪も同様。市民カラーが弱いのだろうか。

地方紙の女性記者が言った。「奈良で東京の運動をやろうとするから無理なんで、奈良では奈良の運動をやればいいのよ」「私に部落解放運動をやれというの?」「そうよ」

ドッチラケであった。

(こんにちわ)

無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」 前林則子 No.5

〈Mとの再会〉

先号にてMと新宿駅で再会したことを書き、その際は「偶然」の再会を強調しましたが、それにはわけがあるのです。

京都旅行から帰ってきた私は卒論準備と教育実習の準備が待っており、多忙でした。といっても卒論のテーマはまだ決まっていなかったため、私は知人から国語教師をしているA氏を紹介してもらい、卒論と教育実習のアドバイスをうけました。

Mと偶然新宿駅で再会した日というのは、新宿の喫茶店でA氏と会った日でした。その日のA氏はいつもと違って、文学の話ではなく、彼自身のことを語り始め、最後に「君を結婚の対象に考えている」と言いま

出した。私は驚き、その日はA氏の言葉をじっくり考えてみたいと思ひました。小さい頃から、学校卒業し結婚というには抵抗がなかったものの、現実結婚申し込みをされると、自分がそんな年齢になつていのか、という驚き

にサークルを作ったことが少し奇異を感じていました。また、新宿駅でMと一緒にいた男の人達も東大男子部社研の人達で、私は法大ではじめて彼らを紹介されました。同時に

法大には江口さんも来ており、私がMと音信不通の間、彼はこういう人達と交際があったのかと思ひ、何かチグハグな印象を受けました。

その後、L研の部室にいた男の人達がやせて、栄養失調気味に見えたと、おにぎりを作ってもらってあげたりL研へ出入りするようになり

というわけで、もしA氏から結婚の話が出なかったならば私は総武線には乗らなかったろうし、新宿駅でMと再会したのも偶然の作用が働いているように思ふのです。Mと再会しなかつたならば、L研へ出入りすること

もなかったでしょう。一九六九年は、時代的にも

前回は「校内暴力」をめぐるデッチ上げについて書いた。数えてみると、ぼくたちの周辺には、デッチ上げがずいぶんある。国家権力によるデッチ上げとしては、本紙連載の前林さん達、70号の小野悦男さん、56号の甲山事件、51号の島田事件、10号の狭山事件など枚挙にいとまがないほど……。

「B派は60安保頃から約10年間いわゆる党派レベルの政治運動に開いてたが、その中でもデッチ上げと思われる中傷がずいぶんあった。」「Aは〇〇派の手先だ。」「Bは権力からカネをもらって」等々。大体そういう話は派閥対立等々からんでいて、相手をやりこめる材料に使われることが多い。ぼくらの属した党派はルーズだったから、その程度で済んだが、一時期の共産党では、往々にして、デッチ上げが人命にかかわるリ

「B派の幹部宅を襲撃したらお前の電話番号を書いたノートが出てきた。お前はB派のシンパだろう」と言う。 「関係ない」と断ると 「ではB派と関係ないことを声明する文書を提出しろ」と言う。 「そんな義理はない」と言い争っているうちにケンカになり、「お前を血祭りにあげるから首を洗って待つてろ」と捨てぜりふ。そんな電話が数回かかってくと、まさかとは思ひつつも、A派の残忍なテロの状況

を新聞で読み知っているこちらとしては、数ヶ月の間、枕を高くして寝ることができなかった。これと同じ論理を警察も使っている。 丁度一年ぐらい前、ぼくは突然、神奈川県警の刑事3人の訪問を受けた。 「県下で起きたC子殺人事件を捜査している。C子の手帳か

しかし、あとで救援センターにその話をしたら叱られてしまった。 「黙して追返すべきだ」と言う。なるほど、考えてみると、誰だつていつも確実なアリバイがあるとは限らないし、逆にそのアリバイを利用して、新たなデッチ上げにまきこまれる可能性もある。恐しいことだと思った。

ぼくなどは、ミニコミを出したり、いくつかの運動体に属しているから、ぼくの知らない人のノートにぼくの電話がのつても不思議ではない。そんなことも、攻撃や捜査の手がかりにされるのである。 長い間運動している、いい友人と出合えて嬉しいことも多いが、思いがけない敵があらわ

来て、わけの分らないデッチ上げ攻撃を受けることもある。本紙61、62、63号の「論争広場」に、「敢えて共同保育を問う」という文章を書いた人（以下、Iと略称）もその攻撃者の一人で、2年ほど前から「ぼく」にレイプされたか」といふとんでもないデマをあちこちでふれ歩いてらるらしい。

共同保育の不充分性を悪しざまに非難する姿勢に疑問を投げかけておいた。しかし…… Iのこの一方的な攻撃姿勢は別の運動体の中でも発揮されたので、ぼくは更に批判的な態度を表明せざるをえなくなった。(79年6月号の編集後記)

Iとはいくつかの運動体の場で顔を合わせていたから、こうしたぼくの批判的態度を逆うらみするようになったらしい。 80年1月号の編集後記に書いたように、ある集会の場で、Iは突然、ぼくやぼくの仲間たちに対する、デッチ上げとワイ曲に満ちた文書をバラまいた。 その時、ぼくは大変ううつな気持ちで胸をふさがれながら、こう思った。もしこのまま、ぼくが運動体の場でIと対面しつづけるとすれば、ぼくも対抗上Iとトコトン争わざるをえず、二人の対立で、運動体そのものはメタメタになるだろう。そう



ぼくはデッチ上げに困る

根みをこめて言うよと、「だってまさかそんなウソをつく人がいるとは思われないもの」と、これも確かに無理からぬ話なのだ。 三つめの型は、Iの話を頭から信じこんでしまつて、更に他人に言いふらす人。これも少数だがいるらしい。こればかりはどうしようもない。 いずれ時間の経過と共に、Iのウソに気が付くようになるのを期待する他はない。 デッチ上げを見抜く眼は、結局のところ、人間そのものをどこまで深く感じとれるか、という問題であるように思う。 その意味では、デマは人間関係の程度をテストする残酷なりトマス紙とも言えようか。 それにしても、こんなひどいウソのつくる人の精神の荒廃がどんなものかを考えるとき、暗然たる気持ちにならざるをえない。

「伝言板につき」
●青時連の集り（メーデーにむけての相談、その他）
日時 3月31日(水)夜7時
会場 中野新井老人会館

近況報告
二月十七日の増野さんの出版記念パーティは、渋谷勤労福祉会館まで行ったものの、公判準備の仕事があつて、会場内へ入る時間がなく、残念でした。でも入口から会場をみたら、たくさんの方が集まつており、増野さんの交友の広さを感じさせました。増野さんの背広姿を始めてみせていただきましたが、ちよつと緊張気味だったみたいで、四回になりましたが、社会の動きと、個人の恋愛を一緒に書いていくというの、ともするとどちらか一方にのめり込んで行くようすです。 先号は増野君とのことについて込みすぎたかな、と思ひます。当時、どういふ感情をも

「ジャーナリズム研究会」
大学四年生になった時、私は友人と一緒に「ジャーナリズム研究会」を作りました。ベトナム反戦・反安保・大学問題で社会的運動がひろがっている時、百百合でもそれらの問題を考えてみたいと思ひ、サークルを作ったのです。といって社研などという名称では大学側は認めないだろうし、私達もジャーナリズム問題なら、何でも結びつけることが出来ると思ひ、ジャーナリズムとして足立させました。 新入生を勧誘したあと、読書会や勉強会をやりましたが、大学側の規制を気にしなければならなかったのと、社会問題を何でもジャーナリズム問題に結びつけることが出来るというあいまいさのため、研究会の目的が中途半端になってしまいました。 それにしても今、振り返ってみると、私が大学四年になつた一九六九年は、時代的にも

「レーニン主義研究会」
法政大学へ入学したあと、Mはレーニン主義研究会（L研と略す）を作ったとのこと、その部室に案内してくれました。部室にはキューバの恋人のアルバイトで顔をみたことのあるH君や村松君がいました。H君などは新宿フーテン族と言われていることなかつたでしょうし、

「レニーニ主義研究会」
法政大学へ入学したあと、Mはレーニン主義研究会（L研と略す）を作ったとのこと、その部室に案内してくれました。部室にはキューバの恋人のアルバイトで顔をみたことのあるH君や村松君がいました。H君などは新宿フーテン族と言われていることなかつたでしょうし、

「レニーニ主義研究会」
法政大学へ入学したあと、Mはレーニン主義研究会（L研と略す）を作ったとのこと、その部室に案内してくれました。部室にはキューバの恋人のアルバイトで顔をみたことのあるH君や村松君がいました。H君などは新宿フーテン族と言われていることなかつたでしょうし、

「レニーニ主義研究会」
法政大学へ入学したあと、Mはレーニン主義研究会（L研と略す）を作ったとのこと、その部室に案内してくれました。部室にはキューバの恋人のアルバイトで顔をみたことのあるH君や村松君がいました。H君などは新宿フーテン族と言われていることなかつたでしょうし、

「レニーニ主義研究会」
法政大学へ入学したあと、Mはレーニン主義研究会（L研と略す）を作ったとのこと、その部室に案内してくれました。部室にはキューバの恋人のアルバイトで顔をみたことのあるH君や村松君がいました。H君などは新宿フーテン族と言われていることなかつたでしょうし、



黒山 秩子著

おお子育て

評者 皆川珂奈江

またまた紹介したい本に出逢ってしまった。いい女や男と出逢った時の嬉しきは格別だがいい本に出逢うのもそれに劣らず得難いものだ。著者の黒山秩子さんから、朝日新聞(1/4付朝刊)の自立に関する私の小さなコメントを、読んで同業者としての親近感等からということでお送りいただいたのがこの「おお子育て」。マスコミに対するアンチとしてミニコミを発行し続けている身であるが、

こんなプレゼントがあるのなら、たまにはマスコミもいもんだなどと勝手に思ったりしながら、担当記者の佐藤洋子さんに感謝して、この本、まず彼女のベイトリティーに圧倒される。何しろ、七人のわが子と保育所の「子供達」と副題にあるように、今時七人を産み育てながら、重労働の部類に属する保育現場で日々子供達と格闘してきた実践記録なのだ。

力団日の本組のよう。知らない人が見たら本気にしかねない。異常のない人こそ正常らしくないと思うのだが、精神鑑定についても言及している親切性。言うか後進性あるいは停滞性。その逆行前の停滞さみの頃、アフリカ人(アルジェリア)が四人、日本にきた。

その中には一年もいて車を買って帰る奴もいる。この不可解な気前の良さが、肉を切らせて骨を切る商社一流の手口だなどと、彼らと知ったことではない残念さ。

またまた紹介したい本に出逢ってしまった。いい女や男と出逢った時の嬉しきは格別だがいい本に出逢うのもそれに劣らず得難いものだ。著者の黒山秩子さんから、朝日新聞(1/4付朝刊)の自立に関する私の小さなコメントを、読んで同業者としての親近感等からということでお送りいただいたのがこの「おお子育て」。マスコミに対するアンチとしてミニコミを発行し続けている身であるが、

その中には一年もいて車を買って帰る奴もいる。この不可解な気前の良さが、肉を切らせて骨を切る商社一流の手口だなどと、彼らと知ったことではない残念さ。

その中には一年もいて車を買って帰る奴もいる。この不可解な気前の良さが、肉を切らせて骨を切る商社一流の手口だなどと、彼らと知ったことではない残念さ。

その中には一年もいて車を買って帰る奴もいる。この不可解な気前の良さが、肉を切らせて骨を切る商社一流の手口だなどと、彼らと知ったことではない残念さ。



丸山博

丸山博



らんがぎ ころり

らんがぎ ころり

らんがぎ ころり

らんがぎ ころり

らんがぎ ころり

編集後記

「保育園ノート」は番外編も含めて通し番号にしました。内容的にも連続していると思えますので……

「保育園ノート」は番外編も含めて通し番号にしました。内容的にも連続していると思えますので……

「保育園ノート」は番外編も含めて通し番号にしました。内容的にも連続していると思えますので……

4月号 (No.102)

1982年4月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話(03)385-2293
郵便振替 東京 4-51709



「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして、人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。

原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

厚く生、少くは

ベビーホテル問題と保育時間 延長をめぐる討論集実行委員会

(編注) 本紙97、98号既報のよ
うに、昨年10月5日、「ベビー
ホテル問題と保育時間延長を
めぐる討論集」を開いて以来、
実行委員会では何度も話し合
を重ねてきたが、3月16日、次
のような質問書を厚生省に提出
した。担当の課長補佐氏は、当
日参加した6人のメンバーに對
して、会見人員を二人に制限、約
40分間の話し合いに際した。
当局側は、質問の申す通り
一つもできず、ひたすら現場の
創意工夫に期待するという姿勢
だった。実行委員会としては、
近いうちに更に本格的な大衆交

つても、その中には、営利目的
で育児を手段化している所もあ
れば、親たちの自主的運営によ
り、設備的には貧しくとも、小
規模で血の通った(むしろ大規
模で管理保育化の傾向の強い公
立保育園では得られないような
ユニークな保育実践をしている
所もあります。そういう所では
例えば無農薬野菜の共同購入に
よる食物の改善など、公立保育
所とは別の意味で、子どもたち
の未来への心配りを行っている保
育者、親も多いのです。
それが、ベビーホテルへの法
的規制によって、あたかもタラ
イの水と共に赤ちゃんを流し
てしまうような結果にならない
のか、そういう問題について行
政当局がどうしようにお考えなの
か、お聞き下さい。

「預ける側への影響について」
従来、基準労働八時間、保育
時間も八時間として、通勤に要
する時間平均二時間のギャップ
は、男女いずれかによる育児時
間の取得によって解決すること
が望ましい、という考え方が私
たちの中には強くありました。
諸外国から指摘されている「日
本人の働きすぎ」も、こうした
生活重視の考え方の導入によっ
て解消の方向が見出せるのでは
ないかと考えます。しかし、公
立認可保育所で長時間保育が
実施されるようになれば、「育
児時間は必要ない」という反論
が企業サイドから主張されるこ
との程度、長時間保育が実施さ
れようとしているのか、ご説明
願います。(以上)
一九八二年三月十六日
森下厚生大臣殿

友人のA君宅で机の上に税金
の督促状なんかと一緒に無雑作
におかれてあったのを目にした
のが、「交流」との最初の出会い
なのですが、その題字のデザイ
ンが涼風をそよ風鈴をイメージ
させたことを今も鮮明に覚えて
います。87号に始まった「交
流」とのつき合いです。その
一〇〇号におよぶ歴史からすれば
私たちがほんのかけ出しの
読者にすぎなかったのに、この
縮刷版が発行されたおかげで私
たちは一気に創刊以来の読者と
いうことになったのです。

「交流」が創刊された73年は
私たちが子供が生まれた
忘れられない年でもあります。
都会のアパートの一室で、生ま
れたばかりの赤ん坊を前に途方
にくれてはいた私たちが、子供を
育てていく上であれもこれも直
するさまざまな悩みに行き当た
り、その頃、「交流」がちょうど
そうした問題とガッパり四つに
組み合っていたことも知らず、

「交流」が創刊された73年は
私たちが子供が生まれた
忘れられない年でもあります。
都会のアパートの一室で、生ま
れたばかりの赤ん坊を前に途方
にくれてはいた私たちが、子供を
育てていく上であれもこれも直
するさまざまな悩みに行き当た
り、その頃、「交流」がちょうど
そうした問題とガッパり四つに
組み合っていたことも知らず、

交流の軌跡と私たち

二〇〇号記念縮刷版を
パラパラめくって

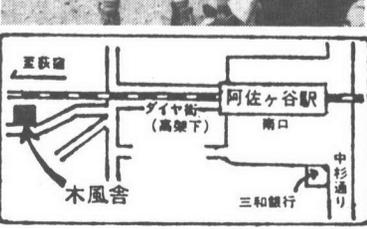
遠藤伸夫・久美子

「交流」が創刊された73年は
私たちが子供が生まれた
忘れられない年でもあります。
都会のアパートの一室で、生ま
れたばかりの赤ん坊を前に途方
にくれてはいた私たちが、子供を
育てていく上であれもこれも直
するさまざまな悩みに行き当た
り、その頃、「交流」がちょうど
そうした問題とガッパり四つに
組み合っていたことも知らず、

「交流」が創刊された73年は
私たちが子供が生まれた
忘れられない年でもあります。
都会のアパートの一室で、生ま
れたばかりの赤ん坊を前に途方
にくれてはいた私たちが、子供を
育てていく上であれもこれも直
するさまざまな悩みに行き当た
り、その頃、「交流」がちょうど
そうした問題とガッパり四つに
組み合っていたことも知らず、

「交流」が創刊された73年は
私たちが子供が生まれた
忘れられない年でもあります。
都会のアパートの一室で、生ま
れたばかりの赤ん坊を前に途方
にくれてはいた私たちが、子供を
育てていく上であれもこれも直
するさまざまな悩みに行き当た
り、その頃、「交流」がちょうど
そうした問題とガッパり四つに
組み合っていたことも知らず、

阿佐ヶ谷駅近くに 「木風舎」開店(4/24)



自然と共に生きる本のお店「木
風舎」が4月24日にオープンす
る。店主は橋谷晃、井上令子の
金曜の夜、英会話クラス(黒沢
ご両人、ともに「男の子育てを
考える会」のメンバーで、山登
りの大好きなカップル。
扱う本は、エコロジー、くら
し、食、農、からだ、女と男、
子育て、山、動物、星、など
など……。店内には「座り読み」
用の椅子やお茶の他、赤ちゃん
のオムツ交換スペースも用意し
てある。営業時間は午前11時か
ら夜7時。定休日は火曜日。
木風舎の奥には畳15帖のフリ
ースペース「阿佐ヶ谷ひろば」
があり、講座やイベント、仲間
たちとの集会用に使用する場合
とができる。
5月から始まる講座としては
月曜の夜、太極拳(柳川命子)、
火曜の夜、ノース入門(メキ
シコからの魂のメッセージ。ミ
ゲル・ネリ)。
水曜の夜(第一、三)ギター教
室(館野公一)。(第二、四)

学校と家族

佐々木賢

ますのさんの書いた「家族ってなんだろう」という本を読んだ。急に考えていることを書きたくなくなった。この本から多くのことを教えられたし、言っていることに九割がた賛成なのだが、残りの一割で気になることがある。その気になることだけについて述べてみたい。だからこれは書評ではない。ほんの手始めの意見交換したいのである。

まず、私が学校をどう見ているかを始めに述べておきたい。学校というところは危険なまわりなところだと思ふ。なぜそれほど危険かというところ、与える「モード」が支配的なところだからである。学校は生徒に勉強させ、しつけをする。何のためにこれをするかといえば、売りのようになるような労働力商品を作るためである。だから序列を作り資格を与え、生徒商品に品質保証書なるものを添付するのだ。

生徒は自分のために学ぶのではない。自分の行動様式を作るためでもない。もし自分のために行動する生徒が学校にいたら、すぐに抑圧されるに違いない。それでもたまたま生徒が個性的に見えるのは、人間というものがかなりしたたかである。学校の抑圧にそうおおいと歪められなからいから過ぎない。

でも最近では、それほどびりびりしてはおかなくなっている。受験にのめり込んでしまう生徒がいたり、品質保証書に「不良」とラベルを貼られそのために荒れている生徒がぐんぐん増えているからである。

もとをたせば、これは社会に責任がある。学校に生徒を商品化するよう頼んだのは社会だからである。この産業化社会は、何でもかんでも商品化しようとする。会社で働くのは、そこで作る物に興味があるからでなく、自分の労働を商品として

家庭科って何だろう。そんな素朴な疑問が、私の中で答えを求めていた。今、生きるということ、家庭を築くということなどに目をむけると、確かに忘れられている事が多すぎます。そして、忘れていたという事ですら、私たちの日常の中では許されてしまったのではないのでしょうか。

「新しい家庭科 We」が、私の手許に届きました。赤い表紙を開くと、「いでたちね、いま」という言葉が、胸にひびきます。方向性を持っているという事の重みが、多くの人の想いが、この言葉の奥にあふれているのではないのでしょうか。と同時に、私にとっての「いでたち」が、今、この時だと思えてきます。

家庭科教育と耳にする度に、自分とは、ほど遠いのだと思ひ込み、私と家庭科を結ぶ糸が見えなかつた。これまで、その糸口が We のだと思ひ、と見えてきました。そして、We との出会ひの中心の時だと思ひます。女の直す時だと思ひます。

家庭科教育と耳にする度に、自分とは、ほど遠いのだと思ひ込み、私と家庭科を結ぶ糸が見えなかつた。これまで、その糸口が We のだと思ひ、と見えてきました。そして、We との出会ひの中心の時だと思ひます。女の直す時だと思ひます。

We 創刊号を

岩井由紀子(主婦)

家庭では子どもの興味に即した学びの態度や、自分のためにする学びの姿勢を作らねばならない。この態度や姿勢を作るのに、学校の勉強が邪魔をしてくるとは思わない。こうした状況にあるのに、なぜますのさんは学校の勉強をそのまま教えたり、教えるようにしたり、気にしたりするのだろうか。これでは学校の他律モードをそのまま家庭内に持ち込んでしまっている。親が教師化したら、子どもはどの息もききずにはいってしまう。しつけのこともおこなうことになる。ますのさんは子どもと大きく脱線しないかと心配している。そして他人に迷惑をかけるようなことがあつてはならないと心配している。どうしてこんなことを心配するのだろうか。脱線したり、人に迷惑をかけるのは子どもたちの権利ではないか。子どもには失敗する権利がある。子どもに必要なことは「やってみる」ことであり、この「やってみる」ことを大人が平気で奪い去っているのが現状ではないだろうか。

家庭では子どもの興味に即した学びの態度や、自分のためにする学びの姿勢を作らねばならない。この態度や姿勢を作るのに、学校の勉強が邪魔をしてくるとは思わない。こうした状況にあるのに、なぜますのさんは学校の勉強をそのまま教えたり、教えるようにしたり、気にしたりするのだろうか。これでは学校の他律モードをそのまま家庭内に持ち込んでしまっている。親が教師化したら、子どもはどの息もききずにはいってしまう。しつけのこともおこなうことになる。ますのさんは子どもと大きく脱線しないかと心配している。そして他人に迷惑をかけるようなことがあつてはならないと心配している。どうしてこんなことを心配するのだろうか。脱線したり、人に迷惑をかけるのは子どもたちの権利ではないか。子どもには失敗する権利がある。子どもに必要なことは「やってみる」ことであり、この「やってみる」ことを大人が平気で奪い去っているのが現状ではないだろうか。

3月16日の昼休み、虎の門から日比谷公園にかけての東京のド真中へ、「男も女も育児時間を」のシュプレヒコールが高らかにこだました。

これは、全石油シェル労組本社支部が主催した「育児時間延長獲得・昼デモ」の行進によるもの。これは、全石油シェル労組本社支部が主催した「育児時間延長獲得・昼デモ」の行進によるもの。

情報ファイル

大人のこの総論を各論の段階で覆ささないように心すべきだと思ふ。

自分の身を売るための、つまり交換価値を作るための学校教育が横暴をきわめている現在、子どもたち自身のための、自分の有用性のための学びや体験がますます重要になってきている。両者の間に葛藤があるだろうが、家族がキツパリと後者を守る姿勢をとらねば、すぐにでも学校がその足をすくうことになるだろう。



最近、「交流」で取上げている問題が切実に身近に迫って来ています。来年度より長時間保育実施。今まではパート保育が5時〜6時まで行っていました。が、定数割れの子どもの分、仕事が軽くなると、数字からも判断され、合併クラス保育実施をしようとする上、正規保育による延長保育が来年度より考えられています。

子どもを持つばかりの保育を両立に矛盾を感じ、とうとう3月末には辞めてしまいました。ただでさえ自分の子どもに充分に接してあげられないことを痛切に感じている中、諸条件が重くなっていく程、自分の子どもと、他で働く親の長時間保育を見ることができず、深まっています。更に労働強化のシワ寄せは目に見えています。何故に保育現場がこんなにも頭をかかえてゆかなければならないのでしょうか。確かなことは、決してよりよい保育など行えなくなつてゆく事実だけなのです。これからは「交流」応援します！

(埼玉・N子)

家庭と保育園しかないの？

保育園ノート

21

橋本紀子

K保育園の主催する長時間保育に反対する立場での集会へ、O保育園の意見を届けるかどうかをめぐり、その日の休憩時間にみんなで話し合うことになった。しかし、その集まりは集会へ意見を届けるかどうかという問題より、組合提案をめぐることがどう受けとめるかを話し合うことに私は意味をみい出した。

組合の出した長時間保育討議資料は、長時間保育に反対するしないにかかわらず誰の目からも疑問な点が多かった。例えば育児時間取得者（一才三ヶ月まで）や妊娠のための通勤緩和時間取得者は交代制勤務のローテーションから除くとしながら組合の出した案どおり人員確保した場合の一人当り早番や遅番の平均回数には全く考慮されていなかったりするので、六十名定員の園では増員が一人、百名定員の園では二人とあるが、各園でローテーションよりはるかに多い時では三人位になっているのが現実なのである。その点は当局に具体的手だてを講じさせるのとふれていくにすぎないのだ。

M保母のように長時間保育を必要とできない（現実にはそれ以上という理由で）と考える保母もおそらく半数はいると思



われ、とにかく今回の組合提案に対する疑問点を一つ一つ明確にしていく必要を話し合いから感じたのだ。

一方、組合は一月に職場討議におおし、三月末に保育所分会で各職場の意見をまとめるという方針を出していた。私は、それまでに組合の討議資料に対する疑問点をまとめて文章化し、みんなにはかかってみようと考えた。そして二月半ば、一つ一つ具体例をあげた質問状を作成し、コピーしてO保育園の保母達に配布したのである。長時間保育に反対する保母達からはなる程「そうだ」という反応があったがその他の保母達はひたすら黙して語らずである。

さて、このコピーはK保育園の保母達に送ったことで、むしろO保育園より他の保育園の保母達に反響をよんだ。三月初め、K保育園の主催する二度目の集会に、私とO保育園で職場委員をしていくY保母と二人で参加した。集会の始まる少し前、K保育園の保母達は事後承諾になつて申し訳ないが、私の作成した質問状を全員に配布するためコピーさせてもらったというのだった。私はむしろそうなることを望んでいたから、願ったりかなったのである。

さて、案の定、組合側からの出席者もあり、その集まりは混沌として話が煮つまずかず、反対決議が出せるような雰囲気ではない。それは組合側からの出席者の画策というより、個々の保育者の違い、すなわち子育てに対する把握のしかたが全くかみあわないところでそれぞれ意見がバラバラに語られているのが原因のようだった。組合の役員だときくある年配保母が「今朝

の新聞に育児ノイローゼのため無理心中した母子の記事をみて、一日気が重く、保母としての自分に痛みを感じる」という意見が述べると、それまで保母達として一人の働く母親であり働き続けるための労働条件を主張するのは当然と言っていた人が、俄然保母としての立場も自覚するようになった。その後、K保育園の主任保母でもあるHさんと何度か話し合いますが、保育専門職論に対抗できる保育観を明確にうち出す必要があることを認めあつた。

そして、勉強会を考えているというHさんに、アイベスフェルトの「愛と憎しみ」や現代子育て考などを紹介して、今後とも連れていくことにしたのだ。三月末、組合が三月中旬にまとめるという長長時間に對する討議は、なか／＼はかどらず、四月以降にもちこされそうだが、K保育園をはじめとする組合の姿勢に対する追求に、組合は全職場の合意に達しなければ長時間保育を実施できないと、長時間保育を実施できないことを明らかにしたので、まだ「討議を重ねることも可能になった」といえる。

さて、自分のことになると、通勤時間が一時間二十分かかる私は体育休あけ、転勤願いを出したのだが、先日四月より転勤の可能性があると伝えてきたO保育園より近くの園を指定したので三つの予定される園のどこかまで決つていない。したがって長時間の問題も今度の園で一からとりくむことになろう。

ところで、長時間保育の問題を保母以外の職場の人に意見をきいてみると、組合執行部に反対する立場で活動しているグル

ープ（例えば、子供の扶養手当を男女平等に要求する運動をしている）の人達の間でも、長時間保育がある程度期待されているようだ。話をきいてみると、子育ての場所を自分の家庭と保育園のような施設以外に考えてみるものがなかつたようである。近所に知り合いがないので、二重保母者を親しい人にたのむことができず、従つて二重保育を仕事として人へかかるとなり額を支払つたのむことになりそこでの子供の過ごし方も気がかりで、できれば安心してあずけていられる（？）保育園で親が迎えにいくまであずかってもいいという気持ちになるらしい。かといって保育労働者を犠牲にするのは反対であるといつた。

その話をきくと、子供が育つていく過程の中で自然にふれあうはずの近所の人達や、親の友人知人、あるいは祖父祖母やおじ

おばという人達との関係はどうなっているんだろうという疑問が生じてくる。例えそういう人間保育がある程度期待されているように話をしていても、子供を朝夕の二時間のみをみるのとならば、二時間のめんどうをみるのとは逆で、その子供をとりまわすには、子供のおかされてくる状況にあまり関心をもちたない人達ばかりだということも言えるのである。子供は社会的存在であるという事は、なにも社会の責任として保育園をつくりそこで子供を育てるという意味ばかりではないだろう。子供のおかされてくる状況に一人／＼が関心をもつということこそ、子供が社会的存在としての意味があるのではないだろうか。

いろんな人達にふれあつて、助けられたり助けたりという関係の中でこそ子育ては可能なのだと訴えたい。

亭主と別居して何がわすらわしかったって、周囲の人々の哀れみのマナコ。花の中年女が独り身を開くのでから気になるのは無理もないけど、予想以上のエゲツナサにオロオロ。

親類の叔父叔母はまず遠慮がない。「ダンナを一人にして知らんぞ」「何が」「女でもできたらどないする」「結構じゃありませんか。私よりいい女は沢山いるんだから大いに恋愛すべきよ」「あんたはどないやねん」「八類の半分は男よ。亭主だけで終わるなんてアホクサ」

親しくなり出した主婦さんたちも、どうしてもこのテーマに触れないと落ち着かない。人の弱味を握つてわが身の幸せを再確認するクセは、「隣の不幸は鴨の味」とフランスの諺にもあるところをみれば、万国共通か。

「主人と離れてはって淋しいやろ」「セックスのこと？」

とたんに彼女が真赤になる。そんなに恥ずかしいこと、聞かなきやいのにへんな人。そんなに簡単に「ボカア幸せだなあ

なんて思わせてやるかよ。

「私、レズビアンなのよ」

ギョツとしたり、キョトンとする女の顔を何人見ただろう。それでもしつこいトシマには、「一緒に住んでいらしてお幸せですか」とやれば、ムムムとなることうけあひ。

女の独り身は欲求不満のヒステリーという偏見を刺すように

子供ができれば「またかよ、おろしてこい」なんて、当り前じゃないかよ。

多くの女が自分の欲求も意識することなく、カンベンシテクレと選ぶことは許されず、オーガズムの何たるかも知らず、夫の靴音におびえ、外科手術のような痛みを耐え、やがて夫の興味が仕事プラスαに移つたのをいいことに、深く深く「本能」を閉じこめてしまつたのだ。

東京時代、私がウーマンリブらしいと地域に噂が広がると、PTAの母親が一人ずつ訪れたのは、教育問題ではなく、「夜は多めにセックススカウンセラ」を志し、二年前に「フェミニストセラピー」かかるが」の開設にこぎつた。

離婚の可能性を模索する女、モレツ社員に夫に「別宅」へ家出された妻などに向き合うとき、性的問題を聞いてみるが、どの女も深く閉じこめてしまつていて、それは大した問題ではないという。リビドーを直視するゆとりがないのか、性を語ることに拒絶か、どちらも「幸せな主婦」においても五十歩百歩の状況だと思ふ。

昨年、近所の主婦が三人の子を置いて、若い愛人とかけ落ちした騒ぎがあつた。日ごろは人影の少ない住宅地に五、六人ずつ

子供ができれば「またかよ、おろしてこい」なんて、当り前じゃないかよ。

多くの女が自分の欲求も意識することなく、カンベンシテクレと選ぶことは許されず、オーガズムの何たるかも知らず、夫の靴音におびえ、外科手術のような痛みを耐え、やがて夫の興味が仕事プラスαに移つたのをいいことに、深く深く「本能」を閉じこめてしまつたのだ。

東京時代、私がウーマンリブらしいと地域に噂が広がると、PTAの母親が一人ずつ訪れたのは、教育問題ではなく、「夜は多めにセックススカウンセラ」を志し、二年前に「フェミニストセラピー」かかるが」の開設にこぎつた。

離婚の可能性を模索する女、モレツ社員に夫に「別宅」へ家出された妻などに向き合うとき、性的問題を聞いてみるが、どの女も深く閉じこめてしまつていて、それは大した問題ではないという。リビドーを直視するゆとりがないのか、性を語ることに拒絶か、どちらも「幸せな主婦」においても五十歩百歩の状況だと思ふ。

昨年、近所の主婦が三人の子を置いて、若い愛人とかけ落ちした騒ぎがあつた。日ごろは人影の少ない住宅地に五、六人ずつ

感じて、「幸せな主婦」であつた私が、母子家庭や離婚組やわが道を往く独身派の女の生きにくさを「わがこと」にできた。

だが、文字通り独り身になつたのであれば、好奇心あふれる人々を右のようにオチョクツテ、のセックスの相手である夫も、おおかたはファック、ファックの一本槍で子供を作らたがり、

つあちこちに群れて、おそろしく「正義感」に燃えて同じ話をしているだろう風景は異様だった。性的貧しさに胸がきしむ……。

挨拶だけだった娘の級友の母親が手土産つきでやってくる。その話はしたくないので、土産だけでもらつて家へ上げない。入口に立つたままで、あれでも母親か、無責任、ご主人が気の毒

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

門野晴子

造が仕組まれている。中年の中年の動きもカンベンシテクレと選ぶことも可能だし、カンベンと言いつつ他の女にウツツをユカすことも可能である。

だが、女は結婚と同時に、女の世界に閉じこめられる。唯一のおかたはファック、ファックの一本槍で子供を作らたがり、

つあちこちに群れて、おそろしく「正義感」に燃えて同じ話をしているだろう風景は異様だった。性的貧しさに胸がきしむ……。

挨拶だけだった娘の級友の母親が手土産つきでやってくる。その話はしたくないので、土産だけでもらつて家へ上げない。入口に立つたままで、あれでも母親か、無責任、ご主人が気の毒

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

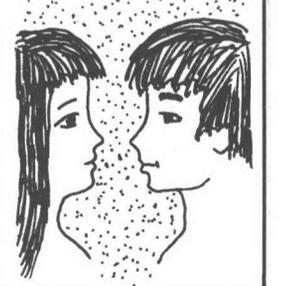
性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構

性とは人間の本能の一つであるのに、十分に開花させて生きることは何と困難なことだろう。男はベニスの変化で欲求を意識しやすく、また、欲求に忠実でありやすい社会的、文化的構



無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」

NO. 6

前林則子

一九六九年夏から秋

山崎博昭君が羽田闘争で死んだこと、社会問題に目ざめた私ですが、Mを好きになつてからは「社会」と「個人」との関係が全く見えなくなり、六九年夏から秋にかけての私は

高橋あきさん、猪股サダさんの証言と同様に会社側の主張である「女子は三十五才位で任意で辞めていった。中高年女子に向く仕事はなかった。女子一職は社員より劣る仕事内容」に対しては、大槻さんの二幅以降の仕事の「前任者は社員」「S、四十八年経理部に配属され定年前と同じ仕事をした」という証言により反証の余地すらなくなっている。

社会的動きよりもMの方目がいってました。それが結果的にはデッチ上げへつなげていく見えない糸になったようです。Mと再会してから私は法大L研へ行くようになり、Mとの交際も深まってきました。しかしMと恋愛関係になつたもののMと私の共通基盤が何もないのが不安でした。例えば運動を一緒にやるのか、大学が同じとか、共通の友人がいるとか、家を知っているとか、何か二人を結ぶ回路があればよかったです。私達にはそれがありませんでした。

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

四〇〇〇名の署名を背に 大槻寿子さん証言台に立つ 文責・羽倉久美子

二月三日、大槻寿子さん本人が初めて証言台に立った。昨秋から支える会が取り組んできた署名運動の成果を受けて終盤を迎えた裁判は、四十八の傍聴席では足りず、廷吏が補助イスを出すなど過去最大の傍聴者が見守る中で始まった。

高橋あきさん、猪股サダさんの証言と同様に会社側の主張である「女子は三十五才位で任意で辞めていった。中高年女子に向く仕事はなかった。女子一職は社員より劣る仕事内容」に対しては、大槻さんの二幅以降の仕事の「前任者は社員」「S、四十八年経理部に配属され定年前と同じ仕事をした」という証言により反証の余地すらなくなっている。

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの



★次回 五月十二日(木) 仙台地裁民事第二部

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

「Mを好きになればなる程、心の空洞が広がりがながらも、その空洞に対してMを問いつめることはせず、一人勝手にMは本質的にやさしい人なのだ」と思いついていました。これは二人の共通基盤がなかったことで客観的に彼を見る事が出来る。彼を信じたいという思い込みの

5 月号 (No.103)

1982年5月10日 (毎月10日発行)

1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東 京 4-51709



「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。
原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

野菜たちに未来を



くしだかんた

増野さんに無農薬野菜の事などについて何か書いてくれと言われてすでに4ヶ月ほど過ぎ、何とか逃げられればと思っていたのですが、JACから入りました。そこで、ボクがズルズルと八百屋になつてしまつた経緯などを話しながら無農薬野菜を「作る」、「売る」、「買う」という流れについて多少乱雑になるかもしれませんが話してみたいと思います。

69年頃からボクは三里塚に出没するようになり、援農等で三里塚の農業を見ました。そして、農業、化学肥料等を見る中で徐々にボク達が食べている野菜のオソロシサに気がつき始めたのです。数年後、三里塚で無農薬有機農法で野菜を生産している微生物農法の会の人々や福島で百姓をしている橋本君らと出会い、畑仕事をし、酒を飲み、いろいろ語り合う中で自然に逆って野菜を生産することを知りました。そして、何とかこれらの野菜たちをボクの身近な人達だけにでも配達しようと考え、はじめはバザー等月一回程度の割合で配達するようになり、完全にこの仕事に魅せられてしまつたのです。

四年ほど前からその頃解散した共同保育ピナツの名を引きつぎピナツハウスという名で三里塚の野菜を配達するようになったのです。現在は三里塚から出荷されるものとJAC(日本農業連合)経由のもの二本立てで入っています。最近この事についてちょっとした問題が起きたのです。
Dさんが「三里塚の野菜」カクタが直接取ってくる野菜は持つてきてほしいがJACの野菜はいやだ。というのです。少々戸惑ったのですがボク自身もかなり考えた末、JACから入る事にしたので彼女の訴えにも一理あると思ひました。
三里塚の野菜は直接ボクが各農家を回って集め、時にはいっしょに畑に行つて収穫までして持ってきます。そんな事を続けているうちにこの野菜はボクが作った物だなどと錯覚をしてしまつてしまつたのです。そんな思いをピナツハウスでは毎回伝言板という形で会員の人に伝えているわけです。だからJACという新しい関係がボクと生産者の間に入ることはボクとしてもDさんにしてもなにか割り切れない事だと思ひました。

単に安全な物を食べるという事だけでなく、ボク達の回りに失われかけている自然と人間のかわりを取りもどす作業だと思ひます。
現在、ピナツハウスの会員数は約七十世帯になり週一回では配達しきれず週二回にわたって配達しています。生産者は、三里塚微生物農法の会の葉物グループを中心に、やはり三里塚の平山さん、萩原さんにそれぞれ数品目ずつ作つてもらつています。そして時期的に不足する品目、又三里塚ではとれない品目をJACから分けてもらつています。
作付をしたものは原則として全量引きとらなければならぬのでかなり苦労するのですが、各家庭で必要なのを注文で配達する方法をとっています。そのため注文量と入荷量のバランスがくずれやすい場合が度々起るのです。
毎年、平山さんのナス、ピーマンでは泣かされています。作付を依頼するにも多少は量をまとめないと生産する方も採算がとれないのです。ピーマンなど

最も安全な物を食べるという事だけでなく、ボク達の回りに失われかけている自然と人間のかわりを取りもどす作業だと思ひます。
最近号には、金井康治君の転校実現に向けて花畑地域の住民に配布された、小児科医41人連名によるピラが掲載されているが、これはとても説得力のある文章だと思ひました。
文章だと思ひました。
というの、障害児は養護学校へ」と主張している人たちの主な論拠は「専門家による治療効果」ということなのだから、その「治療効果」の限界を、専門家の立場から指摘し、むしろ普通の社会の中で共に生きていくことのプラス面を強調して

くことは、とりわけ金井康治君のようなケースで、大事なことに容に広がり充実を感じさせられる。
最近号には、金井康治君の転校実現に向けて花畑地域の住民に配布された、小児科医41人連名によるピラが掲載されているが、これはとても説得力のある文章だと思ひました。
文章だと思ひました。
というの、障害児は養護学校へ」と主張している人たちの主な論拠は「専門家による治療効果」ということなのだから、その「治療効果」の限界を、専門家の立場から指摘し、むしろ普通の社会の中で共に生きていくことのプラス面を強調して



田中・日石・ピース事件裁判を語る集い——無罪判決にむけて
日時 5月22日(土)
午後3時~8時半
会場 総評会館(お茶の水下車)
千代田区神田駿河台3・2・11
講演 青地農(評論家)
伊佐千尋(作家)
倉田哲治(弁護士)
後藤昌次郎(弁護士)
入場料 前売500円
当日600円
主催 田中・日石・ピース冤罪事件被告
「田中・日石・ピース事件」救援連絡協議会
〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 333-1111

「交流」100号記念縮刷版
頒価 3000円、送料 300円
申込み、送金先は「交流編集会議事務局」
〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 333-1111

しみを味わうことになるのだ。一体どうすればいいのか? 等々切々たる言葉で綴つてある。
◆4月10日付「救援」紙によると、警察庁は今「留置場法案」の国会提出を企図しているという。その内容は、署長の判断一つで弁護士接見妨害・弁護士身体検査ができ、同じく署長の判断一つで拘束衣、防声具、革手錠をはめてよいという拷問法でもあるという。
しかも、いったん自白に応じた者は裁判が終わるまで留置場にためおかれる。いかに右旋回中の世の中とはいえ、こんなひどいものは戦前にさへなかつた。この法案は「警察拘禁施設法案」を一部手直ししたものだというが、商業新聞では、余りこういう情報を見受けられないのはどういふことなのだろうか?



(ぼくはこの春、中学を卒業しました。ぼくは卒業式に欠席しました。これはその理由を説明するために先生方にくぼったものです。)

ぼくは卒業式に欠席することを決めました。その理由は三つあります。一つは管理への抵抗。二つめは、君が代、反対。三つめは卒業式という儀式への疑問です。

管理への抵抗

学校は生徒を管理しようとしてます。管理し統制することを教育だ、生活指導だとおっしゃいます。髪型を注意し、ベルトの色を指定し、くつ下の色を強制します。制服を着させて、「中学生らしく」とおっしゃいます。そもそも中学生らしいという基準はどこにあるのですか。

先生がこうおっしゃった。だからこうしよう。先生があれをしなさいといった。だからあれをしよう。それが自分にとってどんな意味をもつものなのか。そしてそれが自分にとって必要であろうか。正しいのであろうか。そんなことも何も考えずに行動してしまうとき、統制されている、先生のおもむきままに動かされていると感じます。しかし納得するまで考えている、現在の学校という場では生活していけません。「あいつは仕事をしない。仕事がおそい」といわれてしまうからです。ですから何も考えずに行動してしまっています。今のぼくはまた他の人たちも。

先日、先生に「髪が長いよ」と注意されました。「男子はここまで、女子はここまでしか髪の毛のばしてはいけない規則になってるんだよ。君も知ってるはずだろう。規則なんだから守りなさい」とその規則が正しいかどうか、何故その規則ができたのか、納得させないで、とにかく規則なのだから守りなさいとおっしゃいます。それから少し話がありますが男子と女子で髪の毛のながさの規則が違うのは何故ですか。男女差別じゃないですか。ぼくなどいずれハゲる頭です。若いうちぐらいい髪をのばしておきたいとおもいますが……。

学校は生徒を管理しようとしてます。管理し統制することを教育だ、生活指導だとおっしゃいます。髪型を注意し、ベルトの色を指定し、くつ下の色を強制します。制服を着させて、「中学生らしく」とおっしゃいます。そもそも中学生らしいという基準はどこにあるのですか。



学校という場では、思想まで統制しようとしています。例えば社会科の授業で道路の建設の話が先生の口からこぼれました。「

規則なのだから守りなさいとおっしゃいます。それから少し話がありますが男子と女子で髪の毛のながさの規則が違うのは何故ですか。男女差別じゃないですか。ぼくなどいずれハゲる頭です。若いうちぐらいい髪をのばしておきたいとおもいますが……。

ぼくは卒業式に欠席することを決めました。その理由は三つあります。一つは管理への抵抗。二つめは、君が代、反対。三つめは卒業式という儀式への疑問です。

ぼくは卒業式にでません

一九八二・三・十四

佐々木たかし

思想を統制されることは危険なことだと、ぼくはおもいます。過去に日本は思想を統制されて戦争に走ったという事実があるからです。

君が代、反対

卒業式の日学校は「君が代」を生徒に歌わせました。ぼくはそれを合奏などをしてそれ程異様には合奏しませんでした。ですから集団で何か一つのことをやるというのが異様におもえるわけではないうのです。一つは自分たちの選んだ歌ではないということ。学校から、国から与えられた歌だということ。歌に限

卒業式なんて必要でしょうか。先生方は「学校は勉強するところだ。遊ぶところではない」といつておられながら「せつかく同じクラスになったんだ。みんな仲良くしようよ。このまま卒業していくのは寂しいから何か残そうよ」とおっしゃいます。クラスは学校が与えたものです。学校は勉強をすることをだとして教育されてきました。ですから勉強はします。しかしそれ以上は何を要求される必要があるのですか。ぼくは

卒業式の前には必要でしょうか。先生方は「学校は勉強するところだ。遊ぶところではない」といつておられながら「せつかく同じクラスになったんだ。みんな仲良くしようよ。このまま卒業していくのは寂しいから何か残そうよ」とおっしゃいます。クラスは学校が与えたものです。学校は勉強をすることをだとして教育されてきました。ですから勉強はします。しかしそれ以上は何を要求される必要があるのですか。ぼくは

戦時中、お国のために、という言葉が使われました。現在の学校では、「自分のために」と教えられます。しかし先生や生徒自身、本当に自分のために何かをするのだとおもっているのでしょうか。今までは義務教育であつたのでなく、これからは親が高校へいっていただくから、「みんなが高校いくから」「勉強したくないけど、みんながするから」といふのでなく、やっぱり何となくだれのためとなく勉強をやっていっているのではないのでしょうか。

これは同時にぼくが他の人達のように、普通の高校へ進まない、と決めた理由でもあります。ぼくは学校が嫌いです。でも勉強は嫌いなわけではありませぬ。ぼくは通信教育で高校卒業の資格をとろうとおもっています。勉強できるからです。もちろん意志の力がなければ勉強はできません。自分の力を試してみよう。それでこの道を希望に燃えて、進んだのです。服装も自由。生活も自由。学習も労働もすべて自由です。すべて自分でやるのです。他人から与えられたものではなくて。夢がひろがります。自由がひろがります。そして責任もひろがります。

ぼくは先生が意見をいうのをいけなくおもっているのではありません。生徒に反論の場がないということ、つまり先生からの片側授業、一方的授業が問題だとおもっています。生徒は反対の意見をいう機会も場所も与えられていません。反論の場がなければ生徒はだんだん考えなくなりま。先生のいつたことをうのみにします。これはつまり思想の統制ではないでしょうか。

この作文、学校通信にのせて下さいと頼んでみます。もしのせてくれなければ(もちろん作文として上手でないからとせないという理由ならしかたありませんが、ぼくの意見が気に入らないという理由でのせてくれな

もつとクールにビジネスとして卒業したいです。卒業式に必要な行為は卒業証書をもつことだけ。これはわざわざ「卒業式」という儀式をしなくても、もらえらるはず。卒業に必要なのも卒業証書のみです。その紙一枚を発行してもらったためにみんな先生に管理されおさえつけられておまんしてきてたわけ。いやこれからはおまんしてきてたわけ。いやこれからはおまんしてきてたわけ。いやこれからはおまんしてきてたわけ。

戦時中、お国のために、という言葉が使われました。現在の学校では、「自分のために」と教えられます。しかし先生や生徒自身、本当に自分のために何かをするのだとおもっているのでしょうか。今までは義務教育であつたのでなく、これからは親が高校へいっていただくから、「みんなが高校いくから」「勉強したくないけど、みんながするから」といふのでなく、やっぱり何となくだれのためとなく勉強をやっていっているのではないのでしょうか。

卒業式に欠席する理由を、いままでは説明してききました。今後共長く続けて下さい。「交流」一〇〇号を通して(八〇号ぐらいいは読んでいますか)一番記憶に残っているのは、以前、皆川さんがやった寺山修司のインタビュー。「交流」の作風とは全く違う視点があつて、感心したし、違う視点を掲載してこそ交流だと思います。(品川・正一)

私の文のあとの、ますのさんの付記「もし、シンナーであつたら……」という問題。私は基本的に同じ態度です。私の学校の生徒に、過去シンナーをやつたものがかなりたくさんいるのですが、彼らに、やめた理由をきくと、「親とか教師の説得」といふのは一つもないのです。「自分で考えるようになって



「交流」の中では、やはり橋本さんの「保育園ノート」と、前林さんの「日記」を読みます。

今後共長く続けて下さい。「交流」一〇〇号を通して(八〇号ぐらいいは読んでいますか)一番記憶に残っているのは、以前、皆川さんがやった寺山修司のインタビュー。「交流」の作風とは全く違う視点があつて、感心したし、違う視点を掲載してこそ交流だと思います。(品川・正一)

私の文のあとの、ますのさんの付記「もし、シンナーであつたら……」という問題。私は基本的に同じ態度です。私の学校の生徒に、過去シンナーをやつたものがかなりたくさんいるのですが、彼らに、やめた理由をきくと、「親とか教師の説得」といふのは一つもないのです。「自分で考えるようになって

（伝言板つづき）5月22日(土)5時「小金井反核集会」於小金井福祉会館4F視聴覚室。問合わせ〇四三・三・八五・三六四三 江守純史

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

門野晴子



本紙愛読の友人から注文が出た。「たまには古寺巡りを書いてよ。せつかくいいところに住んでいるんだからさ」

斑鳩へ来てより珍客万来だが、イデオロギーを問わず「日本人の心のふるさと」への思いこみは相当なものだ。バリバリのリズムも「いいところに住んで幸せね。私も住みたいな。いいな」と感激のし通しに、「どこだつて住めば地獄よ。私しや古いものに興味はないしね」と言つたら「豚に真珠だね」後日、失言を手紙で謝ってきたが、本当にその通りなので何ともない。

目黒の夫婦なんざ大和を故郷のように思い、私の転居以前から閉ができれば通っている。一度だけお供をしたことがあるが、法隆寺、法輪寺、法起寺などを馴れた足どりで巡り、飽かず塔を見上げ、柱をなで、まるで恋人に会ったような騒ぎ。私はいくら鐘楼を眺めたとして、ジャズもロックも聞かなくていいから、喜々としたのは、法隆寺前での昼メシの日本料理と、慈光院のお抹茶と菓子に預かったときだけ。後者は観光客をズラッと座らせ、機械的に茶運び、バタバタと片付けて、ハイ、お次ぎだから情緒もへつたぐれもない。飲み終えた私は次のグループの最後尾につき、アンコールを味わった。へへ。

庭に降りて紅葉を賞んでいた夫婦があきれて私を眺めていたが、初老の夫の方が言ったもんだ。「食うこと寝ること一生懸命だが、他に何か考えることがないのかよ」「えっ、その他に何かあるのかえ？」

というわけで、私には紀行文は書けない。勉強が面倒くさい

大宝蔵殿に進むと、まさしくクラという感じの、ただし鉄筋コンクリート造りの建物に数々の仏像や工芸品が並ぶ中で、私の好きな百済観音が今日も静かに立っていた。

大宝蔵殿に進むと、まさしくクラという感じの、ただし鉄筋コンクリート造りの建物に数々の仏像や工芸品が並ぶ中で、私の好きな百済観音が今日も静かに立っていた。

手鏡を出して反射光を当て、私は「あつ、悪いことするなア」若い観光客の一群が叫ぶ。黒い顔にどよよひげがくつきり浮かんできた。美男だなんて誰が言ったの、私の趣味じゃないよ。

長い築地塀に沿って石畳を歩くと、二人の靴音が土塀に吸いこまれていく。痛いな静寂が私の足を止めさせた。いつも別れるために会うような……だが、シャンと伸びた男の背筋は、私のグチを拒絶していた。

の世へ逝ってしまった。享年七才、戦前の激動期を闊つた生きた現代史だ。喧嘩友だちを失って立ち直れない一月後、法隆寺近くの歯医者へ通う。昼に治療を終えた日彼の面影を求めて自然に足が法隆寺へと向かっていた。

薄汚れた松並木、閉ざしたみやげもの屋の埃っぽい様子、無表情な建築物のしららしさ、はげ落ちた仏像のみすぼらしさ、しんと冷たい回廊に永った靴音を響かせるわずかな観光客、どよよと重たい松の黒さが砂利庭に死の影を落とす。

あそぼす土地柄でござんす。大昔の権勢はとき変わりに変わって、そのどす黒い権力地盤は脈々と引き継がれてきたと言えようか。聖徳太子は一円円札から消えても、権力者が笑い止まらぬ地盤は消えるべくもありません。

いや、そんなことはどうでもいい。私の目前から白髪が消えて今、二人で巡った京都の寺々も法隆寺と同様の「雨月物語」の無残な現実を見ようから、紀行文はますます書けない。

（前頁よりつづく）

やめた」というのが最も多く、「説得されて」というのも、友人や先輩が主です。つまり、親子教師の説得力がないのは、子どもの次元に立てないからです。ただ、この危険性や緊急性によって強制的にやめさせることはもちろんあります。でも、これがあくまで臨時の処置です。基本は、子ども自身が自分について真剣に考えるようになっていくかどうか、ということですね。

「編集後記」の学校と警察のこと、本当にそうだと思う。うちの学校にも、警察から「事件をきちんと報告しなさい」と、へんなことを要求してきたりしています。では又いずれ…… 佐々木賢

家庭独自のものさし親の価値観といつてもいいか問われているときだというのは、ほんたに思う。私もそろそろ覚悟すべきだな、と腹に力を入れたつありませう。というのは、またどこかに優等生（勉強ができたというイミ）のナゴリがあった、勉強できないよりできた方がいいみたいなの志向を、子どもに向けたらするの、時どき、ハッとするので、四年生になる息子は、すこぶる元気でカンがいいのだけれど、そろそろ大人の建前と本音を見分ける目付きをあらわにしました。その彼に、私は、手紙を書くこと、漢字の読み書きがきちんとでき……を、生活面のいろいろと共に、さしたりの気をつけよう、と書いています。学校から求められていることは、ちょっとちがうのね。（後略）

介欄をみると、34才の若さでもう5冊も本を出していることになるから、ずいぶん筆マメな人になりがたい。だが、あの時の第一印象では、とてもそんな筆マメな人とは思えなかった。人は見かけによらないものだ。名取弘文さんとか、このゴリさんみたいな教師が増えれば、学校も子どもたちも、もっと生き生きしてくるはずなんだ。なぜかこの人たち、全体としては少数派なんだよ。管理主義派の教師は、こういう本を読もうとしないだろうね、きつと（三一書房刊、一五〇〇円）



森下計二著 ドジ教師奮戦記

評・ますのきよこ

この本の表紙には、ゴリラみたいなオッサンが「ゴロツキ一家」の旗をかざし、オートバイを乗りまわしている、6年1組の連中がその後を追っている光景が描かれている。

第一章「ゴロツキ一家物語」は、まさにこの表紙のふんいきそのままに、森下計二ことゴリさんと子どもたちが快調に学校生活をエンジョイしている様子で紹介される。

大方の読者は、ここに登場する学校と、自分の子が通っている学校との余りの落差に、先ずびつくりするにちがいない。

「いまだき、こんな先生がいるのかしらん？」

「どうして、うちの子、こういう先生に当らなかつたのだろ？」

ここで空気は一転して、少し深刻な話になる。

ゴリさんは人気のある教師だ。よく学校の廊下などに貼ってある「よい子のくらし」といった模範的生活態度を示した指導ポスターみたいなものを、毎年子どもたちの前で破くことにしていたというのだ。

「もうすぐ飽きてしまふ。一体、子どもたちはどうなつてしまったのだろ？」

多くのおとなたちが感じていた疑問だが、ゴリさんはこれについて次のような解釈を試みている。

彼の生まれ育った兵庫県地方の方言に「しんしょ」という言葉があった。金持ちに対する皮肉やヤユとして使われていた

「んがんばってんね」

狭い畑で土を耕す農婦にむかって叫んでいるのだ。

「何だ、その態度は、やめなさい」ゴリさんは大声で叱る。「しんしょ衆」の子ども達も皮ジャン着ているし、強そうだから、ちょっとおっかないな、と思つたものだ。

この本のうしろにある著者紹介欄をみると、34才の若さでもう5冊も本を出していることになるから、ずいぶん筆マメな人になりがたい。だが、あの時の第一印象では、とてもそんな筆マメな人とは思えなかった。人は見かけによらないものだ。名取弘文さんとか、このゴリさんみたいな教師が増えれば、学校も子どもたちも、もっと生き生きしてくるはずなんだ。なぜかこの人たち、全体としては少数派なんだよ。管理主義派の教師は、こういう本を読もうとしないだろうね、きつと（三一書房刊、一五〇〇円）



無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」

前林則子

№.7

「一九六九年秋から冬」
 「意識が低い人は来ないでくれ」と追い出されたことにショックをうけた私ですが、M自身もそう思っているのか、又、L研の組織方針として決定したのかどうか確かめたくて、数日後

私は再びL研へ向いていきました。ところが、法政大学へ行ってみると、L研の部屋は机が散乱し、何かケルトをやったあとのようで、メンバーは誰もいませんでした。
 法政大学はいつも通りで何も変わっていないのに、わずか数日の間にL研メンバー全員が消えてしまい、私は狐につままれたような気分でした。そして、私がいつも不安に思っていたMとの音信がこれで不通になってしまったことに衝撃を受けました。同時にMの身体の安否が心配でした。

その後、どういう経過でMと再会したのか記憶がはつきりしませんが、一つには10・10全共闘集会があった時、御徒町の喫茶店でMと会ったことがありますが、この時はMに呼び出されて行ったものですが、喫茶店にはMの他、女の子三人がおり、私は女の子二人と同じテーブルに座り、MはEさんと何やら話していました。

しかし、Mが原因で二人の間には亀裂がはいりました。具体的には、九月はじめ白百合ジャーナルリズム研究会の合宿をEさんと断わって渋谷区のアパートで行ったのですが、夜暑かったので、ジャーナルメンバー一人の出会いには私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

Eさんとは中大大平連の部屋で初めて会いましたが、その後L研でも会い一緒に話しをするようになりました。Eさんはさっぱりとした性格で、話しやすくお姉さん的な人というのが最初の私の印象でした。七月には、二人で渋谷区にアパートを借りました。これは一緒に住むというのではなく、私は大学が遠かったので、一週間のうち一、二日泊まり、彼女も自宅から勤務先まで遠かったため、遅くなつた時に泊まるという形でした。

しかし、Mが原因で二人の間には亀裂がはいりました。具体的には、九月はじめ白百合ジャーナルリズム研究会の合宿をEさんと断わって渋谷区のアパートで行ったのですが、夜暑かったので、ジャーナルメンバー一人の出会いには私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

「意識が低い人は来ないでくれ」と追い出されたことにショックをうけた私ですが、M自身もそう思っているのか、又、L研の組織方針として決定したのかどうか確かめたくて、数日後

私は再びL研へ向いていきました。ところが、法政大学へ行ってみると、L研の部屋は机が散乱し、何かケルトをやったあとのようで、メンバーは誰もいませんでした。
 法政大学はいつも通りで何も変わっていないのに、わずか数日の間にL研メンバー全員が消えてしまい、私は狐につままれたような気分でした。そして、私がいつも不安に思っていたMとの音信がこれで不通になってしまったことに衝撃を受けました。同時にMの身体の安否が心配でした。

皆さんは、在日韓国人「政治犯」についてご存知でしょうか。金大中氏は皆さんもご存知でしょう。しかし、在日韓国人である人々が祖国へ留学したり、商用や親族訪問のために韓国へ渡った時にファッショ政権によって「北朝鮮のスパイ」に仕立てあげられて囚われていることをご存知の方は、残念ながらもまだ少ないと思います。

私たちは、76年6月に、在日韓国人「政治犯」を支援する全国会議を結成して以降、日本に在住するご家族をはじめとする在日韓国人政治犯を救済する家族・僑胞の会と力を合せて救援運動をすすめてきました。

こうして高まる社会矛盾を押しつぶす常とう手段が「北朝鮮の手先さし」「利敵行為」のレッテルを貼って「スパイ」呼ばわりして弾圧し、社会的に孤立させる手段でした。在日韓国人はその格好の存在であったがために「スパイの首謀者」とされ、死刑・重刑判決を受けているのです。

79年10月26日、朴正熙はファッショ政権内の暗闘によって射殺され、韓国に民主の風が吹くかに見えました。

人生においては様々な人との出会いがありますが、Eさんとの出会いは私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

Eさんとは中大大平連の部屋で初めて会いましたが、その後L研でも会い一緒に話しをするようになりました。Eさんはさっぱりとした性格で、話しやすくお姉さん的な人というのが最初の私の印象でした。七月には、二人で渋谷区にアパートを借りました。これは一緒に住むというのではなく、私は大学が遠かったので、一週間のうち一、二日泊まり、彼女も自宅から勤務先まで遠かったため、遅くなつた時に泊まるという形でした。

しかし、Mが原因で二人の間には亀裂がはいりました。具体的には、九月はじめ白百合ジャーナルリズム研究会の合宿をEさんと断わって渋谷区のアパートで行ったのですが、夜暑かったので、ジャーナルメンバー一人の出会いには私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

「意識が低い人は来ないでくれ」と追い出されたことにショックをうけた私ですが、M自身もそう思っているのか、又、L研の組織方針として決定したのかどうか確かめたくて、数日後

私は再びL研へ向いていきました。ところが、法政大学へ行ってみると、L研の部屋は机が散乱し、何かケルトをやったあとのようで、メンバーは誰もいませんでした。
 法政大学はいつも通りで何も変わっていないのに、わずか数日の間にL研メンバー全員が消えてしまい、私は狐につままれたような気分でした。そして、私がいつも不安に思っていたMとの音信がこれで不通になってしまったことに衝撃を受けました。同時にMの身体の安否が心配でした。

「Eさんのこと」

人生においては様々な人との出会いがありますが、Eさんとの出会いは私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

Eさんとは中大大平連の部屋で初めて会いましたが、その後L研でも会い一緒に話しをするようになりました。Eさんはさっぱりとした性格で、話しやすくお姉さん的な人というのが最初の私の印象でした。七月には、二人で渋谷区にアパートを借りました。これは一緒に住むというのではなく、私は大学が遠かったので、一週間のうち一、二日泊まり、彼女も自宅から勤務先まで遠かったため、遅くなつた時に泊まるという形でした。

しかし、Mが原因で二人の間には亀裂がはいりました。具体的には、九月はじめ白百合ジャーナルリズム研究会の合宿をEさんと断わって渋谷区のアパートで行ったのですが、夜暑かったので、ジャーナルメンバー一人の出会いには私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

「意識が低い人は来ないでくれ」と追い出されたことにショックをうけた私ですが、M自身もそう思っているのか、又、L研の組織方針として決定したのかどうか確かめたくて、数日後

私は再びL研へ向いていきました。ところが、法政大学へ行ってみると、L研の部屋は机が散乱し、何かケルトをやったあとのようで、メンバーは誰もいませんでした。
 法政大学はいつも通りで何も変わっていないのに、わずか数日の間にL研メンバー全員が消えてしまい、私は狐につままれたような気分でした。そして、私がいつも不安に思っていたMとの音信がこれで不通になってしまったことに衝撃を受けました。同時にMの身体の安否が心配でした。

人生においては様々な人との出会いがありますが、Eさんとの出会いは私にとっても、Eさんにとっても不幸だったと思います。彼女との出会いが、テッチ上げへつながっていくもう一つの見えない糸になっていきました。

Eさんとは中大大平連の部屋で初めて会いましたが、その後L研でも会い一緒に話しをするようになりました。Eさんはさっぱりとした性格で、話しやすくお姉さん的な人というのが最初の私の印象でした。七月には、二人で渋谷区にアパートを借りました。これは一緒に住むというのではなく、私は大学が遠かったので、一週間のうち一、二日泊まり、彼女も自宅から勤務先まで遠かったため、遅くなつた時に泊まるという形でした。

韓国に人権を朝鮮半島に平和を 在日韓国人「政治犯」救援の 意見広告(毎新聞5月中旬)を成功させよう

しかし、翌80年5月17日、全斗煥が軍事クーデターを強行し、ちとりました。死刑執行の危機を打ち砕いたのです。しかし、長期間にわたって投獄されてきた「政治犯」諸士はでも昨年だけで7件もの在日韓国人を首謀者にした「スパイ」劣悪な獄中処遇と「転向」を強要する拷問によって健康を破壊され、崔哲教さん(94)や姜宇全さん(92)が亡くなりました。

このように、獄中の処遇は一斗煥が軍事クーデターを強行し、ちとりました。死刑執行の危機を打ち砕いたのです。しかし、長期間にわたって投獄されてきた「政治犯」諸士はでも昨年だけで7件もの在日韓国人を首謀者にした「スパイ」劣悪な獄中処遇と「転向」を強要する拷問によって健康を破壊され、崔哲教さん(94)や姜宇全さん(92)が亡くなりました。

段々と劣悪になり、多くの人が亡くなっています。一方では、投獄され、朴政権をしのぐ人権抑圧の社会が造りだされたので、こうした厳しい状況のもとで開かれてきた救援運動は、いくつもの困難につき当ってきましたが、あらゆる方法をもって力を合せて、ついに死刑確定者の

わつたと書きましたが、政治と恋愛の関係についても考えるようになりました。この言葉は言われた時、L研の部屋にはEさんがおり、彼女がMから私を引き離すためにL研メンバーに言ったのではなからうと私は思いました。九月から彼女は全く人柄が違ってしまい、私は全然言葉を交わさないという態度をとっていました。私にはEさんが何故そんなに怒るのか理解できなかったし、又彼女から「白百合は一体、何をしている」と言われる筋合いはないので、腹が立ちました。このことがあってから、Eさんは私と口を聞かなくなり、今までの行動をわけてあげて、政治活動は社会的行動をわけてあげて、その場合Eさんを嫌うようになりました。Eさんに対してジェラシーを感じ、同性間での分断が生まれたりすることもあると思うのです。うまく書けませんが、私自身Mが女性と話しをしようとして、その話しはマルクス、レーニン

この本の内容でしたが、それだけでMはその女性に気があるのではないかと疑いをもったりして愛している時は、彼と一緒に政治活動をするのは、止めようと考えました。つまり、愛は人間を結びつけると同時に排外する作用もあるわけで、男と女のジェラシーによって、政治を誤らせたり、私有化する可能性があるのではないかと思つたのです。この点、もっと書きたいのですが、うまく書けません。私は六九年九月以降、こうした考え方ももつようになったので、Mとは同志にならうとは思わず、むしろMに異性愛を感じている時は、政治的な話しはしないように心がけました。

十月二日、東京薬科大学男子部から鉄パイプ爆弾が出て、東薬大社研のメンバーが逮捕された事件は、新聞で読んで非常にびっくりしました。東薬大社研のメンバーとは法

況に日本政府が深く関与していることを暴かねばなりません。42億ドル(約1兆円)の対韓安保援助が誰を押し、誰を助けるのかは一日瞭然です。4月21日未明、南北朝鮮休戦ラインで銃火がかわされました。このことは、アジアで核戦争が起ころうとする朝鮮半島であることを示しました。

反核反戦の叫びが日本の地でも広がっていますが、「日本から核をなくせ」「日本を核戦争にまきこむな」では、最も重要は取点が欠落しているのではないのでしょうか。

編集後記

地方に発送した縮刷版の中には、包装が破れてひどい状態になったものがあるようです。せっかくだけでも、表紙がボロボロでは気分が悪いもの。余りひどい場合は、こちらに連絡して下さい。新しいものを再発送します。汚損した分は返送しなくて結構です。友人にあげるなり、ご自由に、なるべく有効にお使い下さい。

一重包装では不十分なことが分つたので、今では二重包装にしていますので最近は大丈夫と思えますが……

関西の市立図書館から縮刷版の注文が来ました。どなたか働きかけてくれた成果と思います。どうもありがとうございます。

「保育園ノート」は今月お休みして、来月がはじめてくりとなる予定です。今後は職場の運動力を入れていきたいと思います。

中3になった息子の学年父母会。校長、学年主任、生活指導等入れかわり立ちかわり教師による一方通行のお説教が延々一時間半。内容は受験の脅しとしてつけ強要の一本槍。バカバカしくなつて途中で帰ってきただが、こんな教師たちをさばらせておく親も親。ぼくもその親の一人ではないかと思うと情なくなるよ……

もつとも息子本人は至って呑気な、これまで同校になつたサッカー部を仲間たちとつくり5月連休には早速他校と試合をやるんだと、はりきつてい

❑「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをしている人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。
❑原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

交流

6 月号 (No.104)
1982年 6月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議
東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東京 4-51709

定時制高校・夜話

新連載 その(1) 佐々木賢

都立の定時制高校の第一次入学試験は全日制と同じ日に行われる。最近ではこの一次試験に応募する者の数がぐんと減っている。私の学校では六〇名募集してもほんの数名の応募者しかない。この時は全日制と同じ問題でペーパーテストが行われ、面接試験はない。定員をはるかに下まわる程度の応募者しかいないのだから、受験した者はほとんど成績が悪くとも、たとえば数学とか英語が0点でも合格することが多い。

問題なのは四月に行われる第二次選抜である。この時は学校独自の問題でテストが行われ、それに面接が加わる。そして応募者の数もぐんと増える。他の公立の全日制をすべて落されてきた者が来るからだ。今年などは一挙に定員を一〇名以上も上まわるほどであった。毎年この四月の選抜会議がおおいにもめるのである。

私はいつも希望者全員を入れることを主張してきた。定時制を落ちたら彼等は行くところがないだろう。定員をオーバーしたら都へ増学級の申請を出せばよい。とにかく公立高校なのだから受け入れる義務がある。こうした理由を私の主張の根拠にしていた。ところがこの理由でそうおおいそれと同僚教師を説得できなくなってきた。

第一に制度の制約がある。都の教育庁の規定では、一学年二クラス六〇名定員の学校が増学級を要求するには、七月一日現在で七五名以上の生徒をかかえているとただけに限られる。ここでまことに奇妙な規定にぶつかる。もし増学級になっても定員オーバーをしたその学年の学級数が増えるのではなく、その次の学年の募集定員を増やすのだ。定員オーバーした学年は二年間そのまま据え置かれ、三年生になるとときにその学年の増学級申請が出せるという規定になっている。

このようなわけだから、入試の際多くの生徒を引き受けるといふことは、我々教員にとつては少くとも二年間は定員オーバーのまま、クラスを受け持つてがんばるという覚悟がなくてはならなくなる。一クラス定員三〇名というの、なるほど全日制から比べると少いと言えるが、定時制の教師にとっては多すぎないように思える。授業風景につ

いてはまた次の機会に詳しく説明したいが、とにかく中学校で勉強嫌いだったり、授業妨害ばかりしていた者たちがわんさといるのである。

これはおそらく教育庁の陰謀に違いない。定員オーバーする現場の教師に負担のしわ寄せをし、きつい思いをさせておく。その苦難を経た学校のみ学級増の褒賞を与える。教師はその苦難に耐えるほどの理念や信念がないと、はなから生徒数を抑えて学級増の要求も出さない。そうすれば予算も少なくて済むのである。組合はいつもこの規定の矛盾をつくのだが、組織自体がまことに弱くなっており、教育庁から馬鹿にされて、最近ではどのような要求も通つたためしがない。

入学希望者ができるだけたくさん入れようという考えにプレッシャーになる要因はまだ外にもある。非行の問題がそれだ。定時制の教師は、いわゆる「おちこぼれ」などで学力が低い生徒にはもう慣れっこになっている。小学校の学習内容からでもゆつくりとこころ教えてやるという姿勢はほとんどの教師が持っている。だが、学校の中で暴れまわっている生徒は、ほとんども手をやめている。授業中に火災報知器をならしたり、花火を打ち上げたり、校庭や廊下をバイクで乗り廻したりする生徒がいて、授業がロクにできない場合が多い。

それで入試選抜会議では、どの受験生がそれに当たるか、入学したら暴れ出す生徒は誰なのかをしきりに詮索することになる。面接試験の焦点もそこにある。

生徒を多く受け入れることを憚る雰囲気は、また別のところから生じてくる。先日私は一人の転入生と話をしていた。彼に「前の学校はどうだったの」と私が質問すると、「ここよりいい学校だったよ」という。その学校も定時制なのだが、彼がいうには「入試のときかなり落ちました。それに悪い生徒をすぐやめさせるもん」とのことである。彼は「イヤ、イヤの馬鹿」は必要なものだと思っている。

◆串だんご屋「野花」開店
食品添加物を食物からできるかぎり排除し、その物がもつ素

◆オットコ一座大寸劇公演
昨年12月に初公演したときは他の集会和重なったりして、沢山の人が「見れなくて残念」と嘆かれました。

◆延長保育反対全都集会
保育時間延長・夜間保育ではなく、労働時間短縮・育児時間保障をの声をあげている都・区労働者のよびかけによる集会です。

◆軍事費不払い特別講座「草の根の反戦がはじまるとき」
忠魂碑訴訟をおこして——お話 神坂玲子さん、古川佳子さん(原告) 他

◆育時連(男も女も育児時間を)連絡会)の連絡先がこれまで不定でしたが、今回「木風舎」



伝言板

◆「We」中野周辺読者会
Weの5月号、6月号をネタにして、おしゃべりを楽しもうという企画です。中野在住の人に限らず、新宿、杉並などからも参加者ありそう……

◆オットコ一座大寸劇公演
場所 南小岩2・13・3。小岩駅から徒歩15分ぐらい。開店は10時から4時半まで。電話 六七三・三九四三。火曜定休。

◆交流一〇〇号記念縮刷版
一冊三〇〇〇円、送料三〇〇円。ようやく半分近く売れました。

◆育時連(男も女も育児時間を)連絡会)の連絡先がこれまで不定でしたが、今回「木風舎」



花

情報ファイル

◆ステューデンの育児保障制度については、従来、①9ヶ月の育児休暇(男女いずれでも、90%有給保障)と、②8才になるまで6時間に時間短縮(申請による)。男女いずれでも。賃金カットされるが累進税率の効果で実収入にそれほど大差がない。という二本立ての説明がされてきた。

しかし、最近、ステューデン住のTさんから来た私信によると、右のうち①については、合計12ヶ月が保障されており、そのうち6ヶ月は産休として使用し、他の6ヶ月は、8才になるまで随時使用できることになっているらしい。

◆育時連(男も女も育児時間を)連絡会)の連絡先がこれまで不定でしたが、今回「木風舎」

の好意により、左記の如く決まりました。
東京都杉並区阿佐ヶ谷南3・45・4・木風舎気付・育時連

◆育時連のメンバー参加者は10人でした。今年のメンバーは早断幕をかかげながら歩道を歩いてどんどんデモ隊列を追いぬいてしまわれました。今年の反省点はハンドスピーカーを用意しなかったこと、来年は友好労組にスピーカーを買ってもらい、それをチャッカリ借り受けて使用しよう、という虫のいい結論になりました。

なお、メンバーで配布した宣伝ビラのストックがまだ沢山あるので、送料さえ負担して下さいれば希望者にお送りします。



傘おと

限りなく危険(資本の論理)に近い快楽を

もとめる八百屋70人衆

JAC(ジャパニーズ・アグリカルチャー・コミュニティ) 八百屋のセンター (上) 小野 敏明

●素適な物語をたくさん創りた
今年に入って、長崎から新玉葱が入荷した5月までの4ヶ月間、私達の野菜で料理している約一万人の人の過半数は、カレーライスを食べなかつたと思う。毎年、新玉葱が入荷するまでは北海道の農家で冬を越した玉葱でまかなっているが、昨秋、史上初めてかと言われた大雨と台風により、80t作付した玉葱は大部分収穫不能になってしまった。一般では、この時期アメリカ・東南アジアから玉葱を大量入荷して八百屋に出回った。JACでは、他の流通グループから有機玉葱を入れることもしなかつた。「物が無い」ことで、北海道の農家が見え、農業の国際的分業化が進んでいることを認識してもらえたと思う。

そして、待ちに待った新玉葱は、5tの量が約一週間もなくなくなってしまふほど、この家も玉葱料理に精を出した。それがまた格別おいしく感じられた。販売方法は、今でも主流はトラックやリヤカーによる引き取りで、必要な物を必要な量だけ買うことができる自由販売スタイルをとっている。一人暮らしのおばあちゃんが、じゃが芋一個からでも連がりが始まるように、入口をできるだけ広くしたいという思いからだ。

しかし、引き取りの場合は、コースが決まっているため、最後の側面からリヤカーでの引き取りというスタイルをとることになった。一時は東京の街々を大小いろいろ、虫喰いも様々なキャベツ10個が八百屋に入る。八百屋は「選ばないでくれ」といつも声を大にして言っている。消費者の知恵と言われる選ぶという行為が、商品の均一化に繋がりが、そのための農業散布があったり、市場の規格がきびしくなったり、畑で捨てられる野菜が多くなったり、品種が奇型化したり……価格も高くなる。

最後に買ってくれる人に一番りっぱなキャベツが残った時、有機農法・無農薬野菜が個々の中で支えられ、社会的に現状を変えていく力をもつのだと思ふ。



●一人一人が独立自営
七年前、西萩窪のほびつと村一階「長本兄弟商會」に5人の仲間が集まり、この八百屋は始まった。「兄弟」とは同志という意味。「商會」は、自前の経営をつくり出すということで行われた。しかし、この名前に対しての反感は大きかった。「商」は、期待された善意に反するからというのであった。私達は生活費をそのなりわいから得ることが、全的に関わりきることであり、最後まで責任をもつことだと思つた。

それに加えて、長髪にヒゲ。仲間からは「商」に反感を買って、大衆の中へ「入る」には、スタイルが壁になり、一年半後には六百万の借金がたまる。

しかし、一方では、メンバーはどんどん増えていった。ほとんど資金というものをもちたい人達ばかりだから、エコロジー

の側面からリヤカーでの引き取りというスタイルをとることになった。一時は東京の街々を大小いろいろ、虫喰いも様々なキャベツ10個が八百屋に入る。八百屋は「選ばないでくれ」といつも声を大にして言っている。消費者の知恵と言われる選ぶという行為が、商品の均一化に繋がりが、そのための農業散布があったり、市場の規格がきびしくなったり、畑で捨てられる野菜が多くなったり、品種が奇型化したり……価格も高くなる。

最後に買ってくれる人に一番りっぱなキャベツが残った時、有機農法・無農薬野菜が個々の中で支えられ、社会的に現状を変えていく力をもつのだと思ふ。

無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」前林則子

NO.8

●自前の文化・教育
たつた八百屋一つやるために、諸々の付帯する仕事が増えてくる。それもまた、自分達の思想、生き方を模索できる仲間とやっていきたいと思う。店舗を造るのは、廃材や電柱を利用し、エコロジー的な設計をする工部部門「ファクトリー」。写真の撮影・現像は「PIPS(ピップス)」。そして加工食品は、畑で捨てられるひどい虫喰いの、傷みのをJACの加工場で、手造りの加工技術の継承といった意味合いも含めつつやっている。また、そのパッケージのデザインは、「リーフ」の仲間達だ。本来の仕事をしてゆくことは、文化をも変え、自らつくっていくことになる。

●百姓を目指す者達との連帯
「百姓」になりたくて、土地を見つけて過疎地や離島に入植した人達が、百姓で食べていくには、農業が一年一サイクルのため、失敗すれば終わり。有機農業・無農薬で作っても、大小や虫喰いものなど扱ってくれぬ所はなく、消費者と直接連帯していきけるような都市近郊は、土地が高くて手が出ない。蓄えもすぐ底をつき、結局は日銭稼ぎの土方仕事へ。八百屋が始めた動機の一つがここにある。

●郵便振替
東京五〇三二二
中村泰章
松戸市常盤平二一八七
前林則子

●あつと驚く……
五月二日朝早く、「事件のことが新聞に大きくのっているよ」という母の声に起こされた。私は何事だろうと思つて眠い目をこすって居間へ行くと両親は興奮気味で「早く新聞をよんでこらん」といって、私に朝日新聞を手渡した。

社会面をひらくと「爆弾我々が造った——ピース缶事件」という大きな活字が目に入りました。私は眠気もさき、一気に新

の学校給食との関わりもでき、生活協同組合との友好的な関係もできてきた。

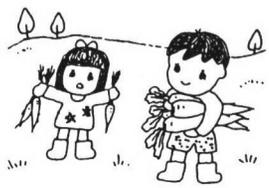
メンバーの多くは、30代中ばにさしかかっている。子供達の生活や教育が問題になってきた。自分達の価値観や、目指す環境や人間関係の中で、教育のあり方をつくり直してみたいと思う。「八百屋の小学校」の夢は、ますます大きくなっていく。

●松村・榎下・松本・坂本さんの
自白調書のほとんどは、強制的な取調べがあったことや、別件による違法な取調べの中で作られた調書であるため、任意性に疑いがあるということと証拠却下となりました。

土田・日石・ピース缶事件の捜査主任であった親崎検事は、法廷で「被告らと事件を結びつけるものは、自白調書のみである」と証言しました。このことからわかるように、私達が被告にされたのは、虚偽の自白調書によつてでした。

●あつと驚く……
五月二日朝早く、「事件のことが新聞に大きくのっているよ」という母の声に起こされた。私は何事だろうと思つて眠い目をこすって居間へ行くと両親は興奮気味で「早く新聞をよんでこらん」といって、私に朝日新聞を手渡した。

社会面をひらくと「爆弾我々が造った——ピース缶事件」という大きな活字が目に入りました。私は眠気もさき、一気に新



●あつと驚く……
五月二日朝早く、「事件のことが新聞に大きくのっているよ」という母の声に起こされた。私は何事だろうと思つて眠い目をこすって居間へ行くと両親は興奮気味で「早く新聞をよんでこらん」といって、私に朝日新聞を手渡した。

社会面をひらくと「爆弾我々が造った——ピース缶事件」という大きな活字が目に入りました。私は眠気もさき、一気に新

保育園ノート

22 最終回 橋本紀子

今回は、めくめくを書かねばならない(実は前回原稿をパスするにあたり次にめくめくを書くと書いてしまったからだ)ところが、めくめくどころかとてもしまらない最終回になってしまっただけだ。

「交流」の縮刷版を読みかえしている、えんどうまめ子さんの連載していた。今、保育園では「が目にとまり、再び読みかえしている。そして、私も当時のえんどうさんの心境にびつたりする思いにとられやり場のない気持ちをもて余している。今、保育園では「が連載されていた当時、私は民間保育園に勤めていた頃で、保母としての自分の存在は、子供の管理者としての意識が求められるよりも、保育園の経営者に抵抗する一労働者として意識する気持のほうがより強かった。

従って、保母の労働条件や設備的な問題が解決すれば、子供を管理する必要がなくなるといって漠然とした期待をもっていた。ところが、公立保育園に勤務するようになって、保母の労働条件が決してベストであるとはいえないが、民間に比較し(当時勤務していた園は厚生省基準を下まわっていたので)雲泥の差を感じる程ようになっており、その差の分だけ、子供に対する管理的発想が少なくなってきた。それなら、そうではないのだ。それなら、「保育園ノート」を書く過程の中で、ひよつとして、保育という行為が賃労働として対象化されたことに起因しているのではないかと思えてくるのだ。さて、そんな中で私が保育園で働き続けていく意味は……と自問する時、えんどうさんの言葉を思い出す。

保母が専門職として存在しうる所似が、あらゆる機会を通じて、最良、有効の方法で子供の成長発達を促すべく養護し教育するところにあるとするならば保母の子供への関わりには、常に一定の方向性が必要とされる。……中略……自己を殺してまで子供の成長発達のために存在することつまり歯車となること……専門職であることが歯車となることであるなら、いかに緻密な保育理論をもつてもいいやそれとではある程、相手の生きた子供は、操作対象として確実にモノ化されていく——この言葉は私達全保母につきつけられている刃である。

そして、賃労働者としての自分は、あくまでも賃労働者として果してどういう形で子供と関係を切り結ぶのだろうか。

四月、年度末に九十%出勤の可能ありといわれていたのにも反して、私はO保育園に残ることを決まり、保育熱心なK保母と三才児を受けもった。

この頃いつも保母車説(?)が頭の中に巣くっているせいの日頃の仕事にいや気がさしている私は、不まじめなわらわらない。K保母が子供達の中に入り、まごまご遊びを指導(?)しているのを目に、なにかひまひまぶしにすることはないかと雑用をさす。ある程度子供達が安定していれば、子供達は放っておいてもかかって遊ぶ、むしろかかって遊ばせたい。ところが、保母の人数が多くなると、雑用をしたり、乳児へのコミュニケーションにとってはプラスだが、子供が自由に遊ぶ時間に子供の遊びに介入することも多くなり、例え管理的な介入でなくても、子供への干渉によるマイナス面が目立つようになる。

が、どんな集まっておいでとあはれ、誰かがやろうと暖かくなるとほとんど毎日)衣類のとりかえや体洗い、体ふきなど十八名の子供達を二人の保母ではとてもじゃないけどやり切れない。またその時間に食事のしたく等がかさなったりするから、てんやわんやの騒ぎである。一日のうち、そんなてんやわんやの時間が必ず何度かあるのが保母の仕事の特徴といっている。しかも、そういった保母がどうしててんやわんやにならざるを得ない時間帯の節目と節目の間には、保母も子供もあつたれたような自由な戸外に出たい、できればお互いに干渉しあうことなくかたがたにすくすくが私にはベストな状態だと思える。ところがK保母はのんびりベンチにすわって、私のようにぼんやりしては子供にすまないと思わらう。

さあ、みんな集まっておいでとはじめる。私は、誰かがやろうと出出すまで放っておくのだ。……そして、子供達はそんな母ではとてもじゃないけどやり切れない。またその時間に食事のしたく等がかさなったりするから、てんやわんやの騒ぎである。一日のうち、そんなてんやわんやの時間が必ず何度かあるのが保母の仕事の特徴といっている。しかも、そういった保母がどうしててんやわんやにならざるを得ない時間帯の節目と節目の間には、保母も子供もあつたれたような自由な戸外に出たい、できればお互いに干渉しあうことなくかたがたにすくすくが私にはベストな状態だと思える。ところがK保母はのんびりベンチにすわって、私のようにぼんやりしては子供にすまないと思わらう。

長時間保育の問題を討論していいやね、ネットになっていくと思われ、保母はオールマイティであらねばならないという考えである。背景は、共産党の教職=聖職という考えと同じような保母の職業に対する見解だと思える。しかし、労働組合のような革新側(?)のほうからできたことにひびく困惑してしまうのである。長時間保育の問題ができたことを契機に、私達は是非、保母はオールマイティであるべきだという思想性を打ち破らなければ

ならないと話し合っている。ところが、K保母のように、単なる執事ある仕事好き(保育にやりがいをも求めている)の保母達に完全無欠なる保母像がささげられていくからやっかいだ。そして、保母が自身の人間であることを見ずから主張することとは、本音における所での共感をよんでも、タテマとして否定されてしまう。しかし、今私にできること、それはO保育園の保母達がお互いに本音でつきあいができるような私自身の生き様をさらすことではないかと考えている。それは保育園ノートの後の職場における運動といえるにはあまりにも程遠い行為とも思えるのだけれど……。

また保育園ノートの後を数年経過して書かせていただければ幸いですと思っております。 終り



「〇〇共同購入の会」のパンフ、4年めにしよつとできまして、一部送らせていただきました。三里塚のワンパック野菜をとっている仲間で作っています。いつのまにか4年すぎてささやかながらも根づいてきたようです。まず野菜をたべることから、そしてほんの教本でも歩めだせたら、今の生活のおかしさに気づけたら、と思います。話は変わるけど、黒岩秋子さんの「お子育て」読んでます。わが家も4才、2才半、そして2月に生まれた赤坊の三人、子育てのまっ最中、大変さとおもしろさで、もう毎日しゅつちやかめつちやかという感じです。7人も生んじやった気持ちわ

話になりません。 労務管理、しめつけ強化の会社の露骨な意図に対し、我々は腰をすえて、徹底的に闘うほかありません。 ぼくらの育児時間指名ストを描いた芝居「ゆたかな時間」(30分)もなかなか好評で、再演の申込みがあちこちから来ている。そのうち競演でも。 (全石油シェル労組・T)

「雷おやじの会」はもう一つ「チビツ子教育相談所」という看板を掲げている。名前はいかめしいが、要するに、こどもに関することもたち自身の、あるいは親からの相談のために、専門のカウンセラーを置いているのだ。 これまでに、元番長の息子が復学するに際しての母親からの相談、父親に愛人がいるので両親の仲が悪いという中学生の女の子からの相談に、本人と直接

会い、あるいは自宅に訪ね、さまざまな調整活動を試みている。また、同会は「父権回復」といって、父権回復を促すような気持ちで、いわばチビツ子の応援団のような形でこの会を運営している」といっている。 会員に有名人が多いため、全国各地のPTAや教育委員会から講演の依頼が多い。この謝礼は全て運営費にまわしている。 「雷おやじの会」というブランドを利用してどうしようとしていくわけではないのだ。むしろ、世話人の人たちは自らのおカネを持ち出しているとも聞く。

時期が時期だけに、いろいろなマスコミに大きく取り上げられ、その反響の大きさに驚いているという。息の長い運動をめざし、マラソンランナーのつもりで、どこがゴールになるか知れないが、地道にやっています。事務局が正式発足したのが昨年九月二十二日、十月十日に世話人の顔合わせをした後、活動方針を討論したり、発足式や記者会見、機関紙編集などを主に本部(中野区上高田五―四七)やサンプラザで行ってきた。時には世話人の家で議論したこともあるという。 そして、現在は月一回、テーマを決めて議論、勉強会を開いてきた。今まで取り上げられたテーマは「しつとと体罰」「父権の回復について」など。

《雷おやじの会》 取材印象記

大邑 涼 (男の子育てを考える会 会員)

つける大人がいないんですよ。(中略) こどもに対して教育的ではなく、むしろ側面から楽しむ、こどもを励ますような気持ちで、いわばチビツ子の応援団のような形でこの会を運営している」といっている。 会員に有名人が多いため、全国各地のPTAや教育委員会から講演の依頼が多い。この謝礼は全て運営費にまわしている。 「雷おやじの会」というブランドを利用してどうしようとしていくわけではないのだ。むしろ、世話人の人たちは自らのおカネを持ち出しているとも聞く。

「〇〇共同購入の会」のパンフ、4年めにしよつとできまして、一部送らせていただきました。三里塚のワンパック野菜をとっている仲間で作っています。いつのまにか4年すぎてささやかながらも根づいてきたようです。まず野菜をたべることから、そしてほんの教本でも歩めだせたら、今の生活のおかしさに気づけたら、と思います。話は変わるけど、黒岩秋子さんの「お子育て」読んでます。わが家も4才、2才半、そして2月に生まれた赤坊の三人、子育てのまっ最中、大変さとおもしろさで、もう毎日しゅつちやかめつちやかという感じです。7人も生んじやった気持ちわ

「〇〇共同購入の会」のパンフ、4年めにしよつとできまして、一部送らせていただきました。三里塚のワンパック野菜をとっている仲間で作っています。いつのまにか4年すぎてささやかながらも根づいてきたようです。まず野菜をたべることから、そしてほんの教本でも歩めだせたら、今の生活のおかしさに気づけたら、と思います。話は変わるけど、黒岩秋子さんの「お子育て」読んでます。わが家も4才、2才半、そして2月に生まれた赤坊の三人、子育てのまっ最中、大変さとおもしろさで、もう毎日しゅつちやかめつちやかという感じです。7人も生んじやった気持ちわ

この間より、予約終了の表書きを横目でみつつ、いまだに送金しない怠慢な読者に怒りもせず、又送って下さってありがとうございます。今度こそ送りましょう。 「交流」の縮刷版が届いた日より、眠られぬ夜が続いて、それでも夜、子どもたちが寝てしま、自分の時間ができると、ついフラフラと「交流」を手にするこの頃です。 「共同保育」2年目をむかえながら、四面楚歌の現実、突破口をもとめ、あえぎあえぎの毎日です。そのうち報告もしたいのですが……

「野菜たちに未来を」読ませ

「交流」からは、闘う人のやさしさが伝わってくるよう、いつも楽しみにしています。 増野さんのゆき届いた心くばりも気持ちよく。 私は校正を始めて10年になりました。気がつく年ばかり重ねてきたみたい。子どもたちが(息子は昨年、娘は今年から) 立ち荷を軽くしたところから。 T.

「交流」からは、闘う人のやさしさが伝わってくるよう、いつも楽しみにしています。 増野さんのゆき届いた心くばりも気持ちよく。 私は校正を始めて10年になりました。気がつく年ばかり重ねてきたみたい。子どもたちが(息子は昨年、娘は今年から) 立ち荷を軽くしたところから。 T.

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

門野晴子



あれよあれよという間に新学期に入ってしまった、娘は兄の通った地域のI高校、権利としての最低ランクの公立に通学する。紺のブレザーに赤いネクタイ、グレーのベストとスカート、校章入りワイシャツに身を固めてニヤツとするニキビ面は、まるで色つきの鯛焼き。中学校の輪切り宣告にもめげず、ピッカピカの自転車とギターを抱え、こんなふうれしうに登校するガキがいるかしらと思うほど喜々として出かけては、はや二、三の教師をイビっている。

決して好んでではなく、いい気になりたいわけでもなく、できることなら平均的絶対多数の「身分」に甘んじて大人しくし

り、むねのどきどきするようなおもしろいことがしたいや」と。

第一章「授業のさばりかたおしえます」では、主人公たちが給食室のリフトの中にかくれる話が出てくる。

まさに、胸のドキドキする楽しい冒険。ひよとして、この著者は自分でこういう体験をしたのではないかと思えるぐらい実感がこもっている。

第二章「宿題しないでごまかせます」は、学校の中庭に飼育されているアヒルとバリエンの雑種ドバンを散歩につれだし、結局川に逃がしてしまう話である。

ウルサ先生は宿題を忘れてきた子に罰として、倍の宿題をやらせる。ニコテンくんは2回忘れていったから、4倍の二二〇問を課された。ニコテンはため息をつくけど、すぐにうまいやり方を思いつく。友人の熊倉くんと村田くんのノートをうつせ

ばってやりとげた学校行事のいくつかがあった。歯を食いしばり、夜中までそれらの仕事と受験勉強をやり、それで太ったというのが何とも解せないが、三学期に入ると、教師との対決のホルテジが上がる。やはり大ごとには、活字になって後に残るものがあった。例えば、学校新聞の卒業特集。学級代表が「仰げば尊しわが師の恩」とソツなく御礼を述べるヤツ。娘は「奥の細道」のイントロを授業で暗唱させられて皆にお馴染みのところから、「進学の細道」を書いて芭蕉をあきさせた。「月日は三年の速さにして、行きかふ友もまた受験生なり。机の上にテストを浮かべ、雑誌

の口封じられて成績を待つ者は日々いららして、進学を目的とす。私も中三の年よりか勉強のムードに誘われて、点取虫の思ひやまず、教室にさすらへ、今年の冬、斑鳩の高校に受験料払いて、やや時が過ぎ、春立てる霞の空に、合格の関越えむとそぞろ神のものにつきて心狂はせ、北野天満宮へ祈願するに取るの手につかず、問題集を買いだめ、鉛筆けずりかへ、目薬を流しこみ、問題のヤマまづ心にかかり、卒業式もうわの空の義務教育修了の見こみとなり決のホルテジが上がる。やはり大ごとには、活字になって後に残るものがあった。例えば、学校新聞の卒業特集。学級代表が「仰げば尊しわが師の恩」とソツなく御礼を述べるヤツ。娘は「奥の細道」のイントロを授業で暗唱させられて皆にお馴染みのところから、「進学の細道」を書いて芭蕉をあきさせた。「月日は三年の速さにして、行きかふ友もまた受験生なり。机の上にテストを浮かべ、雑誌

をを広げて青春の第一歩を思い出してはどうか……」担当の教師が書き替えてくれという。娘はイヤだと返す。教師は他の教師に相談して回る。一部だけ書き替えるなら全部ボツにして」と頑張る。ぎりぎりまで闘いは続き、ナントそのま

ま載ったぜ！教師が会議を重ね、憲法の精神で了解したのでないことは言わすもがな。スキあらばターゲットにされる。生活指導が娘の服装違反を見つけ、グラグラと長い説教が始まる。途中でさき

「やっぱり、天神さんへあそびにいって、トクした」と思う。日曜をまるまるつぶして勉強した子でも、いい点とれなかつた子は沢山いるんだから、それぐらいなら、たつぷり遊んで、それでいい点とれない方がトクなのだ。

世間サマにはこよなく評判の悪い母子だが、女の部分を優先させてきた私ゆえに、かような「母子連合軍」になれたことが夢のようで、幸せと面白さを噛みしめている。

息子と「母子連合軍」になれたのは、まずの氏が100号に書いてくださったことと、東京時代に息子の二のときの事件を境にして、以後、息子の私に寄せる信頼ときたら、何せ女サカリと思春期の男の仲よしぶりだから、「誤解」されるほどで、ピツタリと寄り添って魔の高校時代を切り抜けた感がある。

「子供も文学」
「勉強しないでいい点とれます」
「やっぱり、天神さんへあそびにいって、トクした」と思う。日曜をまるまるつぶして勉強した子でも、いい点とれなかつた子は沢山いるんだから、それぐらいなら、たつぷり遊んで、それでいい点とれない方がトクなのだ。

生ばかりじゃないわ、いい先生もいるのよ、と、「いい先生」を信じて小中高お預けし、管理されきつた鯛焼きがでてきても、あたしや知らん。殺されるとは肉体的にばかりではない。

この春、息子は東京の私大を三つともスベリ、水道橋の子備校に入学した。アンチ学校教育にはこういう報復も待っている。私は学校と一日も早く手を切りたいから、進学は望んでいなかった。うちの子は頭がいい、学力という能力がないだけで、と本気で思っていた。ところが、息子の手紙には思いがけないことが綴られていた。

「予備校はオレの想像に大いに反した。というのは、オレは詰めこむだけの悲痛な授業を想像していたので、それに耐えるべくかまえていたところが、何とこれが面白いなんだよ。九〇分授業なのに長さを感ぜさせないんだ。聞けば聞く程面白い。勉強して面白くないなんて思っていたのは今まで何回あったろうか。オレはやっとオレの求めてい

いいのだろうか？」と。作者もきつと同じ思いにちがいない。しかし、作者は嘆いてばかりいないで、そういう学校の力をのりこえていく力を、ニコテンくんのような、ふてぶてしい息子もまたちのバイタリテに見出そうとされているのだ。

「お勉強するときは、いっしょけんめい勉強する。そのかわり、あそぶときは、力いっぱいあそぶ。給食のときは、しつかりたべる。」つまり「ものごと

い、おとなだつて、ウル

た学校や教師にめぐり会えたよな気がする。ここには「わからんかったらおいとけ」という教師は一人もいないし、服装や髪を長さをうるさくいう教師もいない。しかし不思議なことに、皆さつぱりした服装で学生らしい。高校の三年間、そして九

編集後記

タタミ敷程度の庭ながら、ここに野菜クズを埋めるようになって何年になるだろう。近頃は強ればミミズがでてくるようになった。「雑草を刈れば」と気にする人もいるが、茂るにまかせておくと、いろんな虫が寄ってくる。ビニールで囲った小池にオタマジャクシ時代から住みついた牛ガエルが、この虫たちを食べて成長し、今や近所中にひびく声で鳴く。

雪柳にアブラムシがびっしりついたので、いっそそいと思いに殺虫剤を、という気になるのをグツと我慢して見ていると、そのうちアリの大群がやってきてアブラムシの勢力はおとろえ、雪柳は生きのびる。

なるほど、これがエコロジーかと、小さな空間にも自然の法則がたらぬかかれているの教えられる。天敵がいれば、その天敵の天敵もいる。それらのバランスの上に世界が成り立っている。

こういうバランス感覚を失って「そのけ、そのけ」の発想にとりつかれた人間は、やがて自分の体内に、自らを滅ぼす天敵を生み出す。自分を省みる心とは、つまり自然のバランスから学ぼうとする心なのだ。立川局の消印のあるハガキで「縮刷版」を申込みました方。住所氏名が書いてありません。至急お知らせ下さい。



佐々木 赫子 作 (子ども文学) 勉強しないでいい点とれます

評「ますのきよし」

「やっぱり、天神さんへあそびにいって、トクした」と思う。日曜をまるまるつぶして勉強した子でも、いい点とれなかつた子は沢山いるんだから、それぐらいなら、たつぷり遊んで、それでいい点とれない方がトクなのだ。

定時制高校・夜話

その② 佐々木 賢

「ほんとう、知らなかった」(と)との新しい関係を作り上げた。あの子、あたしとタメ(同じ年)なのよ……」などと生徒たちが楽しそうに話をしている。授業と無関係なことを、それも幼児がよめるように声をはり上げて、ウザッテの(このことは生徒がよく使っているが、意味が曖昧である。とにかく悪い状況や態度や服装などの形容語として、広く用いられている)などという相手腹をついてふざけている者もいる。

この情景は放課後や休み時間のそれではない。四、五月頃の一年生の授業風景である。大部分の生徒が教師の話など聞いてない。誰しもがタチ(友達)

だ)との新しい関係を作り上げた。あの子、あたしとタメ(同じ年)なのよ……」などと生徒たちが楽しそうに話をしている。授業と無関係なことを、それも幼児がよめるように声をはり上げて、ウザッテの(このことは生徒がよく使っているが、意味が曖昧である。とにかく悪い状況や態度や服装などの形容語として、広く用いられている)などという相手腹をついてふざけている者もいる。

この情景は放課後や休み時間のそれではない。四、五月頃の一年生の授業風景である。大部分の生徒が教師の話など聞いてない。誰しもがタチ(友達)

「ほんとう、知らなかった」(と)との新しい関係を作り上げた。あの子、あたしとタメ(同じ年)なのよ……」などと生徒たちが楽しそうに話をしている。授業と無関係なことを、それも幼児がよめるように声をはり上げて、ウザッテの(このことは生徒がよく使っているが、意味が曖昧である。とにかく悪い状況や態度や服装などの形容語として、広く用いられている)などという相手腹をついてふざけている者もいる。

この情景は放課後や休み時間のそれではない。四、五月頃の一年生の授業風景である。大部分の生徒が教師の話など聞いてない。誰しもがタチ(友達)

前回、色つきの鯛焼きのようだと書いた娘の制服は、夏姿になって、校章入りのカッターシャツとスカートだけになった。ネクタイもつけずともよく、二のボタンまではずした胸元が涼し気だ。ところが、夏姿になってから服装検査で急に引っかけり出した。

娘の担任は二十代後半の国語の男教師と、副担任は新卒の社会の男教師。服装検査は主に副担任がやるが、違反の男子生徒の頭を教科書の角でなぐりつけ、すねを蹴り上げては順に正座をさせていくというすさまじき。女子生徒の番がきたころには副担任は完全に過熱している。ある女子生徒の胸ぐらをつかんでゆさぶった後、娘のソックスを指摘して近寄ってきた。娘は副担任をハッタとらみつける。

「何や、その靴下は」「白のソックスです。どこがいけないんですか」「編目は違反だ」「夏だからメッシュをはいたんです」「いかに」「なぜですか。

生徒手帳には白の靴下と書いてありますが、メッシュがいけないとは書いてありません」「とにかく違反や」「どうしてこの白いメッシュの靴下が違反なのですか」「オレは知らん」

オレは知らん、のに娘は服装違反のチェックをされた。どうしてメッシュが「白の靴下」に違反するの理由がはつきりするまではいって、と娘はがをはって三足千円のそれを引き続け、連日の違反となって担任に放課後呼ばれる。

夏姿で一段とやかましくなったのは、ソックスやパストだけでなく、カッターの下にすける白のTシャツの模様や文字まで違反であり、その下のブラジャーまで純白の無地でないとお気に召さぬらしいのだが、流石にそこまでの統制は文章化できない何かがあるのか、それともアイマイにして生徒をイビる楽しみを残したのか、騒ぎの原因はそのアイマイゆえに教師の主観が左右するところにある。

入学以来、同じ制服で通学しているのに、娘はスカートが短いのと副担任に注意された日があるのも、彼の気分次第でスカートが長くも短くも見えるところだ。それにしても、よく見ているよなア。ドスケベ。

さて、担任との服装について長いやり取りである。娘はくはなぜですか。ちょっとこは

丙十舞雅里つれづれ 斑鳩日記

門野晴子



ひどすぎる」「それぞれの家に家風というのがあるように、校風というのがある。ひどすぎるというが、Tシャツも靴下も制服の一部なんや」「どうやって決めたんですか」「職員会議で一番高校生らしい服装というので決めた」「高校生らしいわかってもらうために話しているんや。つまりやな、枠組というものがあって……」

と、ここから何を言っているのかサッパリわからなくなった。というの、娘の理解力が悪いのか、教師の説明が悪いのか。彼女は全然わかりません。と言って帰ってきたそう。

「然とした顔で私に叩きつけて。要するに、学校はイモイモ格好をさせたいわけ。生徒が嫌がることを承知で、強制することに意義があるのよ!」

☆ ☆

二年前だったか、大阪で起こった制服論争は、詰襟かブレザーか意見が真二つに割れたことがあった。制服が私服かという、制服に対する根本的な問いは、そこにはもう見られなかった。ブレザーを支持する学校と父母の理由は、本校の学生とすぐわかって非行防止になる、というのだったから、私はそれが目的ならシマシマの囚人服にしたらよからう、と新聞に投書してボツになる。

今はもう制服はほとんど定着

で最底辺といわれる定時制高校で、この非学気分が広がっているというところは、ある重要な意味があると思う。

私はこの数年間、自分の授業そのものが悪いのではないかと、思い、内容を変えてみたり形式を多様化してみたりしてきた。しかし、どうにもこの非学の波には抗うことができない。『まだ努力が足りないのではないか』という批判も受け入れないわけではない。ただ、どうにも教師の努力を越えた何かがあるように思えてならないのである。

これは定時制だけの問題ではない。学校制度全体の問題である。制度のひずみが定時に過ぎない。授業に対しての徹底した無関心な態度、学校制度の犠牲者である若者たちが、必死になって自分の欲求に根ざした世界を作ろうとして、もがいて



無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」
前林則子

NO. 9

ど記憶に残っていないのですが、卒業を記念して、新聞部の友人達と行った温泉旅行は、今でも記憶に強く残っています。一言、いえば、よく食べ、よく笑いで、よく喋った旅行でした。しかし、楽しい旅行だったのに、私には一つだけ物足りなかつた感じがありました。

「この出てくる人物はほとんど被害者意識オンリーであり加害者意識がゼロなのではなからうか？」

「灰谷さんは一人の人間を善く、悪く、悪人から善人へ、善人から悪人へ、悪人から善人へ、と変えているのではなからうか？もしも、その人間の善悪を疑うのがこの人間は善悪をつねに持つ。それが相争い、なるべく善玉になろうとするが、どうしても悪があらわれ、悪が勝つということがある。交互にあらわれることもある。……」

「これだけの引用では舌足らずかもしれないが、奥田の言っていることを自分なりに消化してみると、我々の生きている状況は、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

怪我による長期入院のため、四年で卒業するのが、危ぶまれていたのですが、一九七〇年三月、何とか大学を卒業することが出来ました。一九六九年末は卒論を書きあげたため、徹夜の日が続き、提出日には遅刻するというアクシデントもありましたが、無事提出しました。大学の卒業式はほとんど

「一九七〇年春から夏」
大学を卒業した私は、小さな出版社に勤めましたが、二月程で退社しました。また、五月には、家を出して行きます。原因

「一九七〇年秋から冬」
七〇年安保といわれながらも、今ではいろいろな立場性が主張されている。人種対立、健全者と「障害者」、男と女、教師と生徒、など……。そして、一般的な言え、差別されている側、の言いに正当性のある場合が多いのは事実だけれども、だからといって「常に必ず」というわけではない。一面では「被害者」だが、他面では「加害者」であるケースも少なくない。ところが、自らの被害者性を強調することは、一種の大義名分に支えられてやりやすいが、自分の加害者性を指摘することは、自己否定につながる。結局は、苦痛をともなう自己批判の方は省略して、加害者糾弾の大義名分だけがまかりとおる傾向が強くなる。「善玉対悪玉」の単純発想の方が受けやすいのは、このためではないか？



奥田継夫の「灰谷健次郎・小論」を読んだ。そして、これまで灰谷作品を読んで、たしかに感動を受けたが、どこかモヤモヤと残るものがあったのを、整理してみせられたような気がした。

「ワルのポケットをひっくり返せば、万引きした獲物のかわりに人間のやさしさと正義が出てきたというカラクリでもって無理解な人、目覚めよという理念が押しつけられてくる」

「沖繩を理解する三人と沖繩の人以外のおかたの登場人物やおかたの読者がほんとうのやさしさを理解しないダメな人間として糾弾される」

「ここにでてくる人物はほとんど被害者意識オンリーであり加害者意識がゼロなのではなからうか？」

「灰谷さんは一人の人間を善く、悪く、悪人から善人へ、善人から悪人へ、悪人から善人へ、と変えているのではなからうか？もしも、その人間の善悪を疑うのがこの人間は善悪をつねに持つ。それが相争い、なるべく善玉になろうとするが、どうしても悪があらわれ、悪が勝つということがある。交互にあらわれることもある。……」

「これだけの引用では舌足らずかもしれないが、奥田の言っていることを自分なりに消化してみると、我々の生きている状況は、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

「奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。それは、奥田の言う通り、加害者の側面と被害者の側面とを繰り返している。……」

延長保育に反対しよう全都集会

熱気ムンムン一〇〇人。(港区)内山知子

東京都・区に働く仲間が手をつなぎ、6月12日「延長保育に反対しよう全都集会」を行ないました。

呼びかけは、保育労働者交流会と都職労働者交流会有志と延長保育に反対する数区の保育労働者で作っている「延長保育反対連絡会」です。延長保育導入を阻止する横断的団結の必要から今年3月に結成されたばかりの連絡会です。

当日は、100名の仲間が結集し、各区の反対運動の報告と共に56名(うち保育園67名の人員削減案が出されている品川区の仲間からの特別報告も含まれました。

組合として延長保育に反対している区や、逆に組合が延長保育に賛成している中で組合としての力を削りながら有志で反対の闘いを頑張っている区とさまざまな。みんな「これ以上の労働強化を招き、子供に無理を強いる延長保育を絶対に許してはいけません」という思いは同じです。

「あなた自身による芝居作りの集り」
毎週火曜日夜7時より、阿佐ヶ谷ひろばにてやります。
芝居を特別な人たちのものではなく、ごくあたりまえに暮らす人たちの手で創り、演じ、見て、暮しや労働や世の中を見なおし、本心に豊かな生活をつくるのに役立つものにしていきたいと思います。

問合わせ 劇団展望 三三三三二七三九、三好又は管井、午後3時〜6時。

「あなた自身による芝居作りの集り」
毎週火曜日夜7時より、阿佐ヶ谷ひろばにてやります。
芝居を特別な人たちのものではなく、ごくあたりまえに暮らす人たちの手で創り、演じ、見て、暮しや労働や世の中を見なおし、本心に豊かな生活をつくるのに役立つものにしていきたいと思います。

「あなた自身による芝居作りの集り」
毎週火曜日夜7時より、阿佐ヶ谷ひろばにてやります。
芝居を特別な人たちのものではなく、ごくあたりまえに暮らす人たちの手で創り、演じ、見て、暮しや労働や世の中を見なおし、本心に豊かな生活をつくるのに役立つものにしていきたいと思います。

— which kind of world will they live in when they grow up —

六月十二日、国連本部で行われる核全面廃止特別委員会にむけて、反核運動が世界的にも上っている中、このロサンゼルス日本人町にある敬老ホームの中の集客室で昨夜

“Ladies and Gentlemen thank you for joining us. I am very pleased to see so many people here. Tonight, we have several special speakers.....”

と言っ挨拶からはじまり、「もしあなたが私達のグループに賛同し、核兵器の全面撤廃を望むのなら、さきほど入口で皆様を渡した小さなこのブルーのリボン、あなたのとりに座っている人につけてあげて下さい」とスピーチし（モチロン、英語でした。）

Asian Pacific Americans for Nuclear Awareness (核兵器を考えるアジア太平洋系連絡会議) 主催による、ドキュメンタリー映画「Survivors」(被爆者) 一広島、長崎で被爆した日系アメリカ人の記録映画「ピリミア・ショー」として上映された。

この映画は、日系アメリカ人三世ステイブ・岡崎氏がサンフランシスコの日系アメリカ人市民連盟(JACL)の協力の元で制作したドキュメンタリーフィルムで、敬老引退者ホームに住んでいる一世の人々を含めた二百人を上回る人々の熱気の中で司会者の

「You are too nervous.」隊にとられており、郷里、広島に長崎に残っていた人々のほとんどが女性であったからだ。

現在、四十代、五十代にある彼女(彼)らにとって最大の問題は、メデイカル、インシュランスの問題である。

彼女らが何を望んでいるか、

この三十八年間、何を望んでいたか。それは、専門医に診てもらい、医療保険の下で、きちっとした治療を受けることである。信じたことだが、アメリカには、被爆者のための専門医も病院もない。

体の不調を訴え、勇気をもって被爆した事実を述べても



在米被爆者の証言

「ドキュメンタリーフィルム『サバイバルズ』を観て」

ロス在住 藤井 涼

拒否されてしまふ。アメリカの医療費は、べらぼうに高い。

そして、彼女(彼)らは、彼女の言葉をかりて言うならば「We always carry the memory of the bombs with us. If uncomfortable.」

健康への不安、その上に、金銭的な不安、それも莫大な額のこのフィルム「サバイバルズ」は、各自の自己史をのべながら核の恐怖、そして、こうした自分達の状況を静かに訴えている。「ヒロシマ」「ナガサキ」についてギルティ(罪)を感じているアメリカ人も数多くいるかもしれない。しかし、そのほとんどがABC(広島)にある原爆被害調査委員会)の設置等で被爆者に対する責任ははたしている、はたし終ったと思っ

「核」に対する恐怖、知識も日本人に比べるとほしい。知らされていない。語りたがらない。こうした中で、在米被爆者の運動は、時に孤立し、苦しいものであったに違いない。

彼女らの語りは英語であったため、すべて理解することはできなかつたが、彼女らの一言一言が私の胸にさざつた。

そして、「原爆おとめ」として渡米し、現在、新生児病院で看護婦として働いている一被爆者が、ゲスト・スピーカーとして最後に言った、本文冒頭の言葉「いつも、私は、新しくこの世に生まれてきた子供を見て思う、この子供が大きくなった時、どんな世の中になつていくのだろうか.....」

私の経験したような、むごいしうちを受けさせたくない。戦後三十七年——被爆者問題を考える時、同じ在米日本人からは、医療援助を要求している彼女らを「じじきばならない」と言う。

呼ばわりされ、アメリカ人からは「敵だつたのだから」と言われつけ何の援助(精神的、物質的)も受けられずにいる彼女(彼)らにとっては、アメリカ政府、日本政府にむけ、医療、生活の援助(治療等)を要求する戦いは、やっとな、はじまつたばかりである。

こうした「忘れられた人々」在米被爆者、朝鮮人被爆者達の存在をも忘れてはならない。

そして最後に、反核運動は、私達の為のものではなく、子供達にどう伝えて行くか、が大切であることは言うまでもない。

この映画が日本でも上映されること、ロスより希望します。(一九八二年六月)

限りなく危険(資本の論理)に近い快楽を

もどめる八百屋70人衆

JAC(ジャパニーズ・アグリカルチャー・コミュニティ) 八百屋のセンター 下 小野 敏明

●有機農法・無農薬八百屋なんて常識ではできるわけない

本来食べ物は安全であり、安全なものでも食べることができないなければならない。「安全な食べ物」は、戦略の為に存在するのではなく、生きていくための必要最低限のものとして、街の中に自然と存在しなければならぬ。そのなりわいとして八百屋が街にあつてよはずである。

「三里塚のたたく野菜たち」水俣の甘夏みかんが公害を告発する」とか.....食物が社会の諸々のヒズミをまともに受けたら、あるいはその裏返しとして存在していることも事実だ。そうした視野もきちんとつとこと大切だが、それはあくまでも現時的な問題である。そうした運動のテーマとしての食べ物では、貧困ではないか。食べ物は、ま

百姓は、今まで化学農法に痛めつけられた畑を復元するのに時間がかかる。都市で生活する者は、複合した公害の中で育つ子供達にいち早く安全なものを出さう。そして、私達が出逢いたい人達は、決して金銭的に豊かではない。そうした事情を受けとめ、解決への糸口を探る中で、現況に投げ返すことが相互に次の段階へ登っていくことにつながると思う。

●みんな八百屋になあれ!

JACも含め、八百屋は今までの様々な批判を受けてきました。誤解によるものもありました。どちらが正しいかすぐ決めてしまわなければならぬ問題でなく、確かに八百屋の力不足でできていないところをつかせることもままあります。

●八百屋への招待状

私達の動きが始まって、今年で7年目。八百屋同人も70名を越え、生産者も全国に拡がりました。しかし、ここにも有機、無農薬、旬、自然、土.....などを「商品」として企業が動き始めています。私達は物だけの流通を目指してはならず、その方法の一つとして、八百屋方式で一人一人に一つ一つ手渡してきてきました。それは、農産物を通して

作り手・渡し手・食べ手の枠を越えて、生活を透視する関係をつくること。

★その中で、生きている自然と個々異なる人間同士が、各々各生か合えること。

★村や街の地域をつくり直すこと。

★自然を活かした思想を互いに生み出すこと。

★全体を流れる農産物が自生する人を、そしてまたその輪が次の時代を捕えることを願っています。

「核」に対する恐怖、知識も日本人に比べるとほしい。知らされていない。語りたがらない。こうした中で、在米被爆者の運動は、時に孤立し、苦しいものであったに違いない。

彼女らの語りは英語であったため、すべて理解することはできなかつたが、彼女らの一言一言が私の胸にさざつた。

そして、「原爆おとめ」として渡米し、現在、新生児病院で看護婦として働いている一被爆者が、ゲスト・スピーカーとして最後に言った、本文冒頭の言葉「いつも、私は、新しくこの世に生まれてきた子供を見て思う、この子供が大きくなった時、どんな世の中になつていくのだろうか.....」

私の経験したような、むごいしうちを受けさせたくない。戦後三十七年——被爆者問題を考える時、同じ在米日本人からは、医療援助を要求している彼女らを「じじきばならない」と言う。

呼ばわりされ、アメリカ人からは「敵だつたのだから」と言われつけ何の援助(精神的、物質的)も受けられずにいる彼女(彼)らにとっては、アメリカ政府、日本政府にむけ、医療、生活の援助(治療等)を要求する戦いは、やっとな、はじまつたばかりである。

しかし、現実には「シカゴの穀物相場」が世界の政治を決めるときか、コココーラがアメリカの経済侵略の先兵としてその任務を果たしているとか、かたや「

「You are too nervous.」隊にとられており、郷里、広島に長崎に残っていた人々のほとんどが女性であったからだ。

現在、四十代、五十代にある彼女(彼)らにとって最大の問題は、メデイカル、インシュランスの問題である。

彼女らが何を望んでいるか、

この三十八年間、何を望んでいたか。それは、専門医に診てもらい、医療保険の下で、きちっとした治療を受けることである。信じたことだが、アメリカには、被爆者のための専門医も病院もない。

体の不調を訴え、勇気をもって被爆した事実を述べても

健康への不安、その上に、金銭的な不安、それも莫大な額のこのフィルム「サバイバルズ」は、各自の自己史をのべながら核の恐怖、そして、こうした自分達の状況を静かに訴えている。「ヒロシマ」「ナガサキ」についてギルティ(罪)を感じているアメリカ人も数多くいるかもしれない。しかし、そのほとんどがABC(広島)にある原爆被害調査委員会)の設置等で被爆者に対する責任ははたしている、はたし終ったと思っ

「核」に対する恐怖、知識も日本人に比べるとほしい。知らされていない。語りたがらない。こうした中で、在米被爆者の運動は、時に孤立し、苦しいものであったに違いない。

彼女らの語りは英語であったため、すべて理解することはできなかつたが、彼女らの一言一言が私の胸にさざつた。

そして、「原爆おとめ」として渡米し、現在、新生児病院で看護婦として働いている一被爆者が、ゲスト・スピーカーとして最後に言った、本文冒頭の言葉「いつも、私は、新しくこの世に生まれてきた子供を見て思う、この子供が大きくなった時、どんな世の中になつていくのだろうか.....」

私の経験したような、むごいしうちを受けさせたくない。戦後三十七年——被爆者問題を考える時、同じ在米日本人からは、医療援助を要求している彼女らを「じじきばならない」と言う。

呼ばわりされ、アメリカ人からは「敵だつたのだから」と言われつけ何の援助(精神的、物質的)も受けられずにいる彼女(彼)らにとっては、アメリカ政府、日本政府にむけ、医療、生活の援助(治療等)を要求する戦いは、やっとな、はじまつたばかりである。

呼ばわりされ、アメリカ人からは「敵だつたのだから」と言われつけ何の援助(精神的、物質的)も受けられずにいる彼女(彼)らにとっては、アメリカ政府、日本政府にむけ、医療、生活の援助(治療等)を要求する戦いは、やっとな、はじまつたばかりである。

呼ばわりされ、アメリカ人からは「敵だつたのだから」と言われつけ何の援助(精神的、物質的)も受けられずにいる彼女(彼)らにとっては、アメリカ政府、日本政府にむけ、医療、生活の援助(治療等)を要求する戦いは、やっとな、はじまつたばかりである。

編集後記

●梅は意外に足が早い。売れ残つたらしい黄色い梅を段ボール一杯(約6kg)五百円にするから持っていくと、顔見知りの八百屋さん。いくらなんでも多すぎると迷っていたら、隣で買物していた主婦が「へえー梅ジャムにできるの?」と興味を示す。作り方はイチゴジャムと同じだと説明したら、彼女も作ってみると言ひだし、半分ずつにしてみようといふので、うちで一番大きいナベで煮て、うちで一番大きいナベで煮て、ジャムの空ビンを総動員して詰めこむ。冬は水俣の甘夏でマレードを作るが、梅は残念ながら農薬つき。寒多くんには叱られるが、やむをえざる妥協といふところ.....

●「We」誌の読者会をやつていた時の話。「今の学校の規則づくめはこまかすぎる」という辺りまでは一致していると思つていたら、話が進んで、パーマの是非、タバコ、酒の是非論にな



定時制高校・夜話

新連載 その(3) 佐々木賢

その日、夜の一時ごろから人が集り始めた。バイクがおよそ三〇台、一台に二人乗りで来る者もいるから、およそ数十人の少年たちが校門の周辺にたむろしている。手に手に木刀やヌンチャク、それにモップの柄のような物を持っていて、いかにもものものしい。四人、五人とひとかたまりになって何やら相談をしている者がいる。

中に女の子もいてパンやジュースを買い出しに行き、それを一人一人男子の手に手渡している。校門前の電話ボックスに二、三人で入り込み、誰かに何かをしきりに連絡している。リーダー格の者がいて命令を下している。命令された者はテキパキとバイクにまたがり二、三百が轟音とともに走り去って行き、しばらくするとまた戻ってきてリーダーに何かを報告しているようである。

このグループの中の何人かはうちの学校の生徒だし、以前に退学していった者も混じっている。しかし、教師にとって全く見覚えのない顔ぶれが多数を占めている。職員室にはその日の日直と教頭の二人しか教師がいない。二人は校門の所に向向いて「何ごとが始まるのだ」と問い質すが、若者たちは全く返事をしない。顔見知りの生徒をつかまえて、「どうなってるんだ」と聞いても、困惑した表情を見せながらスルリと逃げていく。そのうちに何人かの者が校舎の中に入ってトイレで用をたして来る。どの若者たちも校門と校舎を勝手に使っておきながら、教師の制止や質問を全く無視するのである。

二人の教師が校舎の出入口の戸を締め、校門の外へ出るよう促すと、黙ってぞろぞろ出ていくのだが、もの一分もたぬうちにまた戻ってくる。その少年たちの表情は真剣そのもので、何か重大な危機が迫っているようにみえる。おそらくグループ間の殴り合いが始まるのである。もう自分たちの手にあると判断した教師は警察に連絡する。うちの学校では教師が警察に連絡することはほとんどないのだが、「この時はやはり止むを得なかった」と日直教師は説明している。

一度にかかかってきてフクロに合おう。おさまらないのはうちの生徒である。「あいつら卑怯だ」と思う。

「くやしかったらまとめてやってみよう」と言われ、うちの生徒はすくすく帰って来た。その後、どのように渡りをつけたのか、集団でやり合う日時と場所を決めた様子である。その日はA市の少年軍団が我が方に攻めてくるというので、防衛の態勢を整えていたわけである。ところがどういいう行違いか、相手は攻めて来なくて、警察の方が先

自由な遊び場をめざして昭和54年の7月に世田谷区立羽根木公園の一角にできた「羽根木ブレイパーク」。

世田谷区役所と地域住民とが協力して創っているこの遊び場は火曜日と雨天を除いて午前10時から午後5時まで開かれて

なだらかな起伏のある地形が三千ヘーほどつづいたこの遊び場は、常に少し雑然としていて、魔材が片隅に山のように積まれている。火がまっ黒になつたレンガやブロックがあちらこちらに並んでいて、ウサギ、モルモット、ニワトリ、チャボなども住んでいる。

4つの変化にとんだ手造りの小屋のひとつには、ナタ、ノコギリ、カナスチ、ナイフ、スコップなどが入っていて、子ども達があつぱり出しては、地面に穴を掘ったり、竹トンボをついたり、魔材をうちつけて自分達だけの基地をつくったりする。そんなことができる、日本では数少ない公園だ。

ここでは、誰も子ども達にむかって「しなさい」と命令

に下すような態度をとっていない。偵察隊がいて、その命令に従ってキビキビ行動している。女の子がいて接待をし下働きをして銃後の役割を演じている。「A市ときたら、そりゃあもうこの辺じゃあ、最大の組織力を持つてるよ。T市の舎弟になつてから、T市と連合したら、二〇〇や三〇〇集めるの軽いもんや、そいつらとやたらほんんと、ぶつ殺されるのがだよ」と誠におそろいなことを言う。

この少年達の動きを見ていると、気のつくことがいろいろある。第一に、集められた少年たちの人数だ。二〇〇や三〇〇と、この本当かどうかは解らないが、現に目の前に数十人の少年たちが集っていたのである。その動員力は目を見張るものがある。

この集団はかなりの組織性がある。リーダーがいて上から命令を下すような態度をとっていない。偵察隊がいて、その命令に従ってキビキビ行動している。女の子がいて接待をし下働きをして銃後の役割を演じている。「A市ときたら、そりゃあもうこの辺じゃあ、最大の組織力を持つてるよ。T市の舎弟になつてから、T市と連合したら、二〇〇や三〇〇集めるの軽いもんや、そいつらとやたらほんんと、ぶつ殺されるのがだよ」と誠におそろいなことを言う。

羽根木ブレイパークの自由な遊び方

矢郷恵子

はしない。遊びのアドバイスをするブレイパーは常に何人かいるが、ブレイパーといつても、その為特別な訓練を受けていたり、児童〇〇学などという専門知識をもった人達ではなく、本人、自ら遊ぶことが大好き……といふことでもいる大人達だ。このブレイパーは教えることにはあつては、

自由な遊び場をめざして昭和54年の7月に世田谷区立羽根木公園の一角にできた「羽根木ブレイパーク」。

世田谷区役所と地域住民とが協力して創っているこの遊び場は火曜日と雨天を除いて午前10時から午後5時まで開かれて

なだらかな起伏のある地形が三千ヘーほどつづいたこの遊び場は、常に少し雑然としていて、魔材が片隅に山のように積まれている。火がまっ黒になつたレンガやブロックがあちらこちらに並んでいて、ウサギ、モルモット、ニワトリ、チャボなども住んでいる。

4つの変化にとんだ手造りの小屋のひとつには、ナタ、ノコギリ、カナスチ、ナイフ、スコップなどが入っていて、子ども達があつぱり出しては、地面に穴を掘ったり、竹トンボをついたり、魔材をうちつけて自分達だけの基地をつくったりする。そんなことができる、日本では数少ない公園だ。

ここでは、誰も子ども達にむかって「しなさい」と命令

したが明日はこう変わるなどと短期的に答が出る結果でもない。遊んでいる時の子ども達は実に生き生きとしている。

そしてブレイパークにくる子ども達は、わずかな時間も遊びに変えてしまふ。

ランドセルを背負った帰宅途中の子も達、幼児達の水かけ競争に横から入りこみ頭から水びたしになっていたり、大人達の飲みかけのコーヒーに、ちよつとした隙をみては泥や塩を入れていく。

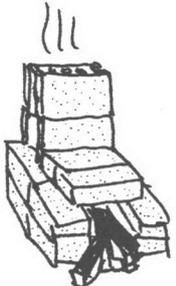
それは大人達の価値基準をはるかに超えて、バラエティーにとんでエネルギーだ。

遊び場を支える

ブレイパークには細い規則も法則もない。自分の責任で自由に遊ぶ、という、モットーがあるだけだ。

自分の責任で自由に遊ぶ……それは自分の責任で行動するもの。しか自由はありえませんが……ということに通じる。子どもでも大人でも好きなことはしてもいいけれど、自分で管理し、障害や限界があれば自分で、または力をあわせてのりこえる努力をする。そして失敗や挫折をくりかえしながら、危険に対して自分を守る力や人生にチャレンジしていく力を身につけていく。このようにして自由にやること、この範囲を拡げていく、そんな場だと、私達はブレイパークをとらえている。そしてこの主旨を伝えていくことが、ブレイパークの活動だとも考えている。

子どもが遊ばなくなった、又は遊ばなくなったその原因はいくつかあげることができるが、ひとつの大きな原因に子どもの「事故」や「けが」の責任問題がある。遊んでいておきたけががその子の人生にどう生かされるかと考えるのではなく、けが



「余りいい話じゃないんだけど」と前向きして、「実は一昨日、埼玉県警が君のとききに来てね」と探りを入れてくる。「さあ何でしょうね」と、こつちも首を傾げる。

あとで救援センターの人にきいてみたら「埼玉県警なら、滝田修の聞きこみじゃないか? 無農薬野菜グループのメンバーまで嗅ぎまわってるそうだから」と言う。

「玄米食うヤツは過激派だ」なんて話はジョークだと思つてたら、マジなんだねえ!

(次頁へつづく)



無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」

10

前林則子

たので、私は人目を避けての生活でしたが、給田アパートでは夫の名で貸りました。ですから「大家が来ているからトイレへ行けない」というようなことはなくなり、二人で生活することの楽しさがありました。カーテンの色を決めたり、家具を揃えたり、二人で買い物にもよく行きました。

また三月下旬から私は新聞広告で探した吉祥寺のO香料会社へ勤めるようになり、アパート代(一万円)など最低限の生活費は確保できるようにになりました。仕事内容は調査香料の研究助手でしたが、創造性があった面白い仕事でした。

私が就職したあとMの方は勤めをもち、私の帰りを待っていました。仕事が終ると私は夕食の買物をして、真直ぐアパートに帰り、二人で夕食を作って食べるという生活が続きしました。しかし、仕事をして夕食を食べる一日が終るというのでは無駄に年をとっていくような気が

がし、五月から週一回洋裁を習うことにしました。

「指名手配」

話しが前後しますが、Mが指名手配をうけていることを知ったのは一九七一年春に偶然見たポスターによってでした。それ以前からMは指名手配になっていたと言っていました。確認する材料もなかったのですが、半信半疑でした。しかし指名手配ポスターに本当に彼の名前がのって

いたので、びっくりしました。以後、私達の生活は指名手配に規定されたものになりました。そして私の疲れを助長させたのは、シンドイ思いをして食事を作ってもMが夜帰って来ない日があり、その場合Mは「デカにつけられて帰って来れなかつた」と指名手配中であることを合理化していました。一方私の方でも会社の同僚達とのつき合

い遅くなり食事が作れない時があつたのですが、その場合Mはふて寝をして口を聞かない。私が就職した後、しばらくは二人のリズムがあつていました。私の方で洋裁を習い始めた

とが間ありました。指名手配をうけていることにより、Mは権力から自由を奪われていたわけですが、私との関係では指名手配を理由にMは「自由」だと言えましよう。

「自由」

Mが「自由」な分だけ、私は「不自由」だつたわけで疲れた。また、いつまでもこんな状態で生活していたのでは、将来に希望ももてないし、肉体がボロボロになつていってしまうという不安が募つてきました。そこでプロの調香師になるための勉強を始めようと思ひ、テレビのフランス語講座のテキストを買

い、お茶」とか「おい、体が疲れているから寝ろ。布団を敷け」といつて絶対に妨害してくるので段々頭が衰えてくるような感じでした。

はじめの頃はMのそうした対応に戸惑ひました。Mは「私は御飯を作るためにだけ生まれて来たのではない」と何回も泣きました。しかし指名手配中の密室的な生活ではMのそうした態度に怒つたところで改まることはないので(私が文句を言えばMは「もうこんな家には居たくない」といつて出ていってしまう)いつのまにか私は「結婚とはバカに徹すること」といつて悟りました。

「一九七一年秋から冬」

Mとの生活で体得したこと「結婚とはバカに徹すること」といつて悟りました。アパートで私が本を読んでいると、「お茶」とか「おい、体が疲れているから寝ろ。布団を敷け」といつて絶対に妨害してくるので段々頭が衰えてくるような感じでした。

日石事件と土田邸事件の発生した一九七一年十月と十二月の私の生活は今書いたように仕事とアパートの往復で、家事のシンドさに疲れていました。Mも

「生活と政治運動」

先号で「生活と政治運動」について少し書きましたが、これはMと私の関係で、Mは政治的に私を信用しておらず(つまりMから見ると私は軽率で権力に対する警戒心が足りないということ)活動の話は全くしませんでした。同時に指名手配中であつた為、生活と活動は切り離されていたといえます。

給田アパートでの生活はMが指名手配をうけていることがわからないように生活していましたが、アパートへ遊びに来る人達は政治活動と無縁の人達で

められたようで、窒息しそうな感じがした。東京へ帰りたいとの焼けつくような望郷の想ひは、思ひがけずかなえられた。それにしても、あるときオジサンが私をかっさらって連れていって、今ごろは「坂東幻舟」になつていたろうに――。

5・23反核集会、「行つてもいいかい」と息子が自主的に同行。「婦人のつどい」のほうだから女だけかもよ、というところから旗を持ってあげると、とほりきつていて、教科書裁判最高裁判決目で味をしめたらしい。こういうことは斑鳩の地では駄目だ。ただし、反核デモはなくて彼はがっかりしていた。

午前は上野で午後は代々木、こつた返す人々の渦で、どこで何をやっているのか全然わからない。同行の姉妹がたがテン

トにたどり着くや人形劇を始めたので、私は息子と再び人の渦の中へ。「月刊奈良」誌用の取材もかねているから、少しでも全体に触れたかった。まさにこつた煮の、壮大な祭りであった。中核も核マルも反核、日蓮宗の念仏も反核、動

和国日本を象徴したその光景に私の足は止まった。一息入る女の手に話しかける。「オバサンが若いころのファッションと同じね」「そうだつてね。昔、はやっていたつて」「さっきのステップどうやるの」「簡単よ、こう……」プレスリ

物も役者もわからぬまま、芸事の香気が幼いからに刻みこまれば、戦争がなかったら多分私は踊りの道を歩いていただろう。国民学校一年生直前に父は出征し、B29が頭上を飛ぶようになり、その年の十二月、私と弟妹三人は母の郷里の福島県に疎開した。母は四人目の赤児を背

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

に浅草へ引き返し、翌三月の空襲には赤児の上にリウマチの祖母を背負い、火の海の中を逃げ回る。祖母死す。幸いにも私は地獄図を見ずに済んだ。

敗戦後、父が復員し、浅草の土地が他人に占領されたことを告げ、五人目が生まれた。貧乏

の子だくさんは職と食を求め、常磐炭鉱に転居。ただ広い丘陵に長屋が建ち並んだ様は壯観でその一空間に親子七人身を寄せ合う。隣家は中年夫婦がひっそりと住み、泥にまつたオジサンが私に微笑みつつ帰宅した。炭鉱は好景気の余力で、娯楽の一つとなつて村に演芸班を作

いよいよ演芸会の日。衣装をつけたオジサンを見て驚く。彼は女形だつた。私の白ぬりは彼の妻がして、旅芝居と舞踊が交互に進む。私はオジサンの舞いを見て、流し目と最後のポーズの愛嬌笑を取り入れた。教育とは恐ろしい。「太田屋」(私の旧姓)「ハルちゃん」

自分は旅役者のこびを踊つた。年に二回の演芸会は、私が村のスターになる日だつた。小六になり背が伸びると、彼と道行や大衆版鏡獅子を踊り、私と踊ることは彼の顔から客へのこびが消えていく。私は情念ともいへない。私は情念ともいへない。私は情念ともいへない。

バラバラと金が投げられる。ボロい商売だと思つた。幕の中で舞台の金を拾つたオジサンは私の袂に入れながら、私を叱つた。客にこびるな、お前は正統な踊りを踊れ、誇り高く生きろ、オレは旅芸人だ、と彼は彼の芸への夢を私に託し、

八月がくるたびに戦争が語られる。今年は反戦に反核が加わつて時期が早まつた。確かに自分を変えようとせずに「正義」に乗る人はいない。だが、それに加わるのはオッチョコチヨイといった論評は気になる。

戦一筋の女たちである。動員中に爆撃を浴び、先程まで笑つていた親友が隣で死ぬという体験が原動力だから、朝鮮戦争から日本の危機を叫んでいる。加害者としての日本も熟知している。女性解放思想もバッチリあり、手弁当て運動をいくつも抱える。彼女らは発言の場が少ないだけ

(前頁よりつづく)でも、まさか校長に「ああ、それはきつと、うちが三分搦きの米を食べるからですよ」なんて説明するわけにもいかなないね。向うは職業柄、当り前のつもりでやつてるのか知らないだけで、ウサン臭く思うのが世の常。まったく迷惑な話なんだよね。(M)

した。M君にはMの本名も指名手配中であることも知らせていません。逆に政治活動をしている人達にはMは給田アパートを教えていなかったはず。というわけで「指名手配」といつ束縛された中では増々政治運動から疎外され、一日が無事に過せればよい、というだけの生活で終つていきました。ですから爆弾闘争ということなど考えたことはありませんし、事件を新聞で読んだ時は「なんでこんなことをやる人がいるんだろ」といつて思いました。

発言の場に恵まれた識者は、反戦「被害者」正義ツラと笑う。井上光晴は6・3毎日新聞夕刊で、ニューヨークで東京大空襲の写真掲げた主婦を「厚顔無恥」といつい、なぜ南京大虐殺の写真掲げないのか、と意識の高い人々は拍手をした。反戦を黙々と闘つた姉妹が反核のうねりの機を得て渡米した。一表現としての七夕飾りや大空襲写真だろう。もし私が行けたなら「浅草の家を返せ」の幕を掲げた。まず被害があり怨念があり、その上での復讐なのだ。高一の娘の学級では敗戦日を知らない生徒が半数いたという。地獄図を知らない母の厚顔無恥な被害話を核に、南京大虐殺にたどり着いたわが子もいる。反戦反核運動を批判するならば、右の生徒たちをどうするのか問われなければならない。

パンフ紹介 つばさを もがれた女子

仁ノ平尚子

私、この四月から、小学校のセンセイになった。予想はついてたといえ、学校はなんと、女の子のつばさをもがいていくところなのだろう。

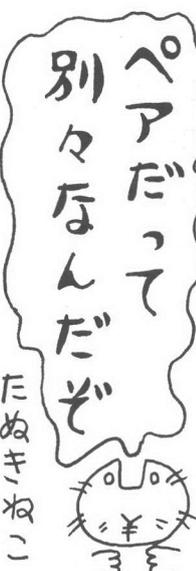
春季大運動会。「私、応援団長をやりたい。」と六年生の女子が立候補。なのに、「団長は男と決まっているから。」と女だか。と彼女の希望は却下され、なんと彼女はチアガールに！「私は、フサフサを持ちたいんじゃない、たすきをして、笛を吹いて、ピピピッピッがやりましたんだ。」もう何にも立候補する気にならない。教師はこういう。「あいつは自己顕示欲

が強すぎるんじゃないか。そして、選手宣誓、応援団長、壇上立って体操する子、ファンファーレの金管楽器、ことごとく男の子であった。

出陣簿は必ず男子が先。健康診断のときなど、女子は保健室の前で男子が終わるまで立ちっぱ。六年間、この立ちっぱは、くり返されるもんね。水泳指導。「男子、ゆっくり水に入れ。」「次、女子。」女子は必ず二軍なのだ。プリントを女子から配ると、六年男子は言う。「なんで女からなんだよ。男の方がえらいんだぞ。恐ろしい。これらのことをあたり前と思え、支えているのが、教師の意識。」「父兄、父兄会」の連発。

「女の人は、いつまでもきれいなじゃなくちゃ。」結婚前は、おふくろが、あとからついてきてくつ下をひろって、洗たくしてくれたのに。ああ、なんのために結婚したのかと思いますよ。六三九四五

この春、ペアの男性、A君と新しい仕事を共同で始めた。A君と私は同居して、今のところ、籍は作っていないので、別姓である。今まで、A君とは別々の仕事をしてきたので、今度の仕事で、初めて、共同で仕事をすることになった。というわけで、二人、ペアとして、取引先、取材等々、世間様とおつきあひする部分が増えてきた。そのあたりで、最近、しみじみ実感したことがある。それは、女って、とくに、ペアの片われいされてないんだなってことである。なぜ、実感かというところは、比較されてからみたい。それはペアであるA君という男性と比較されてからみたい。電話をとると、必ず決って、店長さんは、とくる。他に、例えば、とある日、取材にきた女性記者は二人をみて、御夫婦で、やってらっしゃるのですかと質問。夫婦じゃないけれど、似た



ペアだって別々なんだぞ
たぬき、ねこ

ようなものですと、答えてしまったものだから、そのあとは、インタビュは、ずっと、A君に集中した。その人は、また、特に、すくて、A君しかみないのよ。私は、その側で、考えた。向こうに、奥様と思われる以上、もう、あかんのやなあ、奥様という名の影武者、時はかわって、とある日、

徹底してないところがある。まず、何とも怠情なことに、二人の名前を別々に覚えるのを、めんどくさがる。ふと、気づくと、男性の名前を先に覚えてしまつて、同居の女性を、〇〇君のつれあい、という風に呼んでいたりもする。友人のFさんペアのように、それぞれを、〇〇と共に、私のたもつていた位置が、いっきよに崩れさつたよな気がしたんだけどなあ。A君との他人同志の緊張が、消えてしまつて、一つ、ぐるりの輪で囲われたように、みられてしまつて、ねばりつき。かみつきぞ。ペアの片われの女性を、個人として、みてくれない、こいつた方々も多いけれど、とにかく、なるべく、相手にわからせていく努力を続けなくちゃいかせんね。でも、自分をふりかえつてみると、友人とペアの二人を、それぞれの個人として、みているかというところ、まだまだ

この本をはじめ手にした時は、いかにも学者的な表現が多いので、ちよつと読む気になれなかった。それでも気になって、数ヶ月後、ヨイショと読み始めたら結構面白く、一気に読み終えてしまった。

この本の著者は、性差に関する二つの決定論、すなわち「生物学的要因によってつくられたもの」という見方と「歴史的社会的につくられたもの」という見方との、いずれに対しても批判的であり、「両性が、生物としての制約を負いつつ、相互に結びあつて、自由の領域を拡大しようとする企てと挫折の中に、性差なのだ」と言う。

これに對して、より大きく開かれているといえるだろうか？
女の子は男の子よりも、ことばをとおして運びこまれる社会的文化的な規範を従順に受容していく、とも言われる。

それは「異性が不快な存在だからではなく、逆に、同性にはない魅力をもち、関心を向けざるをえないような存在だからである。」「異性のまなざし」のものにあるがゆえに、集団が活性化し、緊張をひきおこす。そのため、たがいに足をひっぱったり、引っぱられたりもするが、それは彼らが互いに強い関心によって結びつこうとするか

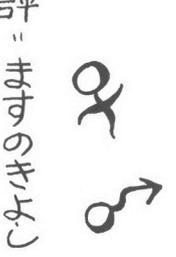
らであり、このような場で鍛えられる「個の自立」などは現実性を持たない、と著者は言う。「女の、女による女のための運動」が、一九七〇年代のみじかざるをえなかったのは、「二つの性が相互に結びついて生きる生活現実の中で現われる不平等を、女だけの問題に閉じこめ

たこと無関係ではない、とも折学については、ほくもかねがね批判を持っているので、「ペニス」を最高の価値と考える男権主義者のばからしい妄想にしか聞かえない。云々という表現はそのまま納得できるのだが、そうした批判を続けてきた最後の結びに至つて、「その人間理解の方法に学ぶべきものはあまりに大きく」云々と、急に持ち上げ

いるあるが、あと一つ言わせてほしい。それは、もう少し平易な、日常語中心に書いてもらえないのか、ということだ。難解な用語が多いということ。その学問の深さを示すというよりは、その思想の消化の程度を示すのではないかと、いう「偏見」をほくは持っている。特にその思想が日常生活と関わりが深いものであればなおさらだ。



服部百合子著 性差



評「ますのきよ」

このあたりのリブ批判には、抵抗を感じる人もすくなくないだろう。ひとくちにウーマンリブと言っても、それは総称にすぎず、実にさまざまな考え方や運動の流れがあるわけだ。その一つをとりあげて全体を批判するよう論理はいささか短絡的といわねばなるまい。しかし、著者が何を言いたいかはよく分かるし、運動論を深めるための一

本書の意図は「男と女の『差』を、『差別』などという負の概念で括るのではなく、二つの独自の性とも、積極的な価値として表現される関係を指すこととはできないものか」というところにあるわけだから、ごく平均的な男と女が、日常的に検証できるような学問となる必要があるのではないかと。せつかくよい見取図を書いてくれたのだけれど、それがちよつと近よりのたいアカデミズムの匂いを持っているのが残念だと思つたよ

たえば、寒さや冷たさに直面した時の体温調節の仕方も、男はエネルギー消費を高めることで立ち向うのに対し、女はエネルギー消費を抑制することでしぶとくのりきろうとする。

こうした例は、男の強さの中に潜むもろさ、傷つきやすさ、そして、女の、弱さでいて折

れにくく、しぶとい生命力を示唆するといふ。「強さ」とか「弱さ」という物差しも多面的であつて、ひと筋ナワでは測りきれぬ、というわけだ。

又、幼児期の言語能力は女の方が男よりも優れているといわれるが、そこにもプラス・マイナスがある。ことばを沢山知っているということは、しばしば人間を固定した先入観や紋切型の発想の中に閉じこめたりする。女の子がことばを豊富にもつことで、現実をシンボルによって代用させてすまるところを、男の子はシンボルによらぬ直接性において求めようとする。

自由の拡大の可能性は、どちらに對して、より大きく開かれているといえるだろうか？
女の子は男の子よりも、ことばをとおして運びこまれる社会的文化的な規範を従順に受容していく、とも言われる。

「女子は同調性が男子より高いので、環境に適応し、規則を遵守する傾向がある。また、自己防衛のために規則や正義を他にむかつて主張したり、児童で

それぞれの長所は別の短所と相関関係に立って、一方の価値尺度からだけ優劣を論じても仕方がない、ということだけは肯定できるように思う。

著者は、わが国の教育政策が男女それぞれの「部分的特性」のみを抽出し、それを固定する「男女分離主義」の路線を進んできた点を批判し、それに代つて、男女それぞれの弱さを補い

編集後記
夏休みに入ると同時に、狭心症の母と伊豆旅行。幸い、船酔いもせず大島観光もできて母は「お土産も磯釣りで珍らしい尺近いカワハギを釣りにあつて望外の気分。憂き世の憂さを晴らしてしまつた。」
でも、その後には九州水害のニュース。長崎、熊本方面の交流読者の皆様、おくれげせながらお見舞い申し上げます。この交流の印刷所も大雨が降ると床上浸水する土地柄なのです。
●本紙への投稿、カットなどお寄せ下さい。原稿はタテ14字書きで一八〇行以内。カットは天地38ミリで白地に黒書き、いづれも毎月25日までにお願いします。
短いお便りは振替用紙裏の通信欄をご活用下さい。

❖「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして、いる人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。

❖原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

交流

9月号 (No.107)

1982年9月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東京 4-51709

生まれてからおいで

(上)

丹原恒則

「つくるうが、つくるうが」
私は、つれあいが、大好きです。和やかな心身の相互交流は、至上の喜びであり、生存の確信にもなります。久しく共に生きてきたつれあいが28才になり、念願のヨーロッパ旅行にも行き、対を中心とした楽しみに、心残りもなくつれあいが、そのそろ子供をつくるうかということになりました。

子どもは、かわいいとか、育児は育ち合いともいわれます。未熟な人ほど、子育てから学ぶものは、多いともきました。私たちが、子どもと生きるといふ未知の生活領域へ踏みこむことは、ちょっととした冒険にも似て、興味深いものです。

現実には、子どもが、つれあいのお腹の中に入るとは、妊娠1、2ヶ月は、全く分かりませんが、ノンビリ屋のおおらかさん、ゴロンと横になって、スヤスヤよく眠るようになってきたから、私にも、うつつらと実感できるようになってきました。

共働きの当初、料理は女・洗いは男という役割分担が、妊娠後は、子創りは女・家事は男へと進み、家事が手伝いだつた私も、食器洗い、洗濯もの干し、買物、そして料理もせざるを得なくなりました。

胎児のためにも安心して、母親もおいしく食べられる料理を作るのは、私にとって子育てから学ぶ、大きな生活変化の始まりです。

「食養料理教室」
おいしい食事が、どうもうまく作れない。これでは、共働きをしながら、子どもとゆつたり生活していけるか不安でした。

おもしろい食事が、どうもうまく作れない。これでは、共働きをしながら、子どもとゆつたり生活していけるか不安でした。

おもしろい食事が、どうもうまく作れない。これでは、共働きをしながら、子どもとゆつたり生活していけるか不安でした。

伝言板

女性のためのエスペラント講習会を開きます。

私たちは国際補助語エスペラントを使い、各国の女性たちと情報・意見の交流をすすめるグループです。この交流の輪に加わる仲間を求め、はじめての講習会を開きます。

エスペラントはたった16の文法事項で発音もやさしく、今講習ではABCから文通がはじめられるまで指導します。英語中心の世界観、語学コンプレックスからの解放にもなります。

日時 10月7日より毎木曜 夜6時半〜8時半全10回

場所 港区立婦人会館

費用 5千円(教材費含む)

世話人 山川節子 埼玉県草加市草加一三四 ☎〇四八九・42・四八三三

◆ダイオキシン降ったまち。パートIII(いのちとくらしを考える市民の学校)

日時 9月19日(日)1時より

会場 小金井市公民館本町分館

講師 齋田隆史(TV朝日ニュースキャスター)

主催 いのちとくらしを考える会(☎〇四三三・85・三六四三)

◆本紙一〇四号伝言板の「串だんご屋「野花」」は、都合により店を閉めました。

お茶の水の三葉病院で、産婦人科医をして唐沢先生は、人間の生存を、①個体生命維持のための生理的現象と②種族保存のための生理的現象に分け、各々境界を越えようと病理的現象で、医師の力が必要になるけどお産は、自然な生理的現象に収めたいものだという。また、女性は①②、男は①だけで②と関わりが稀薄、このような出産からの疎外に、解決のヒントを与えるのが、男も出産に関わることはできないか、急いで適用できず、植物性タンパクだけでは、鉄の吸収がよくないともいわれます。 以後、ねが大雑把なもので、玄米・菜食を中心にして、牛肉・鶏肉、レバー、鯨肉、マグロの赤身、ひじき、金ぴらも食べています。 少し値段が高く、健康とエコ お茶の水の三葉病院で、産婦人科医をして唐沢先生は、人間の生存を、①個体生命維持のための生理的現象と②種族保存のための生理的現象に分け、各々境界を越えようと病理的現象で、医師の力が必要になるけどお産は、自然な生理的現象に収めたいものだという。また、女性は①②、男は①だけで②と関わりが稀薄、このような出産からの疎外に、解決のヒントを与えるのが、男も出産に関わることはできないか、急いで適用できず、植物性タンパクだけでは、鉄の吸収がよくないともいわれます。 以後、ねが大雑把なもので、玄米・菜食を中心にして、牛肉・鶏肉、レバー、鯨肉、マグロの赤身、ひじき、金ぴらも食べています。 少し値段が高く、健康とエコ

ロジを金で買っているようで、どこか変ですが、食品公害のつけを子どもに廻したくないのでなるべく、ワンパックやナチュラルハウス、裏庭でとれる野菜等使うようにしています。

「ラマーズ法」
妊娠8ヶ月にはいり、「どんなお産にしようか。」「お産って何だろうね」とつれあいで話合いく。とにかく、飯田橋の母子保健センターでやってお産の学校に行ってみようということになりました。

毎回、講師の話に涙腺をゆるめ、「あなたの方が先に泣いたでしょう」と帰り道に、話の内容を反芻したものです。

お茶の水の三葉病院で、産婦人科医をして唐沢先生は、人間の生存を、①個体生命維持のための生理的現象と②種族保存のための生理的現象に分け、各々境界を越えようと病理的現象で、医師の力が必要になるけどお産は、自然な生理的現象に収めたいものだという。また、女性は①②、男は①だけで②と関わりが稀薄、このような出産からの疎外に、解決のヒントを与えるのが、男も出産に関わることはできないか、急いで適用できず、植物性タンパクだけでは、鉄の吸収がよくないともいわれます。

以後、ねが大雑把なもので、玄米・菜食を中心にして、牛肉・鶏肉、レバー、鯨肉、マグロの赤身、ひじき、金ぴらも食べています。

少し値段が高く、健康とエコ

完全無痛分娩計画分娩

友人、親族、地域住民、医療関係者

自然分娩

友人、親族、地域住民、医療関係者

完全無痛分娩計画分娩

Weの会

合宿参加記

雑誌「We」を支援する会が、8月21、22日「鳩ノ巣」で初めての合宿を試みた。一泊二日の日程にしては、いぶん盛り沢山のプログラム、しかも30人程度の収容能力の旅館に60人も参加した上、初対面の人も多い、という条件にもかかわらず、予想以上に楽しいふんいきだった。その一端を紹介しておきたい。

21日昼の部は永畑道子さんの講演「学校はもうダメなのか」と討論。夕食後、自己紹介とスライド(反原発)。この辺までごく普通の進行で、夜9時頃から「赤裸々大会」に移る。この意味は、Nさんが「とかく宴会は赤裸々な面が見えすぎて幻滅することが多い」と危惧したこと、名付けられた。

もともと、宴会といっても、一つは役割劇。教師・生徒・親など、日頃の自分の立場と逆の役割を演じてみることで、「非行」問題をアプロウチする一種の遊び。勿論、セリフはすべてアドリブで、筋書きもない。

これは校長役のNさんが酔っぱらってしまつて、後半はかならず支離滅裂。でも面白かった。次はクイズ。中学教師Bさん宅に泊りこんでいる3人の女子中学生+アルファの中から「表番」と呼ばれる番長役を当てるクイズで、ごく普通の可愛らしい女子中学生が「番長」というモノノシらしいレッテルを貼られてしまうことの奇妙さを考えさせられる。遊びだけだと、笑えない深刻な一面も。次はボディコミュニケーション。Hさん兄妹の指導で、体をほぐし、カッパルをつくって、腕、頭、足の緊張感を互いに取り払っていく「ネニヨロ」という一種の操体法を学ぶ。

こういう企画は、押しつけがましさとイヤ味になることもありますが、Hさん兄妹のソフトな人柄のせい、とても気持ちよく入っていた。

その後、更に「水俣」の記録映画を見終った頃は深夜となり、いったんお開きして「カラオケ大会」に移行する。

この頃、ほくは疲れてしまつてフトンに入ったが、半田たつ子さん初めかなりの人数が3時頃までカラオケを楽しむ。ほくもフトンの中で、SさんとNさんの艶っぽい演歌のデュエットやら、中国語のインターナショナルなど、日頃きけない隠し芸を堪能させてもらった。

翌日は朝食後、武田秀夫さんの講演「教師をやめて、今」。「ひとりか万人のために悲しみ、万人がひとりのために悲しむ」という戦後民主主義の理想の崩壊を内省的に語り、「あるけれども」と結ばれる。

ほくも又、「自分自身を解放できぬ者が、万人の解放を語るなどはおこがましい」とことを痛感してきた一人として、武田さんの話は共鳴できた。

何人かの発言が続き、若い看護婦さんが涙で絶句する場面も……。クレイ事で終らせなかった武田さんの話で、参加者のホッネが開かれたのかもしれない。

その後、多摩川の河原に下りて、石のカマドを積み上げ、山形人物「羊煮会」とパーベキュー。多人数だからいぶん時間がかかったが、プロモーターのNさんが学校用の大ナベ、鉄板などを用意してくれたおかげで、3時には腹一杯となる。

宿酔いのNさん、苦しうだつたけど、本当に本当にご苦労さん。

「来年はせび江の島で」の声も出て、とにかく素敵を二日間でした。

定時制高校・夜話

その(4) 佐々木 賢

「あの先生、どの学校から転勤して来たの」と一人の生徒が質問する。「都立K高だよ」と私が答える。その生徒「へー、あの有名なK高、あの野球も強いK高」と、驚いたような顔をしている。「そうだよ」と私が言うと、彼「じゃあ、とばされて来たんだね」と解ったような口振りである。驚いたのは私の方だ。都立高の転勤ではまだ「希望と承諾の原則」が守られていて、「とばされる」というような強制転校はない。この生徒、自分のいる学校を「とばされた先生」が集める学校だと思っていたのか。

そう言えば最近、私もそのように言われた経験がある。何かの折に、「ほくも全日制の講師をしていただくがあるよ」と話をした。と生徒は「どの全日制と聞くと、「うちの学校だよ」と答えると、「この学校？」と感にたえたような声を出し、「ここ難しいところじゃん」というところがすぐその後を疑わしうな目つきをして、「先生、ほんとうに教えられたの」といわれちゃった。

先月暴力事件をおこして、特別指導の対象となった生徒がいた。特別指導とはいわば学校謹慎のようなものだが、単なる謹慎とは違って、一定期間中には全員の教師がその生徒と話をすることになった。

「海に縁のない奈良県が水害とは珍しや」例によって私がカキのようなことをいう。電話の相手は災害救助法が適用された天理市の悪友。「バカ、奈良は盆地だから水がたまると」また、同法適用の王寺町のヌシみたいな悪友が電話で息まく。「人災よ。これは人災。ゴルフ場だ住宅だってミニ開発で自然を切り刻んだから、水を吸わなくなっちゃったよ」

娘と男友だちの電話は「えっ、ウッソ、町の川の中を海魚が泳いでいるって? 冷蔵庫の中身が流れ出るとんや、アホカウセリングの電話も鳴り通し。「お宅は大丈夫?」

「うちは高台だから。おきき大阪から東京から案じてかけてくれる電話がうれしい。中には「何でもないので、ナンダ」とはナンダ!?

家の中にいるだけでもすごい騒ぎ。台風10号に続いて9号くずれの大雨というダブルパンチは、大和川の決壊に加え、

うに言われた経験がある。何かの折に、「ほくも全日制の講師をしていただくがあるよ」と話をした。と生徒は「どの全日制と聞くと、「うちの学校だよ」と答えると、「この学校？」と感にたえたような声を出し、「ここ難しいところじゃん」というところがすぐその後を疑わしうな目つきをして、「先生、ほんとうに教えられたの」といわれちゃった。

先月暴力事件をおこして、特別指導の対象となった生徒がいた。特別指導とはいわば学校謹慎のようなものだが、単なる謹慎とは違って、一定期間中には全員の教師がその生徒と話をすることになった。

「海に縁のない奈良県が水害とは珍しや」例によって私がカキのようなことをいう。電話の相手は災害救助法が適用された天理市の悪友。「バカ、奈良は盆地だから水がたまると」また、同法適用の王寺町のヌシみたいな悪友が電話で息まく。「人災よ。これは人災。ゴルフ場だ住宅だってミニ開発で自然を切り刻んだから、水を吸わなくなっちゃったよ」

娘と男友だちの電話は「えっ、ウッソ、町の川の中を海魚が泳いでいるって? 冷蔵庫の中身が流れ出るとんや、アホカウセリングの電話も鳴り通し。「お宅は大丈夫?」

「うちは高台だから。おきき大阪から東京から案じてかけてくれる電話がうれしい。中には「何でもないので、ナンダ」とはナンダ!?

家の中にいるだけでもすごい騒ぎ。台風10号に続いて9号くずれの大雨というダブルパンチは、大和川の決壊に加え、

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

門野晴子

と、娘はラジカセを抱いて白河夜船。こんな調子で山のような夏休みの宿題、大丈夫かな。赤点二つも取って補習を受けて行くサマだ。けつとばしてやろうかと思つたとき、一段と高鳴るサイレン。空襲警報を思いついて落ちつかぬまま、リッパサ、何か食わして「OK、

と、娘はラジカセを抱いて白河夜船。こんな調子で山のような夏休みの宿題、大丈夫かな。赤点二つも取って補習を受けて行くサマだ。けつとばしてやろうかと思つたとき、一段と高鳴るサイレン。空襲警報を思いついて落ちつかぬまま、リッパサ、何か食わして「OK、

と、娘はラジカセを抱いて白河夜船。こんな調子で山のような夏休みの宿題、大丈夫かな。赤点二つも取って補習を受けて行くサマだ。けつとばしてやろうかと思つたとき、一段と高鳴るサイレン。空襲警報を思いついて落ちつかぬまま、リッパサ、何か食わして「OK、

と、娘はラジカセを抱いて白河夜船。こんな調子で山のような夏休みの宿題、大丈夫かな。赤点二つも取って補習を受けて行くサマだ。けつとばしてやろうかと思つたとき、一段と高鳴るサイレン。空襲警報を思いついて落ちつかぬまま、リッパサ、何か食わして「OK、

と、娘はラジカセを抱いて白河夜船。こんな調子で山のような夏休みの宿題、大丈夫かな。赤点二つも取って補習を受けて行くサマだ。けつとばしてやろうかと思つたとき、一段と高鳴るサイレン。空襲警報を思いついて落ちつかぬまま、リッパサ、何か食わして「OK、



命を育み合う。私たちは、まさに自然をとり戻そう。商品と化した「カブトムシ」や「スズメシ」を、町に雑木林や草花を復活させ解放しよう。

昔「遊び場」はなかった。ただ遊べる場所が豊かであったにすぎない。

心を傷つけられて来たことかむしろ彼等は、その被害者なのではないか。

いまや私の最大の敵は、学校にとられた世間の常識だ。自分を痛めたこの「常識」を自分自身も持ち始めていて、被害者から加害者に成り変わろうとしている生徒がいる。その生徒の意識にどう切り込むかが、定時制教師としての当面の最大の課題だ。

無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」

前林則子



指名手配をうけていたMが逮捕されたのは、一九七二年九月十日のことでした。この日夕方Mはスキヤキを作るために台所に立っており、丁度鍋に肉を入れた時、ドアのノックの音がしました。私が戸をあけるとそこには数人の男達が立っており、

男達と具体的にどういうやりとりをしたか今は記憶がはっきりしてませんが、増淵の名前はすぐ認めてしまったように思います。この辺が私の限界で、私自身も政治活動には向いていない人間だと自覚していたところで、つまり刑事達が来た時「Mではない」とか「逮捕状を見せろ」とか抵抗することが出来ず、素直に認めてしまうことになりました。

男達は下ドヤと部屋の中に入りこんで来て、Mを逮捕し、家宅捜索を始めました。押入れはもとより、畳を一枚づつ上げて床を調べたり、天井の中まで捜索していました。四畳半と三畳の台所という狭いアパートでしたが、捜索には長い時間かかりました。その間はMが夕食をすませていなかったことが気がかりで、刑事達にMにスキヤキを食べさせたいと言ったところ「逮捕をしたので、家の御飯を食べさせることは出来ない。途中でパンを買ってやる」と言われ、Mは自分で作ったスキヤキを口に入れることが出来ない

まま新宿署へ連れていかれました。Mが逮捕されて数日後、Mの両親が給田アパートへ来て、「こんな世田谷の淋しい所に女一人で置いておくことは出来ないのだから、家に来てほしい。Mも面会でそう言っていた」と言い、私は御徒町にあるMの家へ引越すことになりました。

Mが指名手配をうけていた時もMの母親とは何回か会ってあり、気心も知れていましたし、両親から直接「家へ来てほしい」と頼まれるとイヤとは言いませんでした。この点も私の弱みだったので、自分の意見をはっきり言えず(もともと強く主張するような意見は当時もっておらず、人生を模索している時でした)流されてしま

たので、私は仕事を続けていまま家族と同居してからの生活は朝食は母親が作り、夕食のみ会社から帰って来てから手伝いしました。これまで二人分の食事が作ることがなかったため、家族六人分の食事は量が多く、ギョウザを作った時などは何時も立ち放しという状態で、家族と生活するには体力が必要なんだなとつくづく思いました。

しかしMが居ない間は、夕食の跡片づけが終ると自由時間になり、部屋で編み物をしたり、本を読んだりすることが出来たので、家族の食事を作ることにも余り苦勞には感じませんでした。でもMが家に帰ってからは大変でした。

Mは九月十日の逮捕以後、十月二四日に保釈になり、御徒町の実家へ帰って来ましたが、指名手配中は勿論のこと、それ以前も家から離れてしまったので何年ぶりか家の敷居をまたいだわけですね。翌日は私の両親へ結婚の承諾をとるため、夕方一緒に

また新居へ行く予定でしたが、その前に弁護士事務所へ挨拶に行つた帰り再逮捕されてしまいました。

更に十月二八日釈放になるとまた十一月十四日逮捕され、十二月四日に釈放されました。何故、これ程逮捕が繰り返されるのか当時は全くわからず、Mも取調べのことは何も話してくれませんでした。逮捕されるたびに家宅捜索が行なわれるので私は腹が立ち、「いい加減にしてほしい」と怒鳴りたい気持ちでした。

一方、釈放されるとMは働きもせず家の中にいました。私は早くMが仕事を探して生活設計を立ててほしいと思っていました。Mの態度には不服でしたが、また父親の前では「よい息子」なのですが、父親が夜寝たあと「おい、酒を買ってこい」とか「腹が減ったからおかずを作ってくれ」とか私を酷使(?)するので、そのたびにケンカをしました。私は登壇し、夜は家族の食事を作り跡片づけをし、家族との同居で精神的にも気がつかうことが多かったのでMに対しては「ちょっと少しは私のことを労ってほしいわ」と言うかよ」と甘えた口調で言うので私が根負けし、酒の用意をしてしまおうというパターンです。Mにとっては苦勞をかけたなり、心配をさせたりするのが愛情表現であり、決してやさしい言葉や労いの言葉は出さない人です。思いつつも、私は一言でいいからMからのやさしい言葉が欲しかったのです。

十一月十四日、Mが窃盗で逮捕されたあと、両親が面会に行つたところ「弁護士を解任したい」と言ったところで、両親と私はMの気持ちがわからず語り合っていました。

九月十日逮捕後、一度救援センターの弁護士を選任しようでしたが、後に父親の知り合いの村田弁護士に任せました。私は多分、窃盗なので国選弁護士でもよいのか?と思いつつ「両親に経済的負担をかけたくなかった」と話しました。

田弁護士から「Mの弁護をやめたい」という電話があり、両親と私は孤にままれたような感じでした。翌日村田弁護士に会って辞任の理由を聞いたところ「Mの恋人とか妻と名のEという女性がやってきて、民事の弁護士にMを弁護することは出来ない。すぐやめてほしい」とすこい剣幕で言われた」とのことでした。

村田弁護士は私のことを考えてか、余り具体的には話してくれませんでした。EさんがMの恋人とか妻と言っていることにショックをうけました。私はMと一緒に生活しながら、Mの妻」と名乗る自信がなく、いつも心の中では思想の遠いから別れる時がくるだろうと思つていました。つまり私達は政治活動と一緒にやる同志という関係ではないし、私が食事を作ることが拒否したら私達の繋りは何もなくなってしまう感じでした。それに反して彼女の確信は何かから生まれてくるのか不思議な気持だと思つた。

① 良心的軍事費拒否の会編 『憲法違反の税は払えませぬ』 一九五九年、工場経営者の丹慶徳さんは「憲法行為である戦力保持のための税金は払うわけにいかない」と意志表示した。又、名古屋の伊藤静男弁護士は一九七二年に、軍事費不払いの訴訟を起している。

牧師で、英語教師でもあるオノ・ミチオさんは一九七四年に朝日新聞に投書し「戦争に協力したくないものの税金は平和的目的のためにのみ使われるべきだ」と主張した。

こうした先駆的な人たちの試みがあり、その年「良心的軍事費拒否の会」という一つの集団へと結実していく。

本書の第一章は、この会結成に至るあらましが説明されている。

第二章は東京での活動やメンバーの紹介、第三章は同じく沖繩の紹介、第四章は関西グルー

プの紹介にあてられている。つまり、この会は大きく分けると、東京、沖繩、関西の三グループから成り立っていて、それぞれ個性をもっている。

さらに、主なメンバーひとりひとりの横顔まで紹介されている。この会は、いわゆる「一枚岩」の組織ではなくて、ひとりひとりの持ち味を大切にしている。この第II部では、Q&A形式に軍事費不払いまつわるいろいろな疑問に答えている。たとえば「税金を払わないと差押えがあるのではないですか」という質問に対して、のりこ、まさおけんじの三人が「自分がやれるところまで、いいんじゃないか」とか「裁判で闘っている人もある」とかの意見で答えている。

第三章は実践編で、さまざまな軍事費拒否の実務が説明されている。たとえば

本の紹介

① 税金は払うが、軍事費についで抗議する。 ② 軍事費を還付請求する。 ③ 税金から軍事費を保留する。 ④ 所得税の申告はするが、金額保留する。 ⑤ 所得税の申告はしない。 ⑥ 課税対象以下の生活をする。

⑦ 池上千寿子編著「シングルマザー」 「あーあ、やんなっちゃった。あなたもなの?今週で6人目よ、あなたでエー」。『あなたねえ、好き放題あそびだしてシラぬぐい、みんなで納めた税金でやられちゃ、こっちはかなわないわよ』

あなたもなの?今週で6人目よ、あなたでエー」。『あなたねえ、好き放題あそびだしてシラぬぐい、みんなで納めた税金でやられちゃ、こっちはかなわないわよ』

又、軽い脳性マヒの久美は、出産を男に反対され、自分で産む決意をする。 「一度でもいい、ほんの一瞬でもいいから、彼が訪ねて来てくれたら……」という久美の想いも空しく、彼は電話で一言だけ「頑張ってください」と伝えてくる。

その彼には、三〇才の若さで死んでしまった「重度の精薄」の兄があり、その兄のために、子どもの頃まわりからいじめられたという個人史があった。 「彼が私を愛してくれたい気持ちの中には、お兄さんに対する贖罪の意味があったのではないのでしょうか?」と久美は考える。

今、彼女の娘は二才。多くのことをのりこえてきた久美は、彼女を支えてくれた人々に、そして別れていった彼にささ「ありがとう」と言うことができる。本書は、右にあげたような10

田弁護士から「Mの弁護をやめたい」という電話があり、両親と私は孤にままれたような感じでした。翌日村田弁護士に会って辞任の理由を聞いたところ「Mの恋人とか妻と名のEという女性がやってきて、民事の弁護士にMを弁護することは出来ない。すぐやめてほしい」とすこい剣幕で言われた」とのことでした。

村田弁護士は私のことを考えてか、余り具体的には話してくれませんでした。EさんがMの恋人とか妻と言っていることにショックをうけました。私はMと一緒に生活しながら、Mの妻」と名乗る自信がなく、いつも心の中では思想の遠いから別れる時がくるだろうと思つていました。つまり私達は政治活動と一緒にやる同志という関係ではないし、私が食事を作ることが拒否したら私達の繋りは何もなくなってしまう感じでした。それに反して彼女の確信は何かから生まれてくるのか不思議な気持だと思つた。

来年には子どもができることになり、ますます子どもに関する事に関心をよせるようになりそうです。交流を見つづ、自分の姿勢を見直し、流されないようにしたいと思つています。今後がんばって続けて下さい。(蔵市・丁子)

今月号は、なぜか合宿のレポートが多くて恐縮ですが、最後「男の子育てを考える会」が西湖のほとりにカヤぶき農家を借りて2泊3日。子ども14人は過去最多記録。それにおとな

人(611、♀6)。今回はヤヤコシイ討論はやめて、体ほぐしやゲーム型の遊び中心。天気には恵まれなかったけど、子どもたちは「来年もここに来よう」と満悦のようでした。

本紙百号記念縮刷版が豊中市立岡岡図書館にも置かれることになりました。ありがたう。



10月号 (No.108)

1982年10月10日 (毎月10日発行)

1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話(03)385-2293
郵便振替 東京 4-51709

❑「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして、いる人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。
❑原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。



〔はじめに〕
数年前から、ぼくは「男も女も4時間労働すればいいのではないか」という意見をとなえてきた。
その理由は、主として次の三点から成っている。
①、今から約一〇〇年も前に「8時間労働制」を要求する声が高まり、そのための労働者の闘いがメーデーの出発点にもなったことはよく知られているが、考えてみると、その頃は「男は仕事。女は家事育児」という性別分業が前提とされていたのではなからうか？

②、労働時間短縮というスローガンそのものは大抵の労働組合が一応掲げてはいるけれど、それはいつも「8時間労働」が大前提としてあって、しばしば余りに遠慮がちだし、「不況だ。行政改革だ」のキャンペーンの前には、たちまちタジタジとなつて、逆に残業、労働強化を受け容れかねない空気となる。
もつと確信をもつて、「8時間労働は誤り。基準労働は4時間労働が最近になって、ぼく

かと言って、人類すべてがジャンクルからやり直すわけにもいきまいから、とりあえず話のツジツマの合う4時間労働のところから再スタートしたらどうだろうか？
……という次第である。
実を言うと、これまで、そういう話をしても「理屈としては面白いけど、さし当り現実味がな。空想の域を出ない」とかなんとか、サラリと受け流されてしまつて、もう一歩踏み込むことができないでいた。

ところが、商人が入りこみ、動物の肉と衣類等を交換するようになると、ムアティの人間関係は大きく変化するようになつた。曾ては、獲物を誰が捕えるかが、結局は皆がその分配を受けることができたのに、肉がパシントンやカッターシャツに化けるようになった途端、人々は獲物をめぐる競争をはじめ、効率優先のために、老人や子どもたちが、狩猟グループから外されるようになる。
①、オーストラリア原住民の二つのグループの労働時間は、それぞれ一人一日平均3〜4時間と5時間強だつた。これには狩猟具の修理、食物の調理に費した時間も含まれるので、我々の通念に対応する労働時間は、もつとすくなくなるかもしれない。

②、カラハリ砂漠のブッシュマンは、男が週に3〜5日、狩猟に出かけ、一回の狩に5〜12時間費すが、女は毎日、1時間から数時間、植物採集に出る。又、別の報告でも、食物獲得のための労働は週に平均2〜3日となっている。
(なお、ブッシュマンは農民民に追われて、不毛の地と言われるカラハリ砂漠に暮らすようになったと言われており、その不毛の地さえ、この程度の労働で生きてゆけるのである。)

③、ぼくは野性動物の生態記録等を読むのが好きだが、大抵人間以外の動物は、生きるためのだ。文明化した人間だけが、まるで何物かに追われるように動かなければならないというのには、どこか大事なところが間違っているからにちがいない。
④、ぼくは野性動物の生態記録等を読むのが好きだが、大抵人間以外の動物は、生きるためのだ。文明化した人間だけが、まるで何物かに追われるように動かなければならないというのには、どこか大事なところが間違っているからにちがいない。

4時間労働でないの、まのきよし

パンフ紹介

●ダイオキシンの降った街(除草剤による生命破壊)
綿貫礼子さんの講演を、「いのちとくらしを考える会」が16ページのパンフレットにまとめたもの。

ダイオキシンはアメリカがベトナムの枯葉作戦に使用した除草剤の成分だが、日本でも水田用除草剤として使われているといふ。
一兆分の一グラムでも催奇形性・発癌性を発揮する。
イタリアでこの枯葉剤の一段階前の物質「トリクロロフェノール」を製造していた工場が爆

発し、高温反応でその大部分がダイオキシンと化して街に降りそそいだが、今この周辺では奇形をもつた子どもの出生が増加している。
アメリカでもベトナム戦争で大量に使い残された枯葉剤を森林に空中散布したことがあり、この地区の母親達の手による調査・告発から流産多発との関係が明らかになるに至つたといふ。
講演の記録だけに、分りやすい語り口が特徴。定価三五〇円(連絡先)東京都小金井市東町5・31・12さつき荘一〇一号・江守気付☎〇四三・85・三六四三

人間関係を崩すもの

市川光雄著「森の狩猟民・ムアティ・ビッグミーの生活」に引用されている何人かの研究者たちの調査報告によると

①、オーストラリア原住民の二つのグループの労働時間は、それぞれ一人一日平均3〜4時間と5時間強だつた。これには狩猟具の修理、食物の調理に費した時間も含まれるので、我々の通念に対応する労働時間は、もつとすくなくなるかもしれない。
②、カラハリ砂漠のブッシュマンは、男が週に3〜5日、狩猟に出かけ、一回の狩に5〜12時間費すが、女は毎日、1時間から数時間、植物採集に出る。又、別の報告でも、食物獲得のための労働は週に平均2〜3日となっている。
(なお、ブッシュマンは農民民に追われて、不毛の地と言われるカラハリ砂漠に暮らすようになったと言われており、その不毛の地さえ、この程度の労働で生きてゆけるのである。)

③、ぼくは野性動物の生態記録等を読むのが好きだが、大抵人間以外の動物は、生きるためのだ。文明化した人間だけが、まるで何物かに追われるように動かなければならないというのには、どこか大事なところが間違っているからにちがいない。
④、ぼくは野性動物の生態記録等を読むのが好きだが、大抵人間以外の動物は、生きるためのだ。文明化した人間だけが、まるで何物かに追われるように動かなければならないというのには、どこか大事なところが間違っているからにちがいない。

これまで、ニホンザルの集団はボスを頂点とするピラミッド型の社会関係を作り、優秀の序列がハッキリ存在するという見方が定説となつてきた。
しかし、最近こうした通説を根底からひっくり返し、本来の野性ザルはもつと平等で、アナキーな社会関係を作っているのであつて、通説が指摘するような優秀の序列は、人間が「餌付け」と称する文明の影響を人為的に持ちこむことによつて形成されたのだ、という新説があらわれた。(伊沢絃生「ニホンザルの生態」どうぶつ社)
下北半島や白山という、世界で最も寒い環境に住む野性ザルの生態を調査したこの著者は、冬には深い雪に閉ざされるこうした厳しい環境の中でさえ、サルたちは、我々が想像するような生存ギリギリの境界で暮らしているのではなく、その境界のずつと内側で、かなりのゆとりをもつて生きており、食物がいれば浅く広く分布している自然環境に於て強者がエサ場を独占するような状況はありえないから、序列制は起こりえないと言うのである。
サルが腹を空かして可哀想だから、と餌を与える人間の善意が、皮肉にもサルの友好関係を分断し対立を持ちこみ、階級序列をつくり出すのだ。
ひるがえつて、我々自身の生きざまを考えても、「うちの子どもだけオモチャを買つてやらな」と可哀そうだからとか、「大学まで行かせてやらな」と差別されるから」というそれぞれの親の、それ自体は無理からぬ善意が、幼い心にまで物質崇拝や学歴志向を生み出していく構造と似ているのではなからうか？
すでに確立されているこうした構造を崩していくことは容易ではないが、「労働＝豊かさ＝幸せ」という信仰を問い直し、生計のための労働は、みんな多少しずつ分け合う方向を追求しなければ、と思ふ。

生まれてきて おめでとう (下)

丹原恒則

生みだそうとしているつれあい
を前に、うむことに合意した私
は、今、家事や身の廻りの世話
関係者との意志疎通、職場での
男の育児時間取得へのとりくみ
等、実践に重きを置いた方が、
いいのでしょうか。私が悩み、結
果として動かさず、いじけてい
せるより、いきみを息抜きし、
条件反射を活用して筋肉をリラ
ックスするように習慣づけ、和
痛にもつていくのが、ラマーズ
さんのやり方だそうです。
ヒッヒッ・ウン、ヒッヒ
ッフー・ウン、この語尾のウン
が、三森式、極期乗り越えの呼
吸法で、また、この時は、腰が
割れる程陣痛の激しい人もいる
らしく、腰からおしりにかけ気
心の知れた人に、息に合わせさ
すられると、落ちついてリラッ
クスできるといわれました。
つれあいのこと等思いを巡らす
と、キョロキョロ・フラフラし
て呼吸法を練習すると、息を吸い
過ぎるのか、欠伸が出て眠たく
なり、こんなのでいいのかなと
も思いましたが、産まれる時は
酸素が沢山必要なため、産む人
にも子どものためにも、いいそ
うです。効果を疑いたくなるよ
うな体操も、妊娠9ヶ月を過ぎ
ると、こわいぐらい子どもが動
き、休みながら穏やかにやらざ
るを得ません。本番にどれだけ
成果がでるか楽しみです。
〈生から性など〉
子どもと私は、影響し合っ
て成長していくのでしようから
子どもとの関係をきつかけに、
私自身、より納得のいく生き方
の選択を、迫られているような
気がします。
独りで、悶々と自問している
と、「いかに」が「なぜ」にな
り、抽象化した言葉で、生きる
意義をみいだそうと、四苦八苦
しています。こんな私の姿を観
て、つれあいは、「男は、かわ
いそうね」と言います。生命を

おしま

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

12

門野晴子



「丈夫で長持ち」するはずの夫が入院する。糖尿、プラス余病のため、私の命令で大阪の病院に身を横たえた夫を見ると、いささか心うずくものがある。

丈夫どころか過保護のボンボンは壊れやすくてきている上に、近くの舅が糖尿のため六十才で死去した体質の一族だから、三ヶ月の入院といわれても予断を許さない。

二十年前の「白馬の王子様」のなれの果ては、「闘いすんで日が暮れて」まさに傷病兵よろしく横たわる。とんだ女と結婚してしまつて、ふり回された歳月だつたらう。

夫の実家は十年前までは彦根にあり、関が原時代から代々武士の家だつたという。チョンマゲが生つていてもおかしくない広い屋敷で、長男の一人息子は大勢の大人にかしずかれ、ハラハラと育てられた。

親の勧める京都のイトハンと結婚していたら、どんなにも静かな家庭ができていたろうと思ふ。素直で優しくいくじなしの彼は、就職で上京して独り暮らしをするうちに、正反対の女に出会って燃え上がったのがウソのツギ。

どこの馬の骨やらと、グズグズいう夫の親族を無視し、若い二人はさつきと同棲生活。スズンデいたのであります。現在、娘はこの点に限って両親を尊敬するので、何が辛いやら！

世間体第一の親の懇願で、一年後に馴れ合いの式を挙げた私たちは、岐阜へ転勤する。長男がすぐ生まれ、いくじなしの夫は「育児あり」になった。独り暮らしを経験した彼は、家事も育児も私より器用。私が主婦の生活に満足したら、こんな理想的な夫婦はマレだつたらうに。

私はすぐ結婚ゴッコがつまらなくなる。赤児を育てながら、たつた一つのライセンスのいけばな教授を始め、ささやかな自己実現の世界を確保。東京の先生「はたちまち売れる。」

女性週刊誌に教育された良妻賢母の私の中で、何がバックリと目覚めた。テキもそれに気がつき、すさまじいイニシアチブ闘争が始まった。戦中派の「日本男子」の本質を現わした彼は、たいがいの男がやる妻の飼育法を試みる。

「誰に食わせてもらっているんだ」も言つたし、ビンタもとんで来た。ただし、いづれも一回だけ。のしを付けてお返ししつつ離婚をかけた私の闘いに、彼は一歩ずつ譲つていった。

次に私はPTAで吠え出す。子供へふりかかる火の粉を恐れ、夫は私の前に立ちほだされた。そのくせ、通夜のような懇談会に頭を抱える妻に、名古屋の話し方研究所を勧める変なヤツ。話し方で白髪源氏に出会う。六四才だつた。私は三三才。個人教授に切り替えた男はフェミニズムを講義し、私たち家族の帰京をはさんだ四年間に、私の良妻賢母の衣を一枚ずつはぎ取つていった。押し殺していたじやじや馬が頭をもたげる。

男と女のエロスを手にした私は、足立のPTA、反戦団体「草の実会」、教科書裁判、いけばな教授等々に走り出す。男との逢瀬を含め、狂気に似た行動の中で求めに求めた「何か」は、本当の私に出会うことだつた。

三日にあげず届く男名の手紙に、夫は猛烈にシットする。今

度は譲らなかつた。離婚も承知しなかつた。半年の沈黙の後、私はニヤリとする。馴れ合い夫婦に男と女の緊張感が戻っていた。夫は夫で、見る見る容貌をとげる妻と、子供たちと展開するダイナミックな会話に、痛しかゆしの思いだつたらう。

東京と斑鳩に別居した夫婦は、ますます互いがよく見えるようになる。いくじなしの夫は、実は本当に強い男だつた。喜々と生きる妻を見てわが喜びとなす。本当にやさしい男だつた。

帰省した夫は言った。「君はエロスの風化だとか、近親相姦

ある職場で、組合の執行部が「男の育児時間」を軸とするアンケート調査をした。

その結果は、かなりくわしい資料としてまとめられているがここでは、参考までにその一部を紹介しておく。

この職場は組合員数81人で、アンケート回収は42人（回収率は51・9％）。

回答者の男女別が正確に分らないけれども、回答者42人中、およそ男30、女10くらいの比率と推定される。

又、42人中、配偶者のいる人23人、いない人19人、共働きしている人10人、していない人13人。

共働きしている人10人中、子持ち4人、子無し6人。

「あなたは『男性にも育児時間を』という要求についてどう思いますか？」という設問に対して、「いいえ」7人、

「当然のことと思う」13人、

「正当な要求かもしれないが」

なりたいなセックスだと言つたけど、僕はおかげさまで二十年このかた、一度も退屈したことはなかつたよ。すこい皮肉！

岐阜ではアカと言われ、足立ではアナキスト・トロツキストと言われ、母親たちからは「あんなに熱心にPTAをやるのは大宗教のまわし者」にされ、「そうよ、あたしや踊る宗教」

と答えた。斑鳩では最近「右翼」にされてしまった。流し元が左だから、私を右へ追つたか。各地の「魔女刈り」はすさまじい。夫はまた、同僚の妻たちのワッパターに接し、愚妻のイキのよさを認めざるをえず、わが子のジャンボ面白さを、勝手に母親の成果を認めざるをえない。「荒れる中高校生時代に女房を持ったためかな」ナンテワガママ女が押さえこむさままな力にあらがい、ワガママを正当化しようとしたワガママが、女がアタリマエの人間に

もう一つピンとこない」17人。

「男性にも育児時間なんて何を言っていると思う」4人。

「わからない」4人。

「その他」4人。

つまり、「ピンとこない」人が比較的多いものの、それも含めて肯定派は30人に及ぶ。

ある職場のアンケートから

男の育児時間

また、従来「男にも育児時間」というと、共働きの人だけを念頭にきてきた傾向があるけれど、専業主婦がいる場合だつて、育児時間の必要はある筈だから、余り固定的に共働き限定の発想をするのは、味方をすくなくするおそれがある。

実は、ほくも時々、公民館などで専業主婦を対象とした講座でしゃべることがあって、同じようなことを感じていた。

主婦の中には「男も家事・育児」などとときどき、自分の領分をおかされたような気がして、はじめは反発する人もある。

又、見栄を張つて、実態以上に専業主婦を美化して発言する人もある。（あとでホンネをきくと、実は専業主婦をかばつていたのである。）

これは、「男にも育児時間」という視点そのものがまだ宣伝不足のために、初めて聞く人はまず反発する、という傾向があるためだ。男は仕事、女は家事、育児」という通念にドッ

この資料を提供してくれた組合員のTさんの話によると、たとえば現実に育児時間をかちつた福音館の場合、はじめは反対していた組合員が、むしろ積極的に育児時間をとるようになっている。現段階で否定的な人がいても、余り心配することはない。

次に「あなたは男性にも育児時間を認められたら使いますか（使うべきだと思いますか）」という設問に対して

「はい」22人（過半数）。

「いいえ」7人。

「わからない」10人。

「その他」3人。

「交流」を読んでいると、同じような考え方を感ずる人が、沢山出てくる。それで安心感があるわけだ。私もいつも孤立感があって、とくに最近それが激しくて、「なんで自分はこうも異様な感を持つて生活しなけりやらないんだ」と思うことがよくあります。何か自分で生活の転換をはからねばならないと思うようになり、それで何もできず、グズグズしてきます。でも交流を讀むとそんな自分の気持ちが落ち着いてきます。

みんな同じように何か悩みなから生活しているなあ、と、たがそれだけなんですけど、やっぱりこれは貴重です。

佐々木賢

おとなの考えている程度とか節度とか、それに自由というものが、子どもたちには分らない。そのわからぬことがおとなにはわからなくて、それでゲンナリくるのでしよう。（途中略）

「交流」を読んでいると、同じような考え方を感ずる人が、沢山出てくる。それで安心感があるわけだ。私もいつも孤立感があって、とくに最近それが激しくて、「なんで自分はこうも異様な感を持つて生活しなけりやらないんだ」と思うことがよくあります。何か自分で生活の転換をはからねばならないと思うようになり、それで何もできず、グズグズしてきます。でも交流を讀むとそんな自分の気持ちが落ち着いてきます。

みんな同じように何か悩みなから生活しているなあ、と、たがそれだけなんですけど、やっぱりこれは貴重です。

佐々木賢



中学生とのキャンプの記事、おもしろいですね。酒飲んでさわいで、「もう二度とこんなこと」と思う気分、よくわかります。「オジサンありがと」などといったのはよかったですね。私の場合、学校で、仕事と、はいながら、同じような気分味わうことが多いです。「ありがと」などとはいわれませんが、おとなの考えている程度とか節度とか、それに自由というものが、子どもたちには分らない。そのわからぬことがおとなにはわからなくて、それでゲンナリくるのでしよう。（途中略）

（浦和・N子）

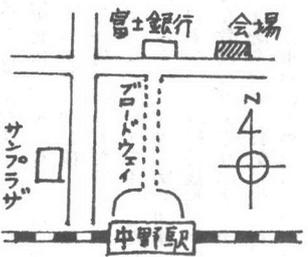


共同保育専従者募集
「ゴンベのお宿」で保育専従者を募集しています。
くわしくは直接連絡して下さい。

府中市若松町1・10・18
☎〇四三・67・〇九八六

●青時連の集り

今年のメーデー以来、しばらくお休みしていましたが、パンフレットも売り切れてしまったことでもあり、次の活動の相談などをしたいと思っております。
友達なども誘ってぜひ沢山ご参加下さい。
(日時) 10月24日(日)2時



(会場) 中野商工会館和室(中野生活研究会の名で借用)

●「手話の会」バザー

日時 10月31日(日)10時半～3時
場所 西台都営住宅6号棟集会所(都営地下鉄「西台」駅下車徒歩1分)
連絡先 遠藤 〇九三五・六五二
主催 手話サークル西台の会

無実の訴え

土田・日石ピース街冤罪事件「被告」

12

前林則子

夏が過ぎ、熱帯で一杯という季節になりました。こんな時季何となく口ずさむ歌は南沙織の「人恋しくて」です。獄中に居た時も秋になると感傷的になり無性に人が恋しく、お喋りがしたくなって困りました。社会に居ても人恋しくなるものですね。さて、人恋しさはともかく、九月一七日は、松本君公判(土

田事件にて起訴)で検察の論告求刑が行なわれました。松本公判では取調べ室で作られた虚偽の自白調書が証拠採用されてしまいました。それにしても検察の論告は無理なこじつけが目立ちました。

例えは、土田爆弾小包の荷札包装紙に記載された文字について増測の筆跡であると述べた、黒田鑑定の証拠価値が高いとすなわけたことを突如、論告で述べています。検察官は爆弾製造から郵送差出まで十日間の日時が存在し、その間の経緯は未解明の部分があると言ひ、あたかもその間に増測君が字を書いたかのように匂わせています。

最近集会等へ出かけると「前林さんのことは交流で読んで知っています」と色々な人から言われます。交流の読者層の広さですが、私やMの家族はこれ

かさを覚えます。連載中の「無実の訴え」は、取調べ室のことを明らかにしようと思つて書き始めたのですが、タッチ上げ以前の生活のところモタモタしてしまつたかと言へば、私がタッチ上げに屈することなく、否認できたのは権力に拷問されるよりもっと厳しい生活史があつたわけですね。つまり権力の弾圧に対しては闘えばよいのですが、恋愛の苦しさは闘うこともできず底なし沼的状况で出口が見えないのです。

Mとの恋愛は出口が見えないまま、指名手配をうけた中で生活、更に家族との同居と続いていくわけですが、私が一番苦しかった一九七二年暮から一九七三年の弾圧までを今回は書き進めたいと思います。

一九七二年十二月十八日、毒劇物法違反でMは執行猶予という有罪判決をうけました。これはMが指名手配をうけていた件ですが、私やMの家族はこれで

「それではどうぞ御馳走を御馳走してください」と声をあげる。ワイワイと立ち上がり、我先きに食器を片づけに行く。その横のテーブルではA子が一人まだモグモグとやっているために他の子が食事を食べ終つても御馳走様ができない。そのうち我慢ができなくなった子が「Aちゃん、早くしてよ」とか「モッ、いつもAちゃん遅いんだから」、「遊ぶ時間が無くなっちゃうよ」とイラ立ち始める。A子は解つていてもおしやべりがやめられない一人、その分食べるのが遅くなつてしまふ。だが、最近では、友達からの批判が多くなったのを本人も意識しないわけにはいかなくなつたのか、途中であわてて食べたりしながら、なんとかかじりこむ。これは、担任が意図したグループ責任制の中で、友達同志の相互批判や、自主性を育てたい

ということにつながる成果なのだろうか? 我園にもう十年近く飼われていた十姉妹の世話係は年長組の当番による。十数羽が一緒に住んでいるのでかなり大きな鳥籠だ。籠の清掃、水、葉物、餌を替えてやること等一通り終るまで、4、5人の子供で30分前後だ。進級当時は新しい事への興味意欲もあつたのか、当番を積極的にやっていた。それらの動物達

いい子、ホス的な子はサボリ、おとなしい子、優等生的な子がなんとなか任務を果す、ということになる。あけくは「先生、Kちゃんちつとも小鳥当番やらなかつたんだよ」というつげ口につながる。小動物の飼育はたいの保育園、小学校等でやられているうちに「なしくずし的に」まねてしまったことだ。中途半端にかかわるよりは転職による再出発を考えたのであるが、望むような形での配転がなかなか実現しないせいもある。イヤ何よりも、保育園にいれば、子供達が発する光源のようなものからかもしれない。

「子どもたちと格闘はじめてたけど」 皆川珂奈江

MがEさんとの交際を続けていたこと。Eさんとは一九七〇年秋以降、Mの東葉大事件の判決公判の時、チラ、と姿を見ました。執行猶予の判決後、廊下に出て弁護士・両親・M・私の五人で立ち話をしていたところ、廊下のはじの方から流行の髪型をして洋服を着た一見ジャーナリスト風の女性がニコニコしながら私達の方へ近づいてきました。Mの知り合いにあんなに垢抜けた女性はいないだろうし、誰だろうと思つてよく見ると、その女性の視線はMのところに集中しており、他の者は無視してました。私はその視線をみて、「あつ、Eさんだ」とひらめいたのですが、私より先に村田弁護士がEさんのことを見つけて、「さあ、お茶でも飲みに行きましょう」と言つて私達を促し、その場を離れました。MはEさんにクルリと背を向け、私達と一緒に歩き出しました。私はM

がEさんと友達ならば、両親や私に紹介すべきなのに、それしなかつたのでよけいにMに不信感を持ちました。またそれ以上に私が衝撃をうけたのはEさんがきれいになつて来たこと。六九年の頃は私の方がちよつと垢抜けていたと思うのですが(私つてイヤラシイですね、Mと一緒にいながら経済的に苦しかった他、Mのヤキモチが強く私が化粧をしたりすると、「好きな人が出来たりする」とイヤミを言うのたんたたらう」とイヤミを言うので、私はなるべく粗末な格好をしていました。判決公判の時もやつれており、それに比べEさんの生き生きとした姿に私はショックをうけました。Mも所詮男にすぎないし、「妻」に対してはメシを作つていれればいいんだと家の中へ閉じ込め、一方、今でいうキャリアウーマンの女性と自由恋愛をするという二つを使い分けられているのかな?と疑惑をもちました。

この日家へ帰つてからMに対してEさんとの関係を問いつめましたが「彼女とは今後会わない」というだけでラチがあかず私は仕方ないので、給料全部を使つて洋服を買つたり、美容院へ行つたり、好きな買物をしておしやれに没頭しました。私つて本当に意識が低いのです。一九七二年正月、年があけて、家族揃つて正月を迎え、今年こそは平穏な日々になるだろうと思つてたところ、一月二十日にMがまたアメリカ文化センター事件で逮捕されました。今度は今までの窃盗と違つて爆発物取締罰則違反というものでした。何故、こういう事件で逮捕されるのかもわかりませんでした。同時にアメリカ文化センター事件で逮捕されたので、私は図書館へ行って新聞の縮刷版を読んでみたりました。以下タッチ上げ弾圧については次号に続きます。又私が一番苦しかった体験も次号になります。

その他、新企画の提案お待ちしています。

編集後記

●「墨東からの通信」9月号によると、江東区東砂2丁目にあるクロム汚染地域を買った不動産業者が、早く分譲住宅を建てて売りたいために、ズサンな処理工事を行い、付近にクロム鉱さい、粉じんをまき散らしてしまつた。更に、汚染地をアスファルトでおおつただけで駐車場にしているという。本来、公害発生企業の日本化学と東京都の間で結ばれた「クロム処理協定」では「汚染者負担の原則」が確認されているのに、実際には民有汚染地は放置されていて、所有者が焦つて自費処理せざるをえないように追ひこむ仕掛け。「区民の会」が都や区に抗議しても知らぬふり。公害行政をやっているようなそぶりばかりで、実態はこの程度だからおそろしい。結局、ズサンな処理工事のツケは、付近住民と、何も知らないで住宅を買つた人にまわされる。気をつけよう。

●本紙も創刊以来、満9才になりました。あと1年がんばつて10周年記念をめたく迎えたいものです。

一〇〇号記念縮刷版の方は、売行き約6割というところ、いまいの感じですが、10周年までには、なんとか採算ラインにこぎつきたいところ。

●いま連載中の「へそまがり」は来春から東京に定住の予定でその時は、斑鳩日記は完結することになります。

なお、彼女の「わが家の青春記」が今、現代書館から発売されています。

●次号では特別企画として、座談会「家族ってなんだろう?」を予定しています。中嶋里美さん、名取弘文さん、宮淑子さんそれにほかの4人で、ケンケンガクガク(?)やろうと思つていきます。

11月号 (No.109)

1982年11月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東京 4-51709



❑「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして、人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。

❑原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

座談会 自分にとって家族とは？

(上)

中嶋里美・宮淑子・Y子
名取弘文・ますのきよし・K子

(前号での座談会の予告をしたところ、Y子さん、K子さんが「面白そうだから聞いてみたい」とのこと、結局6人でおしゃべりをしました。以下便宜上、それぞれの名前の最初の字をとって、中、名、ま、宮、Y、Kで発言者をあらわすことにします。)



「女と男の逆転型？」
ま「今日は、中嶋さんの発案でこういうテーマの座談会をやりたいということで集まって頂いたわけですが、はじめに、自己紹介を兼ねて、それぞれの家族観みたいなものを話して頂きましょうか？」

中「単に『家族とは何か』ということだけでなく、自由を求めていく人間にとって家族とは、という立場で話をすすめてほしい」とのこと、性的問題は避けてほしいですね。それをどこに入れてほしいですね。じゃ、まず中嶋さんからどうぞ。(笑)

中「私は前にペンネームで性的ことを交流に書いたことがあるんですが、その時、藤田健次さんから反応があつて『女の側から性を語るのとはとてもいいことだ』と言われたんですね。私は高校教師ですが、教室でも女の子たちが『団地妻』なんて落書きしてるし、そういう映画を作るのも男。本当は、女こそ性について語らなくちゃいけない、又語り伝えた方がいい部分があるにも関わらず、それが少ないんですね。語らない故の悪いものがあると思うんです。だから私は積極的に語ることを選びたいし、私たちはみんな女性によって生まれてきたんだから

るんですが……。その頃考えたのは、孤独をどうするかでございましてね。今だから友人のネットワークができていくから、私は大丈夫なんです。彼の方はそれができていないんです。だからそこに私にしがみつこう原因ができてくると思うんですね。私には、手紙や電話が沢山来るんですけど、彼には来ないんですよ。彼の職場は男子校で、飲んだりする友達はあるんですけど、どうもそれ以上いかなないんですね。

でもまあそれは彼の問題で、私は性を求めて自由な関係を求めていくわけですが、ただその性の関係もね、他に全然なかったわけじゃないんですけど、二人で築いてきたものが或程度あるとですね、ちよつとぐらいい知り合っただけの関係では余り満足がいけない、という、性的問題はむずかしいもんだなあと思つてましたね。特に相手の男の人が余りセックスの経験がなかったりすると、もうそれだけで私と結婚できると思われたい(笑) 中嶋さんの話聞いてると、一般の男たちが言ってるのと同じだね(笑)。収入の少ない方が相手が手に入らないうわたり、籍だけ入れて、と言ったり、丁度逆だね(笑)。



中「結局、自分だけの自由ってありえなくて、相関関係にあるわけね。だから、ゆたかな関係を一つつていくために、自由を享受できる世界をどうつくるかというのが私のテーマです。最後に、シンテラ・コンプレックスという本を読んだの感想に書いてるのが、夫に『お前を養う気はないよ』と言われてショックを受けたことね。その後半、ボーボワールとサルトルの関係で、彼女はサルトルにあがれて一緒にいたけれど、非常に自分に主体性が確立してないことを自覚してね、一年間別居して、その間山歩きなどをして困難を自分自身で乗り越える体験を積み、自分が自分に頼れるってことを実感したっていうのね。

教育の最終目標も『自立』の苦なんだけど、今の教育なんて全然そうじゃない、教師たちも変な幻想しか教えてないわ(笑) 剣に愛した。海は、豊かな恵みを、人間を含むすべてのものに与え、お月さまは、来る日も来る日も、じつとそれを見ていた……。水俣の海を舞台に、海と人とのかわりを描いた、土本典昭さんの作品。11月14日(日) 時半より、阿佐ヶ谷ひろば(国電阿佐ヶ谷駅3分・木風舎奥)にて。六百円。連絡先/03-398-9826・木風舎



第7回朝鮮問題を考える講座 第2期「朝鮮文化の特性」 講演「朝鮮民衆文化の特性」 久保寛氏(民衆文化研究会)

ビデオ「韓国農村の祭り風景」 日時 11月20日(土)6時半〜10時 場所 小金井市公会堂

主催 中央線武蔵小金井南口3分 会・小金井市貫井南町2-14-9

伊藤 0423(81)8759

映画・土本典昭「海とお月さまたち」上映会

漁師たちは、魚たちと真剣にたたかいた、それが、魚たちを真

じだね(笑)。収入の少ない方が相手が手に入らないうわたり、籍だけ入れて、と言ったり、丁度逆だね(笑)。

中嶋里美、宮淑子、Y子、名取弘文、ますのきよし、K子

中「結局、自分だけの自由ってありえなくて、相関関係にあるわけね。だから、ゆたかな関係を一つつていくために、自由を享受できる世界をどうつくるかというのが私のテーマです。

最後に、シンテラ・コンプレックスという本を読んだの感想に書いてるのが、夫に『お前を養う気はないよ』と言われてショックを受けたことね。

その後半、ボーボワールとサルトルの関係で、彼女はサルトルにあがれて一緒にいたけれど、非常に自分に主体性が確立してないことを自覚してね、一年間別居して、その間山歩きなどをして困難を自分自身で乗り越える体験を積み、自分が自分に頼れるってことを実感したっていうのね。

教育の最終目標も『自立』の苦なんだけど、今の教育なんて全然そうじゃない、教師たちも変な幻想しか教えてないわ(笑) 剣に愛した。海は、豊かな恵みを、人間を含むすべてのものに与え、お月さまは、来る日も来る日も、じつとそれを見ていた……。水俣の海を舞台に、海と人とのかわりを描いた、土本典昭さんの作品。

11月14日(日) 時半より、阿佐ヶ谷ひろば(国電阿佐ヶ谷駅3分・木風舎奥)にて。六百円。連絡先/03-398-9826・木風舎

主催 中央線武蔵小金井南口3分 会・小金井市貫井南町2-14-9

伊藤 0423(81)8759

映画・土本典昭「海とお月さまたち」上映会

漁師たちは、魚たちと真剣にたたかいた、それが、魚たちを真

てき、このままだけ結婚でき

るなんてふんいきになって、そ

のうち「私の家族にも会って下

さい」なんて相手に言われてき、

そんな善しやなかったなんて思

いながら、でももう一回ぐら

セックスしたいな、なんてホテ

ルに行くってどうするの?」なん

て言われてき(笑)。ほくのほう

なんとなくはぐらかしてたら相

手がそのうち「この人は誠意が

ない」なんて気がついてきてき

(笑)

ま「諦めるのを待つ?」

名「うちのお母さんも本気の

持聞いといてって言ってるけど、

どうなんですか?」なんて言う

から、「うん、ほく今いろいろ

忙しくて、なんて逃げること

なるんだ(笑)」

中「私の場合、相手の男が異性

の経験が少ない。それで大変だ

ったことがあるわけよ。私との

ことをみんなに言いふらすの。

あの女はふしだらな女だとか、

言いふらすので、本当に私困っ

ちゃったことがあるの。そうい

うことであるでしょ?逆のこ

ともあるけど……。だから、結

(次頁へつづく)

83年1月より、第2・4水曜

日、夜7時〜10時。阿佐ヶ谷ひ

ろばにて。受講料・10回で1万

円です。問合せ/03-398-9826

・二六六六木風舎内・井上

長時間保育問題を考える(男) 短・男女ともに育児時間を) 日時 12月11日(土)2時より 会場 神戸市教育会館6階大ホール(保育室有り)

主催 長時間保育問題を考える 集会実行委員会

後援 神戸私立保育園連盟

映画「声なき叫び」上映会

日時 11月20日(土)1時半

会場 武蔵野公会堂(吉祥寺駅南口下車5分)

講演 宮淑子さん(ジャーナリスト)

託児あり(予約制・事前連絡)

前売 六〇〇円

当日 七〇〇円

(男は二〇〇円増)

取扱店 国分寺 テメテル

阿佐ヶ谷 木風舎

主催 「声なき叫び」を上映する

私たちの会(04-04三三

・八五・一七七三・岩崎)

（前頁よりつづく）
 局という関係をもつ相手も、選ばなくちゃいけないということですよ。」
 名「結婚幻想のことだけど、恋愛中はいいとだけ見せようとするし、見ようとするわけじゃない？サビズもするしよ。」
 「ところが実際結婚するとき、延々と家事がでてるわけじゃない？恋愛中は考えなかつたよな。」
 名「そうじゃない？」
 女「そうじゃない？」
 女「ま、たまとまりそうな感じだった話だし、生活してみると意見が一致すると思ってたのに意見の相違があるって気付くわけよ。それに、御飯の食べ方とか茶わんの洗い方とか、いろいろあるじゃない？習慣といふかね、それがかなりちがってたことか？」
 女「それ、これはおんなり大きな問題だと思っただけで、好き合があるでしょ？」
 女「それは、親戚の付き合いが、今度で好意的だった相手の親戚が今度嫁・姑の関係になるわけね、その辺で出てくるのよ。」
 女「それがよく分らないまま結婚するってよくないことだ、最近つくづく思うのね。」

さ、こんなわずらわしいことしなから夫婦関係を保つ必要があるからって思うわけね。そう思ったら、と段々愛情うすれていくし、性行為もなくなっていくし。」
 女「あと、対人関係でも、相手はいろいろばくの友人なんかにも迷惑かけていって、ぼくはそれを不愉快だと言っただけで、相手はそれが分らないのね。」
 女「なるものよ、しゃべるののいやになって、後半5年間口をきかなくなつたのね。」
 女「この4月から別居してるんだけど、その前に離婚届けにハンコ押ししてもらったのね、まあ土地、家子どもはあげますとか、いくつかの条件つけてね、その届けを持って市役所へ行ったら、なんと不受理申請がでた。」
 中「へえ、初めて聞いた。そんなのあるの？」
 女「そう。それでガックリしたのね。今は家裁で調停中なんだけど……別居してる親戚の孫に会いに行きたいのね。」
 女「結婚は簡単だけど離婚はめんどつくさ、いってのが最近分ってきう。もう一つ、ぼくの場合、ガチャガチャしたしがらみみたいな嫌いなね。しよつちゅう憎しむ合、のしり合いなから、外にむかへまで悪口言いはね。Y子さんのこと言ってるんじやないですか？」



うっていう意識かな、とも思うんだけど。」
 女「とにかく面白くないし、結婚したけりや一緒にいられない、いやなら別れたいって思うんだけど、それが分って来ないって感じがね。特に今、あいつは分らないってことで、今ゴチャゴチャやってるわけ。」
 女「もう一つ、そんな話は世間にもあるのよ、本人にとつては、自分個々の問題に思えて、悲劇の主人公になってるとも思えるわけじゃない？」
 女「それから、ぼくに同じ家族というのには友達と同じなのね、中嶋さんがいて宮さんがいて、職場の同僚がいて……というふうにな、それと同じなのね。」
 女「ところが向うはそうじゃなくて、家族といふのはバッチリあつて、うん、わいとアツサリしてねえ。」
 女「ま、向うの方も同じなの？」
 中嶋「うん、お父ちゃん、久しぶりだねえなんて情がこもるわけじゃないのね。」
 女「うん、わりとアツサリしてねえ。」
 女「ま、向うの方も同じなの？」
 中嶋「うん、明日でもいいんだけど、話すことは学校の子もどなたと変えないね。」
 女「ま、向うの方も同じなの？」
 中嶋「うん、明日でもいいんだけど、話すことは学校の子もどなたと変えないね。」
 女「ま、向うの方も同じなの？」
 中嶋「うん、明日でもいいんだけど、話すことは学校の子もどなたと変えないね。」

12月2日には、ますのさん呼んで「家族とは何か？」という公開授業をする予定ですがね。
 子どもたちにしても、家族はガッチリとこわれないものだと、前掲でしゃべってたわけね。だが、実際には全くこわれないの世代によくあるんだけど、遺産相続めぐって物凄くやるじやない？親戚同士とかきょうだい同士とかね、そういうのを見るから、しがらみから逃げよ、とていう意識かな、とも思うんだけど。」
 女「さ、こんなわずらわしいことしなから夫婦関係を保つ必要があるからって思うわけね。そう思ったら、と段々愛情うすれていくし、性行為もなくなっていくし。」

教える側のほくにしたりしてね。そういう意味で、今日のはともいいたくないです。」
 名「質問だけだね。家族も友だちも同じってところ。つれあいの関係はもう事実上こわれないのだから、分るけど、子どもとはどうなの？学校で教える子どもも同じなの？」
 女「ま、向うの方も同じなの？」
 中嶋「うん、明日でもいいんだけど、話すことは学校の子もどなたと変えないね。」

所は一緒という型が理想なの。彼は中嶋さんのところと同じで、整理整頓、家事が得意なのね。育児は二人とも経験ないけど、だから、二人一緒になったら家庭の専業主夫になつてもいいって思ってるの。そのために台所は大きいのがほしいってことなの。今は、シングルとシングルが時々合うのがいいって思ってるんだけど……」
 女「なんで最後に一緒になるの？」
 中嶋「それ聞きたいわね。」
 女「うん、明日でもいいんだけど、話すことは学校の子もどなたと変えないね。」

春男と夏子は恋をしてた。職場恋愛だった。二人は子どもが欲しくなつた。でも、仕事は辞めたくなかつた。仕事と育児を両立させたかった。
 二人はいろいろ考えた。今の労働時間のままでは、とてもいい育児はできなかつた。
 ある日、二人は、同じようなことを考えている仲間たちをさがして、「不妊同盟」を結成することになった。この同盟の規約は簡単なだけだ。

職場でストをやつたり争議を起すには、弾圧と闘ういくらかの勇気が要するが、妊娠ストに対しては、いかなる国家も弾圧できないので、人々は気楽に同盟に入ることができた。
 はじめのうち、政府は全く力をくくつてた。
 「あんなのはバカなヤツらの思いつきにすぎん。そのうち消えてしまふさ」と。
 ところが、2年後の厚生省の統計で、おどろくべき事態が明らかとなった。出生率が激減し、しかも同盟員の数はネズミ算式に増えつづけた。このままの状態がつづけば、数年後に

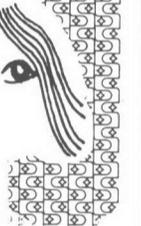
名「本人の意志でしたいもんだね。」
 女「そう。それと親戚との関係が大変でした。二人だけの関係じゃないでしょ？私も名取さんと似てて、しがらみ関係にしたくないのね、なるべく友だちとしての、えらんだいい関係にしたいなって思うの。」
 女「ただ、性のフリーという問題についてはね、先日もスワッピングを取材したんだけど、あれは夫婦でやるでしょ？だから夫婦はこわさないで、体制内改革というか、回春剤みたいなものね。」
 女「夫婦の補強でしょ？」
 女「そう。そういう夫婦はもうこわれてると思っただけで、こわれつつあるとおかしいけど、もつと結びつきが自由になれば男と女の関係もいいものになると思うのね。」
 女「宮さんの話聞いててびっくりしたのは、老後は一緒になるというやつね、老後はかなり宮さんの評価を変えなきゃならんと思つたなあ。」
 女「そうね、あれはね。」
 女「（以下次号）」

メルヘンストーリー

丙十舞雅里つれづれ

斑鳩日記

13 門野晴子



「いらつしゃいませ。〇〇へようこそ」近所のファミリーレストランへ入ると、ウェイターウェイターの声がかかる。中にどうにも舌つらずなソプラノが張り上がって、未成年を使っているな、とすぐにバレる。ま、従業員のほとんどが未成年の学生アルバイトではあるが、あどけないソプラノが声に似ないジャンボなからだで、水とおしほりを持ってくる。「ご注文はお決まりになりましたか」「そうね、また暮の内にしようかしら。ウェイテレスは顔を近づけ声を落とす。「生活苦で働いていることになっているんだから、あんまり高いものを食うなよな」娘が働いている手前、ミエをはっているんだぜ」

「少々お待ちくださいませ」再び声を張りカウチンターに向かう。中年の店長がこちらを見ていたが、私と目が合うとあわててそらした。会釈もできない。「お待ちたせました」料理を置きつつ声を落とす。「店長が、リッチな生活しているやんけ、と言ったよ」ミエだ、ミエ。コーヒー追加「ごゆっくりどうぞ」。速足で広い店内を駆け巡る娘。これで時給四五〇円だ。チクショウ、搾取!

コーヒーを運んできたのは別のウェイテレス。門野さんのお母様でいらつしゃいますか。私××です。智子さんにはお世話になってます。私はあわてて立ち上がって最敬礼する。「お母様」なんて言われたの初めてだよ。息子の友だちでも「オバサン」だもの。マケソツ。隣の席にオジンどもが座る。娘が注文を聞く。この野郎、何かヒワイなこと言ってみろ、水

をぶつかけてやる——私はコップを引き寄せた。「ねえちゃん、ムコさん世話してやろうか。いくつや」はい、十六才です。「何や、まだ子供やんけ」勤務を終えた娘が着替えて私の前に座る。今宵は男が夕食の「さつきね、赤ちゃんを抱いたお父さんがきて「この子にチヨコレトパフェを食べさせていいやろか」と聞くの。さあ、私は生んだことないからわかりません」と言ったらね、僕も生んだことないやんけ。もう笑ったの何のって……」

バイトが楽しくて仕方がないという様子の娘は生き生きと語る。バイト仲間の先輩からのい刺戟もあった。店長はシンネーと広がった。店長はシンネーり男だが従業員は皆親切で、娘が料理を落とすときなど「一度やったら殺すぞ」と料理長。少しヒマだと店長が呼びとめる。「門野、今月の目標いってみたい」「何だっけ。ガッチリもうけよう、だったかな。エヘヘ」

何が欲しいかでなく、とにかくバイトがしたかった。高校受験前に一人で面接にとびこみ、「生活苦だからと店長を説得し「感心だね」と言わせる。高校はバイト禁止のため私には手紙で宣言。バイトするの許してください——なんて言いません。お願いは高校から聞かれたとき、適当に言ってください」

私も高校生にもなったら小遣いくらい稼いで当然と考え、反対しなかった。ところが父親の入院で大義名分ができ、夏休みには堂々のご出勤となる。とた

かない生徒は職員室でパーマを切っていますが、門野は逃げてしまった」私はとり乱して叫んだフリをした。娘の髪は娘のものよ。そんなことやってみろ。ナチの相手をした女たちが、連合軍に見せしめのため丸坊主にされたのと同じく、どこが違うの。何という恐ろしいことを。レイプだ!」担任はあわてて電話を切った。

娘はゆうゆうと帰宅する。「職員室と理科室がパーマをかけた子で一杯よ。皆おとなしく切り替えているよ。バカだね」校則破りもいいけど、片棒かつがされて先生をオドすにも演技力があって疲れるのよ。いい加減にしてくれないかなア」

担任は諦めなかった。娘に目をつぶると、他の教師たちから指摘されるという辛さが彼にあり、違反者は呼び出される。娘はお呼びでなかった。担任は眼をそらすそう。私の「童貞作」が出たからかも?

「交流の読者には「丙十舞雅里つれづれ斑鳩日記」のパンチのきいた文章でおなじみの門野さんが、この秋一冊の本を世に送った。題して「わが家の思春期」。おさえたピンクに濃紺を配した表紙に門野一家のプロフィールが長谷川集平さんの手で描かれていて、各章の扉にも門野さんちの四人の全身像が描かれている。実物以上に描かれていて、ウワサも、血の気の多い門野さんの筆の運びにつれて、現在の歪んだ教育界に對し怒り狂うであろう読者の心を幾分なりとも鎮めてくれるしなかなっている。

彼は説教するときは必ず職員室に娘を呼ぶ。一対一でやる。娘にやりこめられるか、平行線をたどるかどうかだ。彼の奥の手は泣き落としだった。「頼むからオレのために切つてくれへんか」に、娘は「私の切りたいときに切ります」と言いつて帰ってきてしまった。

押せ押せで頭髪検査期間は終わり、娘は笑いながら「今日から自転車通学のヘルメット検査だよ」よくも次々と検査が好き学校だね。そのエネルギーを授業にかけたらどうだい」バカバカしいから抵抗しているということに、教師は気がつかないのだろうか。

十月に入って頭髪の再検査があり、違反者は呼び出される。娘はお呼びでなかった。担任は眼をそらすそう。私の「童貞作」が出たからかも?

へと向けられていく。まさに学校は彼女にとって反面教師だったわけだ。しかし、悦生君を待っていたのは高校入試不合格、定時制高校の生活だった。辛い思いはなかつただろうか。だがこの母が獲ちとつたのは「ゆるぎない信頼」という絆だ。そして悦生君は、何もかも統一された高校生活の中で、「赤いパンツ」に決して奪われない自由を象徴させるほどに、ウィットに富んだたくましい青年に育っていく。

もう一人の智子さんは、「中学生に性教育を」で、少年の主張コンクール」の入賞をきっかけに、早く大人になって女と男のほんとうのエロスを互いの経験と踏まえながら話し合うことを母親から期待される頼もしい娘。受験勉強で着白になつていく級友を尻目に運動会のチアガールに、卒業のアルバム作成委員にと青春をほとばしらせているガッツのあるギャル。この明るい少女が、上級生にリンチさと思つて、ピンタと涙で風船のように膨れ上り、むこうずねから腰まであざだらけになるのだから恐ろしい。自分の子供がそんな目にあつたら親はどうするだろう? 門野さんはどうしたか?

「暴力なんぞにビビるとは、それでも女か!」報復を恐れて沈黙を守る智子さんを殴りつけたのだ。そしてこども又、学校とは、管理と指導ばかりで、教育など何もないことを思い知らされ暗然としながらも、その中に智子を送り出さないわけにはいかない。「ああ、今の子どもたちは、なんとという恐ろしい時代と聞いているのさ。う。娘よ、生きぬくのさ!」よく聞こうこそがよく生きる

「平和主義者」で「公平主義者」だから、アッチの意見も聞いて、コッチの意見も聞いて、客観的データにのっとりて公正な判断をナンテ愚図く考える人間だから中々行動に起し上れないし、まして一人ぼっちの闘いなんてたとえ我が子のためにも覚束ないダメな母親である私も、さあ子どもを抱きしめよう。愛と勇気がわいてくる。あのハスキーな声でそう呼びかけられた気がする。

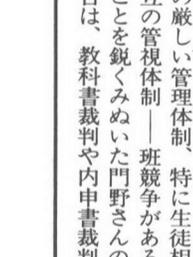
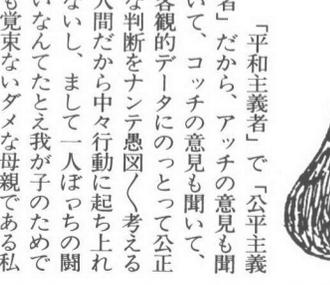
それにしても各々が強烈な個性の持主であるのに、何故門野さんには、対立や反目の代わりに愛と笑いがあつたのだろうか。多分それは、親子であつても、夫婦であつてもたれあわない精神的自立が各自の中に確立しているからなのだ。そしてその関係の中で生まれる相互の信頼と愛情が巨大な外敵と闘う際の最大の武器となつていかにちがいない。どういふ風にその「自立」の精神が育まれてきたのか、悦生君、智子さんの「思春期」以前の門野さんちの歴史をもう少し知れたらなあ。それと門野さんの「白馬の王子様」のカゲがちょっと薄すぎなかつたかしらん。(現代書館一五〇〇円)

「裁判」の場には化けた時、門野さんは息子の無実を信じて一人闘う。私はガッと謝らなかつた。テンブラ野郎メノなにかニッキョウソクノなにか一人一人の子どもを大切にだ。……笑わせるな……教師が先頭に立つて集団リンチをやるとは面白い……「弱者いじめの背後に学校側の厳しい管理体制、特に生徒相互の監視体制——班競争があることを鋭くみぬいた門野さんの目は、教科書裁判や内申書裁判

「わが家の思春記」評 野村康子

「暴力なんぞにビビるとは、それでも女か!」報復を恐れて沈黙を守る智子さんを殴りつけたのだ。そしてこども又、学校とは、管理と指導ばかりで、教育など何もないことを思い知らされ暗然としながらも、その中に智子を送り出さないわけにはいかない。「ああ、今の子どもたちは、なんとという恐ろしい時代と聞いているのさ。う。娘よ、生きぬくのさ!」よく聞こうこそがよく生きる

「平和主義者」で「公平主義者」だから、アッチの意見も聞いて、コッチの意見も聞いて、客観的データにのっとりて公正な判断をナンテ愚図く考える人間だから中々行動に起し上れないし、まして一人ぼっちの闘いなんてたとえ我が子のためにも覚束ないダメな母親である私も、さあ子どもを抱きしめよう。愛と勇気がわいてくる。あのハスキーな声でそう呼びかけられた気がする。



門野晴子著 わが家の思春記

評 野村康子

無実の訴え

土田・日石ピース缶冤罪事件「被告」

前林則子

13

【爆弾事件での逮捕】

一月三日、アメリカ文化センター事件で逮捕されたMは続いて、二月十二日に第八・九機ピース缶爆弾投てき事件で再逮捕されました。これまでは逮捕されても勾留満期日には

入みの連携プレーの練習からは一人も抜けることができない。サーブをし、打ち込んだボールを拾い、また次のサーブを急いでするのには大忙しである。モタモタしている「何してるの？」と声がかかってくる。サーブを失敗すると「ホレホレ、いいタマ出せよう」とも言われる。

そんな練習が幾日か続いたあと、バレー部のキャプテンが職員室の体育教師のところにやってきた。その先生は「今日も用事があって練習には出れないよ」とか答えたらしい。キャプテンは「一言三言質問したあと、突然大声でわめき出した。先生さあ、やる気あんの、まったくもうあたし、知らないからあ、もう部員集めしたり、いろいろ面倒みてやらないからあ、こんど試合、また負けても知らないからあ。」

もう一つ別の話。今年（一九八二年度）から高校の指導要領が新しく変わるので、特に上級学年では選択教科を増すことができるようになった。そこで一つの試みとして生徒の希望によって授業を設けようと思いついた。昨年、調査をしたのだが、あまりはかばかしく要望が出て来なかった。ところが、新学期直前の

その時期はどうに過ぎない。その時期はとうに過ぎていた。講義変更の手続きを出した。教育庁の係の人に「何で今ごろ」と文句をいわれた。でも、どうやら新学年に「家庭科食物」の授業を開くことができた。

八機事件で逮捕された直後の二月十三日、私はMの父親と共に警視庁へ行きMと面会をした。Mの取調官達は身柄が検察勾留になる前の警察にある時はいつも両親をよんでMに面会させていました。今思えばこれもデッチ上げの口口の一つなのですよ。当時は何も知らず、Mの方で両親との面会を望んでいるとはかき思っていたのです。警察の方で両親を呼び出していたわけでは

この日も両親が面会に行く予定でしたが、毎日警視庁へ差入れ品を持って行っていた母が取調官から「お母さんが甘やかすからMはいつまでたつてもダメなんだ」と説教されたようである。Mは母に「お母さん、お父さんと一緒に警視庁へ行ったんです。」

面会は十五分位の短いものでしたが鉄格子越しのMは思ったより明るい表情でした。私はMからデッチ上げ逮捕された怒りや警察のひどさなどの訴えが、何となく思っていたのですが、Mは淡々と述べていました。私の方はデッチ上げは許せないと思つた。Mの口からは「つきり」と事件はやっていないと聞きたかつた。Mは「爆弾事件はやっていないでしょ？ それなのに逮捕するなんて警察はひどいわね」といって、立会い警察官を睨みつけてやりました。しかしMから「面会では取調べのことは話してはいいわね」といわれているんだ」と言われ、私も黙ってしまった。取調べ室という密室の中で、このように拷問がMに加えられるのかわからなかつたので、Mの言葉に従いました。

尚、この日面会へ行く前に病院へ行ったところ、妊娠三ヶ月と診断されたので、その報告をするMは非常に喜びました。面会中はほとんど子供の話で終りましたが、帰りに警視庁で待たされたT警部補に「警察はデッチ上げなんかしないでキタナイわね」と抗議すると彼は表情のない能面のような顔をして、何も言いませんでした。

尚、この日面会へ行く前に病院へ行ったところ、妊娠三ヶ月と診断されたので、その報告をするMは非常に喜びました。面会中はほとんど子供の話で終りましたが、帰りに警視庁で待たされたT警部補に「警察はデッチ上げなんかしないでキタナイわね」と抗議すると彼は表情のない能面のような顔をして、何も言いませんでした。

面会を終えて帰宅するとMの両親も初孫が出来たというので大喜びで、あれこれ心配してくれました。しかしMの喜んだ顔を見れば、私は何か言いたく知れぬ腹立たしさを覚えました。つまり男は一回のセックスですむわけですが、女は「生む」ところまでやらなければなりません。となると子供を生める生活の準備が必要なのですが、私達には何の準備もありませんでした。Mが子育てをしたり、生活を営む意志があるかどうか、つわりの苦しさを私に知らせず、そして私の涙は、私

一人だけの涙ではなく、女の歴史の涙なんだと思つた。女は苦しみながらも戦争の真只中でも子供を生むわけであり、女の「性」は深く重いものです。それを聞くのではなく、デカの考えを押しつけてくるのです。例えば一九六九年夏、私とEさんが貸りた渋谷のアパートに、私が「アジト」と言つて来た。しかし私とEさんはそのアパートを活動に使うという意志はなく、二人の便宜の為に貸りたのでデカの言葉を認め、デカのやりとりを書いてみることにした。

デカ「前林さん、渋谷アジトのことを聞きたいんですが」私「アジトではなくアパートです」デカ「前林さん以外の人もそこに来たことがあるんですよ。私「貸りた本人がアパートと言っているんですからアパートと言つて下さい。あなたが貸りたわけではないんですから」デカ「アジトはアジトです」

この三つの話には共通点がある。それは他律ということだ。他人から何かをやらせようとする強制的なことが、今や当たり前と思われようになっている。そのために自分が何をしたいのか、自分自身で決めることができるようになる。これは、個人の性格の問題でもなく、現代の若者全体の傾向が他律的になっている。とすれば、これは明らかに社会の風潮や制度の問題である。学校という制度はもとより他律的なのだが、今や若者が積極的にそれを求め始めたので、いわば内部から他律傾向を強め、これを拡大再生産する方向に進んでいる。

たようにいった。「わかつた、じやあ、これから先生の顔たててやってみるかあ。」

まず迷路のような地下取調室へ連れて行かれたので、それだけで何か怖いような感じでした。しかも取調べ内容も私の話を聞くのではなく、デカの考えを押しつけてくるのです。例えば一九六九年夏、私とEさんが貸りた渋谷のアパートに、私が「アジト」と言つて来た。しかし私とEさんはそのアパートを活動に使うという意志はなく、二人の便宜の為に貸りたのでデカの言葉を認め、デカのやりとりを書いてみることにした。

今度の座談会出席者は、たまたま、Weを支援する会で顔なじみの人ばかりでした。それでも、各々の家族観、生き方にかんがりの開きがあります。それは或る意味で当然と言えるでしょう。

「お母さんが甘やかすからMはいつまでたつてもダメなんだ」と説教されたようである。Mは母に「お母さん、お父さんと一緒に警視庁へ行ったんです。」

面会を終えて帰宅するとMの両親も初孫が出来たというので大喜びで、あれこれ心配してくれました。しかしMの喜んだ顔を見れば、私は何か言いたく知れぬ腹立たしさを覚えました。つまり男は一回のセックスですむわけですが、女は「生む」ところまでやらなければなりません。となると子供を生める生活の準備が必要なのですが、私達には何の準備もありませんでした。Mが子育てをしたり、生活を営む意志があるかどうか、つわりの苦しさを私に知らせず、そして私の涙は、私

一人だけの涙ではなく、女の歴史の涙なんだと思つた。女は苦しみながらも戦争の真只中でも子供を生むわけであり、女の「性」は深く重いものです。それを聞くのではなく、デカの考えを押しつけてくるのです。例えば一九六九年夏、私とEさんが貸りた渋谷のアパートに、私が「アジト」と言つて来た。しかし私とEさんはそのアパートを活動に使うという意志はなく、二人の便宜の為に貸りたのでデカの言葉を認め、デカのやりとりを書いてみることにした。

今度の座談会出席者は、たまたま、Weを支援する会で顔なじみの人ばかりでした。それでも、各々の家族観、生き方にかんがりの開きがあります。それは或る意味で当然と言えるでしょう。

この三つの話には共通点がある。それは他律ということだ。他人から何かをやらせようとする強制的なことが、今や当たり前と思われようになっている。そのために自分が何をしたいのか、自分自身で決めることができるようになる。これは、個人の性格の問題でもなく、現代の若者全体の傾向が他律的になっている。とすれば、これは明らかに社会の風潮や制度の問題である。学校という制度はもとより他律的なのだが、今や若者が積極的にそれを求め始めたので、いわば内部から他律傾向を強め、これを拡大再生産する方向に進んでいる。

たようにいった。「わかつた、じやあ、これから先生の顔たててやってみるかあ。」

まず迷路のような地下取調室へ連れて行かれたので、それだけで何か怖いような感じでした。しかも取調べ内容も私の話を聞くのではなく、デカの考えを押しつけてくるのです。例えば一九六九年夏、私とEさんが貸りた渋谷のアパートに、私が「アジト」と言つて来た。しかし私とEさんはそのアパートを活動に使うという意志はなく、二人の便宜の為に貸りたのでデカの言葉を認め、デカのやりとりを書いてみることにした。

今度の座談会出席者は、たまたま、Weを支援する会で顔なじみの人ばかりでした。それでも、各々の家族観、生き方にかんがりの開きがあります。それは或る意味で当然と言えるでしょう。

定時制高校・夜話

その [6] 佐々木 賢

女子バレー部はこのところ不振が続いている。部員が少い上に、その部員が練習に集らないからだ。二、三人しかいないと練習もままならない。対外試合の日が近づいてくるとキャプテンは気がでない。

そので顧問の体育の先生が練習に参加する。体育の先生ばかりではまだ人数が足りない。その養護の先生に「バレー、やったことがあるんですか」と聞いてみると、「いえ、ぜんぜん」と答える。でも、ボールを投げあげることくらいはできるでしょう。投げてあげると、あのあたち、ネットの向うでそれをポンポンと打ち込んでくるんです。そのボールをあたしにうまく拾えって、いんですよ」と笑っている。

そので顧問の体育の先生が練習に参加する。体育の先生ばかりではまだ人数が足りない。その養護の先生に「バレー、やったことがあるんですか」と聞いてみると、「いえ、ぜんぜん」と答える。でも、ボールを投げあげることくらいはできるでしょう。投げてあげると、あのあたち、ネットの向うでそれをポンポンと打ち込んでくるんです。そのボールをあたしにうまく拾えって、いんですよ」と笑っている。

そので顧問の体育の先生が練習に参加する。体育の先生ばかりではまだ人数が足りない。その養護の先生に「バレー、やったことがあるんですか」と聞いてみると、「いえ、ぜんぜん」と答える。でも、ボールを投げあげることくらいはできるでしょう。投げてあげると、あのあたち、ネットの向うでそれをポンポンと打ち込んでくるんです。そのボールをあたしにうまく拾えって、いんですよ」と笑っている。

編集後記

今回の座談会出席者は、たまたま、Weを支援する会で顔なじみの人ばかりでした。それでも、各々の家族観、生き方にかんがりの開きがあります。それは或る意味で当然と言えるでしょう。

次回刊の書評予定は「女性とロシヤ」(重紀書房)です。

12月号 (No. 110)

1982年12月10日 (毎月10日発行)
1年間予約制 (送料共) 2,000円 1部頒価 200円

発行 「交流」編集会議

東京都中野区江古田4-17-14 (増野潔気付)
〒165 電話 (03) 385-2293
郵便振替 東京 4-51709



❖「交流」は、いろいろな生活領域から、体制に異議申し立てをして人々相互の交流と討論と発展のための月刊新聞です。
❖原稿料は払いません。編集作業も無償です。購読料とカンパによって、印刷費・郵送費をまかないます。

流通業界・冬の時代に 生活協同組合は何処へ?

松岡省二

はじめに
(流通業界と生活協同組合)
十一月に入って流通業界のトップに立つタイエーの中内功社長と西友ストアの堤清二代表がそれぞれ、流通業界が冬の時代に入ったことを認め、「量販店」から「質販店」に路線の転換を宣言しました。

これは安さだけを売りものにするスーパーの時代の終焉を、全国に三〇〇店舗も構える業界最大手の経営者が認めたのです。生活協にもスーパーと同じく、大量一括購入すれば安くするという思想があり、「質」とか「運動」というのは、「量」の添物でしかありません。

合成洗剤追放を唱える日生協 (日本生活協同組合連合会)の略は石けん以外の合成洗剤を販売していません。私たちのたつみ生協でも少くとも最近までは、合成洗剤を売って、一方で合成洗剤追放運動でメーカーの団体に、集めた合成洗剤を持って山積みにしてマスコミに宣伝したり、西友ストアに抗議に押しかけたりしたのです。

生活協の言分は「生活協で売らなくても、他店で買えば同じこと」だそう。生活協の「安全性」とか、「運動」は現状ではカッコ付きの物ではあありません。生活協の「よりよいものを安く」という発想は、大量生産、大量消費、高度経済成長を前提とした時代の神話です。

スーパーに量販競争に遅れをとった日生協は「生活協の佐世保重工」と言われた札幌市民生協の再建支援以後、中・小生協を切り捨て一果一生活協へと大型合併の道を辿っています。

日生協の大型合併に取り残された

れた小さな生活協はコープブランド商品の仕入れの単位に追いつけず脱落せざるを得ない状況に追い込まれています。

こうした生活協も含めた流通業界の再編過程で、ヤマザキパンのように大型化を目指すのか、手造りパンのように小さくても消費者運動に徹するのかが、現在、中・小の生活協には問われています。

社会党員の理事長の 労務政策

たつみ生協は東京の東部、江東・江戸川区を中心に組合員約八〇〇〇名、六店舗、年商二〇億円の、社会党員 (元・都本部組織部長) が理事長をしている小さな生活協です。

こゝで最近、共同購入の新配送センターの建設を組合員に相談なしに強行する理事会と下からの討論を求める組合員の対立が起りました。

たつみ生協には三名の合同労働者と新配送センターで配転させられる準職・パートの婦人労働者三名で結成したパート労組の二つの労働組合があります。

たつみ生協は日生協の大型合併にはずれて、独自に大型化を目指して店舗の新設、合理化をすすめてきました。

その一つとして、数年前に婦人労働者に「職業婦人」としてはじめて意識されている人は別に多くは家計の助けをしてくれるために働らく家庭婦人である場合がほとんどです……と、女性職員を「家庭婦人」として扱い、準職員 (目給制となり諸手当が削減) に降格させました。

ルバイトと幾重にも身分の差別があり、給与体系も複雑に格差があります。

「入社時に時間外手当は三〇時間までということも全員承認 (理事長) という条件で採用したという理由で一〇年間も三六協定も結ばずに長時間の残業をさせ、労基法第三七条に反して三〇時間以上の残業料を払わないために、昨年、労組は未払いの時間外手当の支払を求め闘争を起しました。

今年の総代会で四億五千万円の借入限度額が可決されました。生活協では借入限度額さえ決めれば、あとは理事会でそれを何

に使用すると許される恐ろしい団体です。たつみ生協では、組合員に事前の説明も議論もなしに新配送センターと新店舗を建設中です。そして既成事実を押しつけて組合員を増資を半ば強制するので。

生活協法では一口の出資金で加入できることになっていますが、それさえもたつみ生協では拒否されている現状です。

新配送センターの建設が民主的でないと反対する労組を力づくで押さえるようになっています。

その一つは、共同購入部の職員で合同労組に入っているMさんが仕事に注文用紙と一緒に労組のビラを置いてきたという理由で始末書の提出を命ぜられ組合が拒否すると減給処分になりました (一〇月二七日)。

社会党は労働者の党であり、労働組合の権利を擁護する側に立っているのではないでしょう。理事長はMさんの減給処分を辞令をコピーして全職員に配っているのです。業務に支障のないビラ一枚で処分し、たつみ分会は三名しか労組員がいない等中傷していますが、少数の側に真理がある場合もあるのです。それだけではありません。たつみ生協には職員の親睦会が毎月、積立てて毎年、慰安旅行をしています。

パンパ紹介

内申書裁判上告理由書

今年5月、東京高裁は、79年3月の一審判決 (在学時代の政治活動を内申書に記載したこと違法というもの) を全面的にくつがえし、内申書記入に関する中学校長の「広汎な裁量権」を認めた。この二審判決は、まさに「荒れる中学」を鎮圧するのにヤッキとなった中学管理職者たちの背後を固めるためにつくれた政治的判決そのもの

は前林さんを知っている私にも彼女のふだんつき合っている中でみられる面とは全くちがう面を発見していつも驚いています。これからも「交流」の紙面をおもしろくするためにがんばって下さい。 (S子)

断つておくが、彼は決してダメな人ではない。とても質のいい、上等な男だと思って私は尊敬すらしている。結局、彼ら男にとって男女・家族のあり方が変化することによって社会全体がよい方向に行くという認識がうすく、この問題につきつめていけば、自分にとってかなりしんどくてヤバイことになること察知しての逃げの表現が「もういい」なのだ。道は遠い。 (全石油シェル労組 大須賀啓子)

自分の主張の部分は出ているけど、男女つてのは相互関係ですよ。「交流」の座談会なのに「交流」が出ていないのは、個人の自由をもっとおし広めようというには、私も大賛成なんだけど、具体的には、古い考えを持つ人や、ベタベタすることが好きな人がいたりして、そういう人が身の回りにいたらその人たちがかわりの中で自分の考えをどのように実現させるか、どの程度相手を受け入れられるのか、そこが大切なところで、相手の考えや行動を切り捨てるのでは、何も実現できないんじゃないですか。私は…… (中略) 中嶋さんも名取さんも宮さんも、みんな離婚に関係しているの、一風変わった雰囲気が出てます。 (中略)

三人とも、とにかく相手との交流の中で互いに変化した部分や、変化しなかった部分、それを含めた新たな関係がある筈なのに、それが出ないのです。

11月号とても楽しく編集された交流の中で互いに変化した部分や、変化しなかった部分、それを含めた新たな関係がある筈なのに、それが出ないのです。「無実の訴え」





《子育て責任のルールから?》
 ま「すると、ほくも皆さんからはだいたいマイナス評価されることになるのかなあ?」
 ほく「場合、家族に対する考え方はいろいろに変わってきたね。若い時はサルトルとポホールのような関係にあらがれたんだけど、それは今から考えると、大学に入ってから、家で療養生活してた時期でね。親に負担をかけている肩身のせまさと自由へのあこがれみたいなのがあったと思う。その後、大学で4年間寮に入ってる間に、段々さみしくなってるね、女の人と一緒に暮らしたいと切に思うようになっていったのかな?」
 で、大学出て一年後に、学生時代に知合った今のつれあいなと一緒に暮らしたわけ。ただ、その後ずつとほくらは政治運動やってたから、余りつめて家族とは何かなんて考えなかった。こんなもんだという感じ……。彼女の方もそうじゃないかな?」
 5年くらいしたら彼女が子ども欲しいと言いだした。ほくは初め反対してた。運動の足をひっぱられるんじゃないかと思ってる。ただ、まわりからは「子どもがいらないから、そんな夜遅くまで活動できるんだ」なんて言われるから、やっぱり子どもを持つた上で活動しないと発言力がなくなるとも思っていたりしたね。

座談会 自分にとって家族とは?

(中)

中嶋里美・宮淑子・Y子
 名取弘文・ますのきよし・K子

等と言ってるんだろ。ちゃんとやれ/やらないのなら離婚だ」という感じでやられました。それで、こっちは悩む、という状態がしばらく続きました。それから、クビになったり政治運動から離れたらいたあげ、子どもも気持ちよくつき合えるようになったんだけど、それで考えるようになったことは、男と女の間で、親と子の関係はちがうっていうことね。男と女がケンカ別れて、うらみが残ったにしても、それはそれぞれの責任で生きていくよりしようがないと思っただけで、子どもの方はそうはいかないでしょう?」
 で、その頃から段々考えるようになったのは、家族というものは子どもをベースにしてるん

じやなかろうか?ということですね。ただ、あの本(家族ってなんだろ)を書きながら、ずーっと迷ってた部分があった、それは性的問題です。
 さつきから、「制度としての結婚」という話がでていたけれど、国家による規制、たとえば届け出制度など以前に、一夫一婦制を要請する社会的規範みたいなものがあるでしょ?法律以前の規制っていうかな?そういうのが、どこから来たのか、と思っただけ。つまり、一夫一婦制というのは、国家が自分の都合のいいように決めたというよりは、もっと前から、非常に原始的な生活をしてた時から子どもを育てる責任を、誰と誰というふうに決める約束みたいなものとして作られたんじゃないか、と思っただけ。母親の場合はハッキリしてるんだけど、男の場合ね、仮に乱交していても分らない場合でも、クジ引き

《とらわれた関係とは……》
 名「いよいよY子さんの番だね(笑)」
 中「みんなストレスの話してるんだから、しゃべっちゃいなさいや(笑)」
 Y「今日は話準備はしてこなかったから……」
 名「考えてみると、ちゃんと家庭を営んでるのは……」
 宮「あ、またそんな言い方をしている。マイナス50点(笑)」
 名「そうか(笑)。教科書的に健全な家庭は、Y子さんやK子さんのところでしょう?」
 Y「じゃ、時間ムダにしちゃう悪人の中には、セックスなんて握手の延長みたいなものじゃないかって言う人もいるわけね。映画の話して、一緒に観に行きたいねって話になった時に、中「冷戦状態が続いてるの?どれぐらいいい?」
 Y「うーん、もうかなり長い」
 名「こないだ電話したとき、つれあいの、怒ってたね」
 Y「ええ、私は男の人と映画観にいったりするの何のこだわりもないんだけど、うちの会社の人ってみんなね、男と女が映画や展覧会観にいったりするのは愛情関係と結びつけちゃうの。だから、私が名取さんやますのきさんと話してると、すごく不気味になるわけ。それで私も夫がいる時とない時で多分応答の仕方がうんじやないかかって思う。自由になれないわけ。宮「彼の方はどうなの?女の人とつき合わないの?」
 Y「そう、つき合わないの。それでね、昨日も会社の人「あ、あ、あ、あ」と私を呼んでね。昔会社でいた女の人と夫が一緒に歩いてるの見たって言うの。それでその時、夫はともすればうだつたって言うわけ。「これは用心した方がいいよ」って。私は「男と女の間をそういうふう風にしか見れないなんて、あなたも可哀そうね」って答えたけど、「あとで泣きを見て知らぬまいよ」って言うの。とにかく、全体がそういうふうなのよ。だから、こないだのWeの合宿の写真なんかね、隠してるの



●反戦チェンカード
 表書きの下に反戦メッセージがあり、知人5人にこのハガキを出して下さい。そうしないと……とのめかして、裏には臨時召集令状(曾つての徴兵用の赤紙)が印刷されている。
 10枚一セット三〇〇円(送料込み)。申込み先は東京都渋谷区渋谷2・5・9・五〇二号 21世紀夢工房・反戦チェンカード制作本部(☎03・四〇九・三三四四)
 ●共同保育ゴタゴタ荘より
 保育専従と産休代替(来年5/7月)でできる人募集中です。
 練馬区東大泉「ゴタゴタ荘」
 ☎03・九二一・四三九〇
 ●第三回銃後史ノートのついで
 (女たちの12月8日)
 「隣組相互監視の網の目」加藤朱美「非国民と呼ばれた女たち」大宮ゆき
 12月11日(土)2・5時
 於 渋谷 山手教会
 参加費 四〇〇円
 連絡先 ☎03・四六八・七三・九七二 (鈴木)
 ※なお、銃後史ノート7号発売中。川崎市多摩区生田8・21・13加納方「女たちの現在を問う会」発行。送料共二二五〇円。

「仕事でも遊びでも区別ないんじゃない?」
 名「だって、Weの合宿なんか男と女と言ったって団体でしょう?それもダメなの?」
 Y「うん、大体そういうところへ来る男は、っていう目で見ちゃうわけね」
 ま「たしかに、自分もつき合ってたければ、そういう考え方になっちゃうだろうね」
 Y「だからね、妻が自分の知らない世界を持つのは非常にイヤなわけ」
 ま「その話、部分的にほくも分るのね、さつき言ったように政治運動から離れて落ちこんでいた時期があったね、その頃、彼女の方は地区活動でしょっちゅう若い男たちがうちに来るわけ。自分は落ちこんでいるから、自分が面白くないのね。で、そんなことでモヤモヤしている自分がまた情ないわけ。それで、もっと自分も活き活きしなければと思って、世界をひろげる努力を始めたんだけどさ。だから、自分を解き放つてないと、相手もしばりたくなるんだね」
 名「うちのパートナーもそういうところあるみたい」
 宮「こないだ、取材でもう一人の女の人と一緒に自宅に泊ったでしょう?ああいうのもダメなの?仕事でも?」
 名「仕事でも遊びでも区別ないんじゃない?」
 ま「理屈以前のものじゃないかな?」
 名「だから、相手が楽しそうだし、自分は置いていかれた、みたいなところあるみたい」
 ま「多かれ少なかれ、閉鎖性をもつんだよ」
 S「私が今日、興味をもって来たのは、親との関係でね。彼の父親がガンで先が短い、彼は長男だし、経済的なこともあるけれど、やっぱり彼がめんどろみなのね。だから、ぼく自身年をとってからも、子どもや、まして子どものつれあいに、内心のやいやで世話してもらったという関係を絶対つくりたくないと思う。年寄りにしたって、子どもにも世話してもらおうのはい見栄さうだけだし、かえってボケていくことになると思うのね。親切がかえってアタになるケースも多いわけで、冷たいようにだけ、つき離れて自力で生きていく方向を考えた方がいいんじゃないのかなあ?」
 (次号につづく)

丙十舞雅里つれづれ



14 斑鳩日記 門野晴子

「処女出版おめでとう」「ステキな処女作ね」と反響が届く日々。何というヒワイさよ。メソタムむいてイカるほどではないけれど（何せお買上げいただいたお読みいただいたのだから。つまり、彼女らの財布と時間を私は搾取したのである。今さらながら、生活文化に密着している処女崇拜主義にうなるサマ。

処女峰、処女飛行をはじめとして、男が初出版しても処女作とはこれいかに。しこうして拙著「わが家の思春記」を「童貞作」と息まぐゆえんとする。何もしゃりなくとも自然分娩で出る人は出てしまおうのに、ド素人となれば難産は覚悟の上で、大勢の介添人ならぬ女たちに励まされけしかけられ、ほぼ一年の陣痛と闘った「初体験」。

みどり児を抱きしめたとき、祝福の第一声は「装丁がいいね。実にいい。配色がバツグンだよ」とは、いい加減におおげよ。ま、テキはテレているのはわかるが、不思議なことに私は何ともないのに、娘や舅までテレしてしまう。この話題にふれるのを避けている。テレ遣伝か？

息子は東京に離れているせい、手紙で素直な感想。「執筆中はテレとミエがあつていろいろ言つたが、でき上がつてみると最高！この一言につきるとやっぱりテレしていた。たまりかねて娘に催促した日。「ねえ、読んでくれた？」「読まないよ、絶対に読まないよ。恥ずかしいんだよ」

ある日は学校から帰るなりホヤク。「斑鳩の本屋では中高生が立ち読みして動かないよ。オレ、恥ずかしい」

恥ずかしいを連発されて、そ

うか、「わが家」のことを書くなんて恥ずかしいのか、と初めて恥ずかしくなつた。だが、迷惑だよ、と言わないところがケナゲじゃないか。

何をやってもモトだけはちゃんと取ってきたのに、子育てだけはワリの合わない仕事だな、と思つたときの出版で、これでも子育てもモトが取れるとニヤリとした。転んでもタタで起きぬのが「戦後の擬似民主主義」世代の哲学だ。恥ずかしいくらい何だよ、と娘に言おうとしてやめた。フン、ゼネレーションギャップだよ、なんて返つてくるのが関の山だもの。

一度、字数制限なしの原稿を書いてみたかった。だが、山のような出版物の中にあえて一冊割りこむ意義は何だろうか。私のほうにはそれなりにあるが、社会的レベルとしてではなく（そんなことを考えたら書けないし）読み手にとつてのそれがあつたや否やをつかむのはカケのようなものだった。

まず友人、知人から反響が届く。これは本を読み馴れている人たちだ。夫婦、親子で読んだというのが多く、うれしかった。通勤電車で読んでいて乗り過した、風呂の薪をくべながら読んで煮えた立世朝風呂に入った、夫のほうで読んで学校を遅刻したのの忘れにしまった（何でしようネ？）ナンテ賑々しくもうれしい反響が続き、いざいざ一オクターブ高い「祝儀」。

本場に親切な辛辛入りの感想は一通だけというのがやや不満、拙著のせいではなく、夏休み

以来わが家は落ち着かない。息子の友人だけでなく、娘の軽音部の高三の男子どもが始終入りし、休日の前夜はメソダ、菓子だ深夜まで実に楽しそう。私も入れてもらえるから、サーピスまでできるだけ努める。

彼らが10ヶ月払いで拙著を買つてくれ、しかも一気に読んでしまった、こんなこと初めてやという。どう読んだかは省くがほどなく「高校生ゼロ冊56%」という記事が新聞の一面に出たとき、「カケ」が見えた。彼らも56%の中に入る「活字嫌い」の現代子である。

その後未知の読者から手紙をもらう。赤児を育てながら、あるいはパートに出ながら、一気に読んだ、こんなこと久しぶりです、とあつた。ああ、よかつた、私が書いた意義があつた本を、一気に読み上げる快感を味わう、それで十分だと思つた。

「あなたが悪いんじゃないわ。ここにはモデルがいらないの。思春期のあなたたちに影響を与えるべき教師も死んでしまつてしまふ。だから外へ出ることも、もうすぐじゃないの。それになは19才よ、これからだわ。私が今のA君と同じ気持ちになつたのは30才だものね。オクテもいいところ。30代はシッチャカメツチャカだったのよ。今もハチャメチャ、これからも多分ネ、高校生を「活字嫌い」にさせたいはずだ。ついでに、もつと安くていいはずだ。「活字嫌い」やコマギレ時間の主婦のために、出版社も執筆者も頭を入れ替えないと、自ら首をしめることになるのでは？」

「あなたが悪いんじゃないわ。ここにはモデルがいらないの。思春期のあなたたちに影響を与えるべき教師も死んでしまふ。だから外へ出ることも、もうすぐじゃないの。それになは19才よ、これからだわ。私が今のA君と同じ気持ちになつたのは30才だものね。オクテもいいところ。30代はシッチャカメツチャカだったのよ。今もハチャメチャ、これからも多分ネ、高校生を「活字嫌い」にさせたいはずだ。ついでに、もつと安くていいはずだ。「活字嫌い」やコマギレ時間の主婦のために、出版社も執筆者も頭を入れ替えないと、自ら首をしめることになるのでは？」

右の高校生には明らかな変化が起きた。私の書棚の本を借りていく男子が出る。異性と音楽ばかりの話題に、教育問題や社会問題が入る。内申書裁判・教科書裁判の話も聞かされた。

息子に似たA君、中浪した高三なのも息子と同じで、私も娘もオメガの子。ついに母娘で男を取り合うようになったかと苦笑。彼は一人て来宅するようになった。ナイショだが、話こんで泊まつていく日もある。誰にナイショかといえ、彼の高二のGFにだ。

娘と話していると年上の人と話しているようや、と言つた。おバサンとは何よ。お姉さんと言いなさい。娘がブツと吹き出す。「おねえ……お姉さんみたいな大人に僕はなれるのだから、それで十分だと思つた。」

本風舎の書棚でこの書名を見た時、ロシアとあつたのがまず気をひいた。学生の頃に「裏切られた革命」等を通り過ぎてきたから、幻想は持つていなかったけれど、これ程までにひどいとは思わなかつたのだ。ソ連という社会主義体制下の庶民の日常生活、特に女子供、「社会的弱者」達への差別抑圧の実態が具体的に苦汁ともに吐き出され、無数の呻きや悲鳴が聞こえてくる。

保育労働者として受けたショックは、例は次のような事だ。「我が国の保健管理機構でも、保育所と幼稚園は最も破壊的な施設である。看護婦と保育士それぞれ一名で、二五〜三〇人の子供の面倒をみる。彼女達は保育所にある目的を持ってやってくる。子供の生命にかかわる食料を掠め取るのである。肉81/58。乳製品およびミル



女性とロシア

(評者) 江奈珂川

肉の量を半分にしてパンで引きのばし、牛乳は水で薄める」「子供達に対する衛生基準はでたらめだ。女の子が身体を洗つてもらふことなどめつたにない」「子供達が病気になるようにと実際に窓を開け放し」「保育所に入れたとたん病気になる」「これらの施設での労働力不足と離職率の高さは低賃金に由来する」。これが育児の社会化・国営保育所に於ける真の姿だ。

ポーランドの反政府闘争が深刻な食糧事情の悪化を背景にしているのは良く知られていて、だが、ユーリアは言う「私達に言わせれば、なんとポーランドの人びとは短気なことだろう。国民一人当りの消費量（kg/年）を公式資料に基いて表わす（上）ポーランド。下）ソ連」

又、居住地を自由に選択することができないこと、「定住許

「あなたは悪いんじゃないわ。ここにはモデルがいらないの。思春期のあなたたちに影響を与えるべき教師も死んでしまふ。だから外へ出ることも、もうすぐじゃないの。それになは19才よ、これからだわ。私が今のA君と同じ気持ちになつたのは30才だものね。オクテもいいところ。30代はシッチャカメツチャカだったのよ。今もハチャメチャ、これからも多分ネ、高校生を「活字嫌い」にさせたいはずだ。ついでに、もつと安くていいはずだ。「活字嫌い」やコマギレ時間の主婦のために、出版社も執筆者も頭を入れ替えないと、自ら首をしめることになるのでは？」

二つには、友人同士の気安さから、注釈や説明ぬきにしゃべつてしまふ部分が多く、それがホンネの面白さでもあるわけですが、同時にスキだらけとなつて、攻撃にさらされやすいことにもつながります。誰だって攻撃されるのはイヤだから、匿名にしたたり、タメエだけで済ますことが多いのですが、それではいつまでもたつても、ホンネのことは隠されたまま過ぎてしまふ。左翼新聞のつまらなさも、そういうところ起因するわけ、本紙としてはタメエ主義を突破したいのですが、そのストレスの線が大変難しいことも改めて痛感しました。

三つめ。例えば名取さんがホテルに行つた話は、実は結婚前の事で、その女性とは今も友人

編集後記

◆座談会の反響、ひとこと通信のせた以外にも沢山ありました。それもひとりひとり視点がちがつていて、とても賛否両論など種類などできないのですが、編集者としてはかなり複雑な思いで受とめています。

一つは、座談の雰囲気活字で伝える難しさ。例えば、「話の方が可笑しかったのか」「話の真意が可笑しかったのか」読者には分りにくいことがありますが、

二つには、友人同士の気安さから、注釈や説明ぬきにしゃべつてしまふ部分が多く、それがホンネの面白さでもあるわけですが、同時にスキだらけとなつて、攻撃にさらされやすいことにもつながります。誰だって攻撃されるのはイヤだから、匿名にしたたり、タメエだけで済ますことが多いのですが、それではいつまでもたつても、ホンネのことは隠されたまま過ぎてしまふ。左翼新聞のつまらなさも、そういうところ起因するわけ、本紙としてはタメエ主義を突破したいのですが、そのストレスの線が大変難しいことも改めて痛感しました。

三つめ。例えば名取さんがホテルに行つた話は、実は結婚前の事で、その女性とは今も友人

可証」や「制限付き居住許可証」の世界中に広まった矯正労働収容所、監獄、精神病院でも女なるが故の屈辱や虐待には背筋が寒くなる。「売春」「非行」「寄食者」「働かしていない罪」、宗教活動、体制批判等理由はKG B秘密警察が決めた数だけ。その数55万人と報告され内女性囚は50万人を下らないと言われ資料の真偽性については、反対派の女びとは自分を守るために絶対嘘をつけない、という指摘があつた。命かけたロシアの女達の呼びかけにどう応えるべきか。（亜紀書房一五〇〇円）